

## 平成27年度入学式の挙行 平成26年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙行 本学永年勤続者表彰に81氏

お知らせ

- ・ 学生会館七大学展示コーナー「北大ブース」のリニューアル
- ・ 平成27年度 人間ドックの実施について





学位記授与式



入学式

## 全学ニュース

- 1 平成26年度学位記授与式の挙
- 3 総長告辞（学士学位記授与式）
- 5 来賓祝辞（学士学位記授与式）
- 7 平成27年度入学式の挙
- 8 総長告辞（入学式）
- 10 平成26年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙
- 13 本学永年勤続者表彰に81氏
- 15 名誉教授に39氏
- 16 北大フロンティア基金
- 18 平成27年度北海道大学の予算
- 20 平成26年度北海道大学鈴木章科学奨励賞  
－自然科学実験－表彰式を挙
- 21 平成26年度北大えのむ賞授与式を挙
- 22 平成26年度北海道大学大塚賞授与式を挙
- 23 平成26年度クラーク賞表彰式を挙
- 24 平成26年度 北海道大学企業研究セミナーを開
- 25 「北大発ベンチャー促進懇談会～サッポロバレーから学  
ぶ北海道の創業支援策～」を実施
- 26 研究者のためのスキルアップセミナー④「研究者のため  
の思考整理術」を開
- 27 教職員国際化セミナーを開
- 28 インドネシア及び北海道で「大学の世界展開力強化事業」  
採択事業の基礎科目を開
- 29 ザンビアで留学コーディネーター配置事業を開始
- 30 短期留学プログラム「一般教育演習（フレッシュマンセ  
ミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」を欧州と  
アジアで実施
- 31 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子理工学グローバ  
ルステーションが第2回シンポジウムを開
- 32 国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グロ  
バルステーションが公開セミナーを開

## 部局ニュース

- 33 「北極域研究センター」を設置
- 33 「埋蔵文化財調査センター」を設置
- 34 農学院・農学研究院・農学部と国際農林水産業研究セン  
ター（JIRCAS）が研究開発・教育に関する連携・協力  
協定を締結
- 35 工学研究院がアイルランド国立ダブリン工科大学と部局  
間交流協定を締結
- 36 公共政策学連携研究部が台湾 国立金門大学社会科学院と  
学術・教育交流協定を締結
- 37 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターがシ  
ンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民  
社会対話」を開
- 37 メディア・コミュニケーション研究院で国際シンポジウム  
「ボーダーレス時代の互恵的第二言語教育－多元的言  
語学習環境の創造」を開
- 38 国際広報メディア・観光学院で優秀学生「舞台は地球」  
賞の授賞式を挙
- 39 国際広報メディア・観光学院が北京・上海で留学説明会  
及び同窓会を開
- 40 国際広報メディア・観光学院が台北で留学説明会及び同  
窓会を開
- 41 平成26年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程共  
同FDの開

- 42 理学院・理学研究院・理学部等で平成26年度FD合同研  
修会を開
- 43 文学研究科・文学部でハラスメントに関するFD研修を開
- 44 薬学研究院が第5回薬学研究院研究発表会（FD研修会）  
を開
- 44 薬学研究院でトップコラボ講演会「難治性疾患に対する  
創薬研究におけるオックスフォード大学との連携」を開
- 45 水産科学院各種表彰授賞式を挙
- 45 水産学部キャンパス移形式及びびくろしお賞授賞式を挙
- 46 総合化学院創設5周年記念事業を開
- 47 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターで教職高  
度化フォーラム「北海道大学における教職課程の役割と  
今後に向けて」を開
- 48 環境健康科学研究教育センターが国立保健医療科学院と  
の共同フォーラムを開
- 49 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第11期修了生に  
修了証書授与
- 50 附属図書館で国立大学図書館協会北海道地区企画事業  
「情報発信力スキルアップワークショップ」を開
- 51 北海道大学病院で新卒者多職種合同歓迎会を開
- 51 北海道大学病院でひまわり分校開校
- 52 スラブ・ユーラシア研究センターのグローバルCOEプロ  
グラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世  
界」が最高評価

## お知らせ

- 53 学生会館七大学展示コーナー「北大ブース」のリニュー  
アル
- 54 平成27年度 人間ドックの実施について

## 博士学位記授与 55

## 同窓会との交流

- 75 北海道大学インドネシア同窓会を設立、ジャカルタで同  
窓生懇談会を開
- 76 北海道大学タイ同窓会を設立、バンコクで同窓生懇談会  
を開
- 76 北海道大学函館同窓会「総会及び懇親会」

## 諸会議の開催状況 77

## 学内規程 79

## 表敬訪問

- 93 国内
- 93 海外

## 人事

- 94 人事
- 116 新任理事・副学長・部局長等紹介
- 119 理事・副学長・部局長等（再任）紹介
- 122 新任教授紹介
- 127 新任部課長等紹介

## 資料

- 131 平成27年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 132 平成27年度入学者の都道府県分布及び地域比率

表紙：「大学の世界展開力強化事業」採択事業（関連記事28頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景<sup>㊤</sup> 車窓に映る夕日



## ■全学ニュース

# 平成26年度学位記授与式の挙行

平成26年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代

平成26年度学士学位記授与式を3月25日（水）に、本学第1体育館において執り行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,281名を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

山口佳三総長は卒業生への告示の中で、「時代に流されないしっかりとした指針を持って人生を歩み、その際、2つのことを是非、心に留め置いてほしい」ことを述べました。1つ目は、「生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけること」であり、「自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていける」こと、「学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり、フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてほしい」ことを述べました。2

つ目は、「これからの人生を、常に社会と向き合って歩む」ことであり、「これからは、自分を育んでくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを問い続けてほしい」ことを述べました。

最後に、「夢と勇気と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております」とのはなむけの言葉が贈られました。

続いて、北海道大学連合同窓会会長の石山 喬氏から卒業生へ向けて、「自分自身の生きていく上での信念・理念を養って、どんな時でも前向きに進んでほしい」との言葉が贈られ、その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

また、翌3月26日（木）には、ロワジュールホテル函館において水産学部卒業生203名を代表し、各学科の総代へ水産学部長から学士学位記が授与されました。



告辞を述べる山口総長



祝辞を述べられる石山会長



会場の様子

平成26年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成26年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、第2体育館において執り行いました（水産科学院については翌日挙行）。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、14研究科等の修士課程修了者1,422名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者58名、経済学研究科会計情報専攻修了者22名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者41名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、16研究科等の博士課程修了者295名を代表し、各研究科等の総代へ、また、論文博士15名の各研究科等の代表へ、山口佳三総長から博士学

位記が授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

翌日の3月26日（木）には、ロワジュールホテル函館において、水産科学院の修士課程修了者88名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者12名に対し、山口総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号55ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	190
教育学部	56
法学部	217
経済学部	181
理学部	293
医学部	298
歯学部	47
薬学部	82
工学部	655
農学部	224
獣医学部	38
水産学部	203
計	2,484

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	96	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	58
法学研究科	7	経済学研究科会計情報専攻	22
経済学研究科	30	公共政策学教育部公共政策学専攻	41
医学研究科	19		
情報科学研究科	172		
水産科学院	88		
環境科学院	119		
理学院	128		
農学院	142		
生命科学院	113		
教育学院	35		
国際広報メディア・観光学院	45		
保健科学院	45		
工学院	328		
総合化学院	143		
計	1,510	計	121

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	16	0
法学研究科	3	0
経済学研究科	6	2
医学研究科	49	2
歯学研究科	39	0
獣医学研究科	8	0
情報科学研究科	30	0
水産科学院	12	0
環境科学院	13	1
理学院	13	0
農学院	22	2

研究科等名	課程博士	論文博士
生命科学院	23	2
教育学院	4	2
教育学研究科	1	0
国際広報メディア・観光学院	3	0
国際広報メディア研究科	1	0
保健科学院	9	0
工学院	34	4
工学研究科	3	0
総合化学院	18	0
計	307	15

## 学士学位記授与式

北海道大学総長 山口 佳三

平成26年度学士学位記授与式を迎えられました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、これまで皆さんを物心両面から支え、励ましてこられたご家族や関係者の皆様に対しまして、北海道大学の教職員を代表して心よりお礼とお祝いを申し上げます。

本日、晴れて本学の学士学位記を授与され巣立っていかれるのは、12学部合わせて2,484名です。このうち女性が769名、留学生が14名です。留学生の皆さんには、環境も習慣も異なる異国の地での生活は大変であったろうと思います。無事卒業の日を迎えることができましたことを心より嬉しく思います。

卒業生の皆さんが北海道大学で過ごされた4年ないし6年の生活は、いかがでしたでしょうか。皆さんの中の多くの人は、本学における総合入試での最初の卒業生です。皆さんは、1年生では、総合教育部で学部を超えた仲間との学びを経験されました。そうした皆さんが、入学前に抱いていた夢や希望あるいは期待は、実現できたでしょうか。夢はかなったという人、多くの友人を得たという人、クラブやサークル活動で充実した日々を過ごしたという人もいるでしょう。一方で、辛い思いをし、悩み、挫折を味わったという人もいるかもしれません。今、学士の課程を終え、卒業という区切りの時、これまで自分の歩んできた道を振り返る良い機会であろうと思います。

皆さんは、北海道大学の教育研究の基本理念が、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」そして「実学の重視」の4つであることをよくご存知だと思います。このような理念の下で学ばれた皆さんは、高邁な大志と国際的な視野を持ち、幅広い教養を通して、自ら考え行動できる能力を養ってきたはずです。このエルムの学園での学びの時を、振り返って、次のステップへの糧としてください。

さて、卒業後の皆さんは企業に就職する人、国や地方の公務員として働く人、専門的知識と技術を持って医療の世界へ進まれる人、あるいは大学院に進学される人など、それぞれの進まれる道での活躍が期待されています。また、皆さん一人ひとりが大きな期待と同時に若干の不安を抱かれています。

ここで、皆さんが巣立っていかようとしています社会の、この4年ばかりの状況を振り返りたいと思います。4年前の2011年3月には、後期日程入学試験の前日、東日本大震災が発生し、皆さんの中にも受験にあたって大変な時を経験された方もいらっしゃいました。それまで、リーマンショックによる世界的な経済の冷え込みのため、停滞を余儀なくされていた日本の社会は、さらなる困難の時を迎えました。その中で、被災者の振る舞い、阪神大震災の教訓をも生かした社会のいろいろな階層からの支援の取り組みは、日本の社会に前途への明るい光となりました。さらに、政権も変わり、2012年の末以来は、アベノミクスが登場し、経済的にも不況脱出の可能性が見えてきたとされ、今年に入ってから、さらに明るさが増してきたといわれています。しかしながら、同時進行に起こっています、日中韓の政治的摩擦、ウクライナ情勢とEUの経済危機、さらに中東情勢といった世界の政治状況が、日本国内の将来の動向を左右しています。

こうした状況の中でも、私は、皆さんが時代に流されないしっかりとした指針を持って、これから踏み出される人生を歩んでほしいと願っています。その意味で、今から述べる2つのことを是非、心に留め置いてほしいと思います。

その一つは、生涯にわたって学ぶ姿勢を身に付けることです。皆さんを取り巻く現代社会において、技術革新の流れは一段と速まり、ここ10年のITの発展は、通信手段、情報発信のありようを個人のレベルでも一新させました。それによって、皆さんが身に付けるべき素養・知識も一変したといえます。大学で学んだことも、これから大学院に進んで修得する学問・技術も、日進月歩で進化し、10年後にはもはや通用しない知識・技術となっているでしょう。ですから、皆さんは生涯学び続ける習慣を、必然的に身に付けなければなりません。そして、自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていけるでしょう。また、学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあります。フロンティア精神を持ってこれからの人生を切り拓いてください。

2つ目に、心に留めてほしいことは、これからの人生を、常に社会と向き合って歩むということです。皆さんは、これまで、それぞれの家庭、学校、学部という環境の

中で、生まれ、自己研鑽を積まれてきました。その歩みは、しばしば受け身的なもので、自己を見つめることに偏っていなかったでしょうか。そして、大学の学びの中で、自己を点検し、社会の中での立ち位置をも探し求めてこられたことと思います。そうした皆さんが、社会に踏み出さんとするこの時、これからは、自分を育ててくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを常に問い続けてほしいと思います。時代と共に、社会の様相は、絶え間なく変化します。その中であって、しっかりと自らの立ち位置を点検し、自らの進路を切り拓いて、社会との関わりを求めてください。そして、社会への貢献を常に意識してください。

本日、学位記授与式を迎えられた皆さんにとって、北海道大学での学びを通して得た知識や能力、課外活動等で得た経験、そして何よりも学生生活の中で得た、生涯の友となる友人は、これからの皆さんの歩みの糧であります。こうした糧を胸に、巣立っていかれる皆さんには、行かれた先に、学部ごと、あるいは、地域の北大同窓会もあります。こうした同窓生との交わりをも通して、母校である北海道大学のこと、皆さんの後輩のことも思い出してください。

最後になりますが、皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております。皆さんの母校である北海道大学もさらなる国際化と、「世界の課題解決に貢献する大学」たることを目指して挑戦することを約束して、告辞の結びとします。



## 学士学位記授与式

北海道大学連合同窓会会長 石山 喬

只今ご紹介いただきました、連合同窓会会長、42年卒業の石山です。

卒業式には初めて出席しましたが、女性の着物姿が華やかで、丁度冬枯れの山のあちこちにコブシや桜が咲き始めた時の景色のようでした。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年は2,484名の新しい同窓生を迎えることができ、私達同窓生にとっても沢山の新しい仲間が誕生した喜ばしい日であります。皆さんも、さあよいよ自分の能力を発揮し、大きな世界に羽ばたいていくぞと決意も新たにされ、またどんな人生が待っているのか少々不安も感じている日なのかと思います。私もそうでしたが、後々振り返ってみると、この北大のキャンパスで過ごした日々は、人生で一番平穏で心静かに過ごせた日々であったらと思います。

社会に出ますと常に大きな変動や変化に遭遇します。近年ではリーマンショック、東北大震災、尖閣列島問題による中国内における日本製品叩き等が起きました。100年に一度の不況と言われたリーマンショックの時には、私どもの会社では全ての工場の稼働率が20%まで下がってしまいました。通常、製造業では80%程度の稼働率を維持しないと安定した利益は確保できませんので、全社員の給料をカットし、身を縮め売れるものしか作らない体制を固めて過ごしました。幸い1年ほどで世界の経済も復活してきてほっとしたところに大震災がやってきました。その後は震災の影響で手に入らない部品の代替として色々な中国品が入ってきて、コモディティー品はかなり置き換わられてしまいました。

このような世界経済や政治による大変動や天変地異による大きな変化はいつ私達の上に降りかかってくるかわかりません。その様な時に、人は生きていく上で、またリーダーであれば、皆さんは必ずリーダーとしての役割を担っていくわけですが、その役割を果たしていく上で、自分の理念や信念を持つことが重要だと思います。

北大には大変素晴らしい4つの基本理念があります。私は仕事をしながらこの基本理念を読み返し、行動を検証しています。

「フロンティア精神」については「一般的に、営業は販売したことの無い物は売れない、工場は作ったことの無い物は作れないものですが、これでは事業は細ってしまうだけです。販売したことの無い物を売れる営業、作ったことの無い物を作る工場になろう」と言って常に社員の尻を叩いています。

「国際性の涵養」では当社も中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ、アメリカ、メキシコ等に工場を持っています。私の役割はもっぱらその地のパートナーのトップとお酒を飲んで、ウインウインの経営を行うための人間関係の構築です。先日も中国山西チワン自治区を訪問した時は、市のトップに大歓迎されて、朝から豚の頭蓋骨つきの焼肉を食べてきました。今年末には北海道にも新幹線が走るようになりますが、新幹線のボディーは殆どアルミでできています。私達はこの材料の70%以上のシェアを持っていますが、この材料のアルミはドバイから購入しています。ドバイまで自分で出かけていき、工場の秘密の部分も見せていただき、大変しっかりした操業を行っていたので、担当者に指示してテストを繰り返し、我々の必要とする合金に合わせてもらい購入するようになったものです。ドバイの社長とは砂漠のキャンプで食事をしながら、ベリーダンスを楽しんでいます。彼が、石山、あのダンサーと一緒に踊ったらと言いましたが、あんな踊りをしたらぎっくり腰になってしまうので、断って、あんたが踊って見せてよと言いましたところ、父親に見られたら撃ち殺されてしまうよということで、それはそうだなと二人で大笑いしたこともあります。私の国際性もこの程度ではありません。

「全人教育」は豊かな人間性をいかに養うかに尽きると思います。国際性にも通じますが、全ての人を大切にすること、そして、その人が大切に思っていることを自分も大切にすること。この心で接すればどこであっても、言葉は通じなくても人は仲良くなれるものだと思います。

「実学の重視」、これも非常に大切なことです。大学を卒業してきた人達は知識を学ぶことは上手ですが、その知識を述べた時、実際にそのようになるかが問題です。本当の道理を理解し実際に応用できるには現場での経験が大切です。特に後進国では、現場で問題を見つけその場で解決してあげると、あとは先生として尊敬されます。

私は若い時分にはつらい時、壁にぶつかった時は良く恵迪寮寮歌「津軽の海」を歌っていました。最近は「都ぞ弥生」も歌えないで卒業してきて、同窓会に入って初めて覚える人もかなりいますが、世界中どこに行っても、どんな偉い人でも、同窓生は「都ぞ弥生」を一緒に歌えば一発で全員が北大の学生気分に戻ってしまいますので、ぜひ「都ぞ弥生」を歌えるようにしておいてください。

東京国際フォーラムで鈴木章先生のノーベル賞受賞記念講演会を開催した時には1,300人の歌声が一つになって、会場の責任者が素晴らしいと驚いていました。

私は、「津軽の海の渦潮分けて、大き想いを北斗に馳する 若き心は北の自然に抱かれて今、野心培う」これを歌ってまた前向きに進もうと元気を出していました。

皆さんもぜひ自分の生きていくうえでの理念とか信念を養い、どのような時でも前向きに進んで行っていただきたいと思います。

また、どうぞ同窓会活動にも積極的に参加をしてください。今は若い人達が幹事を務めていますので、東京では年寄よりも若い人達が多い同窓会になってきました。

ご卒業誠におめでとうございます。

これで私のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 平成27年度入学式の挙行



総代による入学者宣誓

平成27年度の入学式を、4月8日（水）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

式は、来賓の連合同窓会会長 石山喬氏、読売新聞東京本社取締役論説委員 竹内政明氏、米国総領事館からの代表者、丹保憲仁元総長並びに役員及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、山口佳三総長から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、総長は告辞の中で、本学において人生における大きな宝物となる生涯の友を多く作ってほしいと述べました。

そして、本学の概要の紹介後、本学の4つの理念である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を学生生活を送る上で常に意識してほしいと述べました。

この中で、今後の学びの中で大いにチャレンジ精神とフロンティア精神を発揮して、自らの道を切り拓いてほしいこと、平成25年度から実施している「新渡戸カレッジ」や今年度から始まる「現代日本学プログラム」などを通して、これから必要不可欠となる世界の人々とのコミュニケーション能力を磨いてほしいこと、全世界から学生が集まる本学の環境の下、多くの友人と交わり、自らを省み、自己研鑽をして

ほしいこと、環境問題や経済問題、東日本大震災に伴う福島の原子力発電所等、現代社会が直面する問題の解決には科学技術、社会科学の最先端の知識が求められているため、常に自分と社会との関わりを意識してほしいと述べました。

そして、最後に、これから研究という誰も踏み入ったことのない領域を手探りで進む作業へ進むに当たり、自分流の学びの方法・姿勢を探し、確立してほしいと激励の言葉を述べました。

続いて、留学生37名を含む2,591名の入学者を代表して、片岡奈々さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学役員及び部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、本学卒業生であり、読売新聞東京本社取締役論説委員の竹内氏から「本学卒業生からのメッセージ」としてご講演いただき、引き続き新田孝彦理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンス、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「Sound Celebration」の合唱が行われ、すべての行事が終了しました。

（学務部学務企画課）



告辞を述べる山口総長



竹内氏から後輩へのメッセージ



新田理事・副学長によるガイダンス

# 入 学 式

北海道大学総長 山口 佳三

新入生の皆さん、北海道大学へのご入学おめでとうございます。北海道大学の教職員を代表して、皆さんの入学を心より歓迎いたします。また、今日まで、晴れて入学する皆さんの勉学と生活を支えてこられたご家族をはじめ、関係者の方々のお慶びもいかにばかりでしょうか。ご家族、関係者の皆様には、引き続き、新入生の本学での成長を温かく見守り、励ましてくださいますようお願い申し上げます。

さて、今年の本学への入学者は2,591名で、そのうち男子学生1,815名、女子学生776名であります。また入学者の中には、留学生37名、帰国子女4名がいます。この留学生の中には、今年度より新たに設置しました「現代日本学プログラム」課程の学生が16名含まれています。さらに、国内では、道内の出身者が980名、道外出身者が1,562名で、今年度は、入学者の中で道内出身者が37.8%となりました。このように、生まれた国や地域、育った環境も異なっている皆さんが、この日本一美しいキャンパスを持つ北海道大学で学び、課外活動やボランティア活動を通じ、お互いに競い、励まし合っていくこととなります。この北海道大学で生涯の友となるような友人をたくさん作ってください。それが皆さんの人生における大きな宝物となるでしょう。

さて、ここで北海道大学のこれまでの歴史を、簡単に振り返りたいと思います。本学は1876年、明治9年設立の札幌農学校に始まり、東北帝国大学農科大学を経て、大正期に北海道帝国大学となりました。そして、太平洋戦争後に北海道大学となり、文系学部を含む総合大学へと成長し、2004年4月、現在の国立大学法人北海道大学となりました。また、大学の規模も、国立大学の中で最も多い12の学部を持ち、18の研究科・学院等を有する我が国の基幹総合大学となっています。この間、2010年ノーベル化学賞受賞者の鈴木章先生のクロスカップリングの研究をはじめ、多くの優れた研究成果を生み出すとともに、社会に貢献する有為な人材を世に送り出してまいりました。

本学が法人化されるに際し、本学の教育研究理念として「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」それに「実学の重視」の4つを掲げました。これは創立時の教頭であったウィリアム・S・クラーク博士以来139年の歴史の中で醸成されてきた、本学の教育研究の基本姿勢をもとに決定したものであります。その意味で、北海道大学は、国立大学の中にあっては、めずらしく、建学の精神・理念を持った大学であるといえると思います。

さらに、一昨年度には、この4つの基本理念を踏まえた「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略（北海道大学近未来戦略150）」を策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を目指すべくその目標を掲げました。そして、北海道大学は現在、この戦略を具体的に実行する施策として計画し、昨年度採択されました、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業トップ型の、「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」構想によって、その目標の実現を図ろうとしています。この構想の推進により、本学は、教育研究を通して皆さんを、我が国のみならず、これからの世界を勇気を持って先導していくような、国際性豊かで、人格に優れ、Lofty Ambition（高邁なる大志）を持った人材に育てることを目標としています。

ですから、皆さんにも、これから始まる北海道大学での学園生活の中で、この4つの基本理念を常に意識してほしいと思います。

「フロンティア精神」は、まずもって、未知の領域を切り拓く精神です。先人の後を追うのではなく、まだ誰も手をつけたことのない新しい事柄に挑戦することです。北海道という土地柄も、多くの皆さんにとって、フロンティアであるでしょう。大学での学びの中では、高校までのように与えられた教科をこなすのではなく、何を学んでいくのか、自らの選択によって決めていく必要があります。そしてその選択は、自らの人生の方向を決めていくことでもあります。こうした学士課程の学びの中で、また課外活動等を含めた学生生活のなかで、大いにチャレンジ精神とフロンティア精神を発揮して、自らの道を切り拓いていってください。

「国際性の涵養」は、今日のグローバル化した社会の中では必然の要請です。IT、特にインターネットの発達には、情報伝達が一瞬にして世界を巡る環境をつくりあげました。そのため、一つの国での政治的、経済的あるいは社会的な動向が、すぐさま世界中に影響を与え合う国際社会となりました。こうした世界の中で、これからの人生を切り拓いていこうとする皆さんには、コミュニケーション能力が必要不可欠です。本学では、一昨年度より「新渡戸カレッジ」を立ち上げ、毎年200名（1年生は120名）の学生を選抜し、カレッジ生には、卒業までに、実践英語をはじめとするカリキュラムを用意して、日本及び異文化理解を深め、原則1セメスター以上の海外留学を義務付ける特別教育プログラムを開始しました。この「新渡戸カレッジ」

は、札幌農学校の第2期生であり、国際的に活躍された新渡戸稲造博士の精神を受け継ごうとするものです。また、このプログラムでは、北海道大学連合同窓会の協力のもと、国際経験豊かな同窓生が、カレッジ生のフェローとして、皆さんが国際社会に出ていくための様々な支援を行います。多くの新入生がこれに挑戦して、自らの新たな道を切り拓いてくれることを期待しています。さらに、本学では、4月より「現代日本学プログラム」課程を開始し、毎年20名程度の留学生を学士課程に受け入れ、当初2年間は「新渡戸カレッジ」との合同となる英語による授業を開講し、この2つのプログラムによって、本学の「バイリンガル・キャンパス化」を図ろうとしています。また、スーパーグローバル大学事業の一つの取り組みとして、この夏には、北海道サマー・インスティテュートが開始され、海外から多くの研究者・学生が札幌キャンパスに集います。こうした多くの留学生との交流を通じて、皆さんの国際性が養われることを期待したいと思います。

次に、「全人教育」についてです。皆さんは、入学後の1年間を総合教育部に所属して、本学の教養教育である「全学教育科目」を学び、幅広い教養を身に付けるとともに、それぞれの分野の専門教育を受けるための基礎的な素養を修得します。そして、北海道大学には、日本全国から、いや全世界から、学生が集まります。先ほども触れましたが、今年の道内勢は、4割を切っています。その結果、北海道は広大な面積を有していますので、今年の新入生の7割以上が、親元を離れ自宅外通学を4月から始めるのです。これは、他の大学にはない、北海道大学ならではの環境です。このように、皆さんは、生まれた国や地域、育った環境も将来の進路も異なる極めて多様な仲間とともに、多くの人は初めて親元を離れ、勉学し、また課外活動に打ち込んでいくのです。皆さんが、この環境の中で、多くの友人と交わり、自らを省み、自己研鑽の場として活用されることを期待します。多くの先輩達が、本学でのこうした多様な仲間との出会いが、生涯の財産になったと述べています。この環境の中で、隣の友人のことを慮ることが、皆さんの受けるべき「全人教育」の出発点かと思えます。

そして、「実学の重視」についてです。札幌農学校の時代には、これは正に、日本の、そして北海道の農業に直接役立つ教育を施すことを目指す、ということであったかもしれません。しかしながら、我が国における基幹総合大学に成長した北海道大学にあっては、その意味合いは自ずと変化しています。近年、科学技術の進展と社会の発展のテンポは加速度的に増しています。そのため、現代社会が直面する問題、例えば地球温暖化を含めた環境問題、エネルギー問題、リーマンショック以降の経済問題、東日本大震災に伴う福島原子力発電所の問題等々、こうした問題に共通しているのは、どれも複合的な問題であり、その解決

には科学技術や社会科学の最先端の知識が求められることです。そのため、大学における教育研究も、常に現実社会と向き合うことが求められる状況となっています。皆さんにも、本学での学びの中で、常に自分と社会との関わりを意識していただきたいと思います。それが、現代の「実学の重視」の精神であろうと思います。

新入生の皆さんには、このように本学の4つの基本理念が、自らの学園生活にどのように関わるのか、常に意識していただきたいと思います。それと同時に、これから始まる皆さんの4年ないし6年のエルムの学園での学修の中で、一つの宿題を出したいと思います。それは、自らの学びの姿勢を確立するということです。

皆さんの高校卒業までの学習環境は、学校及び先生方、また保護者の方によって、良くコントロールされた、いわば与えられた、受け身の環境ではなかったでしょうか。皆さんがこれから学部・大学院へと進んでいく中では、さらに先人の歩みを辿るとともに、研究という誰も踏み入ったことのない領域を手探りで進む作業へと進んでいかなければなりません。そのためには、皆さんのこれまでの勉学姿勢を変える必要があるでしょう。皆さんは、小学校以来、物わかりの良い、先生のおっしゃることはすぐに理解する生徒であつただろうと思います。しかしながら、物事の理解には深さがあります。何事も表面的に理解してしまつて先に進んでは、人から教わるものがなくなった時、そこから一歩も進むことができません。皆さんは、ある事柄の説明を聞いて、何やら納得がいかない、腑に落ちないと思った経験があるでしょう。この時、この事柄にこだわって色々と考えていくうちに、ある見方に気づいて、突然、納得できた、腑に落ちた時、事柄の理解は深まっています。学問の世界では、人の説明、あるいは教科書の説明に対して、どうしてそうなるのかと自分流にこだわる中で、自分の物の見方が育ち、それが研究のきっかけにもなっていくものです。皆さんには、是非、自分流の学びの方法・姿勢を探し求めてほしいものです。また、技術革新が、日進月歩で進む現代社会にあつては、表面的な知識の蓄積は長持ちしません。その意味で、皆さんは生涯学び続ける習慣を、必然的に身に付けなければならないでしょう。そうした生涯の自分を支える学びの姿勢を北海道大学在学中に、確立してほしいと思います。

以上、新しく北海道大学での学園生活を始められる皆さんに、いくつかの希望と注文を述べさせていただきます。

皆さんが、これから踏み出される北海道大学での歩みの中で、良き友に巡り合い、良き師に恵まれて、自らの豊かな道を切り拓かれることを祈念申し上げて、入学式の告辞を結びます。



# 平成26年度「北海道大学総長賞」表彰式を挙



山口総長から教育総長賞代表者に表彰状の授与

3月11日（水）、学術交流会館小講堂において「教育総長賞」「研究総長賞」「教育研究支援業務総長賞」表彰式を執り行い、関係者列席のもと、山口佳三総長から被表彰者に、賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

教育総長賞・研究総長賞は、教育活動及び研究活動を通し優れた功績をあげた教員を、また、教育研究支援業務総長賞は、業務改善等の取り組みを通し優れた功績をあげた職員を顕彰することにより、本学の活性化と更なる発

展に資することを目的としたものです。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

## ◆教育総長賞 優秀賞

所 属	氏 名
文学研究科	佐々木 亨
理学研究院	エリザベス タスカー
先端生命科学研究院	芳 賀 永
メディア・コミュニケーション研究院	藤 野 彰

所 属	氏 名
メディア・コミュニケーション研究院	ピアーズ ウィリアムソン
工学研究院	小 林 幸 徳
遺伝子病制御研究所	高 岡 晃 教
高等教育推進機構	細 川 敏 幸

## 奨励賞

所 属	氏 名
文学研究科	加 藤 重 広
経済学研究科	高 井 哲 彦
医学研究科	渡 辺 雅 彦
〃	山 崎 美和子
〃	堀之内 孝 広
〃	今 野 幸太郎
歯学研究科	八 若 保 孝
〃	佐 野 英 彦
〃	有 馬 太 郎
情報科学研究科	村 井 哲 也
水産科学研究院	高 津 哲 也

所 属	氏 名
水産科学研究院	清 水 宗 敬
理学研究院	大 宮 寛 久
〃	藤 田 知 道
薬学研究院	前 仲 勝 実
〃	米 田 宏
先端生命科学研究院	中 島 祐
メディア・コミュニケーション研究院	ゲーマン ジェフリー ジョセフ
〃	高 見 敏 子
工学研究院	杉 山 隆 文
〃	藤 田 修



所	属	氏名
工学研究院		蟹江俊仁
〃		小川英之
〃		森 傑
〃		長野克則
〃		佐藤 努

所	属	氏名
工学研究院		秋山友宏
低温科学研究所		杉山 慎
遺伝子病制御研究所		清野研一郎
高等教育推進機構		池田文人

### ◆ 研究総長賞 優秀賞

所	属	氏名
文学研究科		仲 真紀子
医学研究科		渡辺雅彦
〃		白土博樹
獣医学研究科		石塚真由美
理学研究院		塚本尚義
薬学研究院		原島秀吉

所	属	氏名
先端生命科学研究院		西村紳一郎
〃		綾部時芳
〃		黒川孝幸
工学研究院		金子純一
電子科学研究所		太田裕道
触媒化学研究センター		福岡 淳

### 奨励賞

所	属	氏名
法学研究科		西村裕一
医学研究科		畠山鎮次
〃		石川正純
〃		大泉聡史
〃		阿部理一郎
歯学研究科		大賀則孝
獣医学研究科		迫田義博
情報科学研究科		齊藤晋聖
水産科学研究院		細川雅史
地球環境科学研究院		山下洋平
理学研究院		倉本 圭
〃		大宮寛久
〃		小林厚志
〃		堀内 涉
〃		渡邊 誠
薬学研究院		木原章雄
〃		佐藤美洋
〃		秋田英万
〃		美多 剛
農学研究院		志村華子
先端生命科学研究院		小布施力史

所	属	氏名
先端生命科学研究院		中島 祐
保健科学研究院		石津明洋
工学研究院		伊藤 肇
〃		忠永清治
〃		多湖輝興
〃		木村克輝
〃		橋本直幸
北海道大学病院		樋田泰浩
〃		河上 洋
低温科学研究所		グレーベラルフ
〃		西岡 純
電子科学研究所		西野吉則
〃		根本知己
〃		上野貢生
遺伝子病制御研究所		樋田京子
触媒化学研究センター		清水研一
〃		高草木 達
〃		原 賢二
〃		小林広和
量子集積エレクトロニクス研究センター		葛西誠也
人獣共通感染症リサーチセンター		高田礼人

◆教育研究支援業務総長賞（貢献賞）  
最優秀賞

技術部門 北海道大学総合技術研究会実行委員

優秀賞

事務部門 グローバル化事業推進室  
学務部キャリアセンター

技術部門 北海道大学病院診療支援部リハビリテーション部  
海事部門 水産学部 亀井佳彦・坂岡桂一郎・沢中和也

奨励賞

事務部門 附属図書館学術システム課システム管理担当  
北海道大学病院 堀川俊弥・江戸将人・角家由紀子  
情報環境推進本部情報推進課  
安全衛生本部 荒木素子  
技術部門 低温科学研究所技術部

技術部門 電子科学研究所 武井将志  
触媒化学研究センター 向井慎吾  
北方生物圏フィールド科学センター 伊藤欣也  
医療部門 北海道大学病院診療支援部検査・輸血部  
北海道大学病院診療支援部検査・輸血部生化学検査室

◆教育研究支援業務総長賞（提案賞）  
優秀提案賞

事務部門 総務企画部企画課 北野誉直

# 本学永年勤続者表彰に81氏



山口総長から表彰状の授与

平成27年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式を、3月31日（火）に学術交流会館小講堂で行いました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々81氏の代表として、法学研究科 教授 林

田清明氏に、山口佳三総長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで山口総長から、被表彰者の方々の北海道大学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第一会議室におい

て祝賀会が催され、被表彰者と山口総長はじめ関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

## 北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
学務部	西 田 久美子	法学研究科	松 久 三四彦
施設部	矢 部 輝 雄	〃	亘 理 格
〃	松 川 朋 実	〃	大 内 陸 美
附属図書館	片 桐 和 子	経済学研究科・経済学部	佐 藤 憲 尋
〃	首 藤 佳 子	医学研究科	三 輪 聡 一
〃	山 家 尚 子	〃	藤 田 博 美
文学研究科	小 野 芳 彦	〃	寺 沢 浩 一
〃	津 曲 敏 郎	〃	水 上 尚 典
〃	三 木 聰	〃	櫻 木 範 明
〃	真 弓 麻 実 子	〃	福 田 諭
文学研究科・文学部	久 保 修	歯学研究科	進 藤 正 信
法学研究科	岡 田 信 弘	〃	藤 沢 隆 一
〃	林 田 清 明	〃	瀧 田 裕 子
〃	白 取 祐 司	〃	奥 山 克 史
〃	鈴 木 賢	獣医学研究科・獣医学部	大 森 あ け み

所	属	氏名
情報科学研究科		野中秀俊
水産科学研究院		飯田浩二
〃		今野久仁彦
〃		高橋是太郎
〃		平石智徳
函館キャンパス事務部		当山千鶴子
〃		村木牧子
地球環境科学研究院		吉川久幸
〃		澤柿教伸
理学研究院		寺尾宏明
〃		茂木透
〃		高畑雅一
〃		野村一成
〃		利根川吉廣
〃		知北和久
農学研究院		増田清
〃		丸谷知己
〃		生方信
教育学研究院		間宮正幸
メディア・コミュニケーション研究院		堀田真紀子
保健科学研究院		三神大世
〃		高橋光彦
工学研究院		荒井正彦
〃		石政勉
〃		吉川信一
〃		佐々木一彰

所	属	氏名
工学研究院		成田吉弘
〃		森治嗣
〃		但野茂
〃		中村真人
工学系事務部		構野秀樹
北海道大学病院		橋本聡一
〃		奥原芳子
〃		川口由紀子
〃		奈良恵子
〃		山下洋子
〃		田中愛子
〃		三上香寿美
〃		木村理津子
〃		志水あゆみ
〃		高木敏彦
〃		東直登
低温科学研究所		河村公隆
電子科学研究所		辻見裕史
遺伝子病制御研究所		尾関祐一
北方生物圏フィールド科学センター		上田宏
〃		松岡典子
〃		瀬田尚利
〃		日置昭二
情報環境推進本部		折野神恵
サステイナビリティ学教育研究センター		田中教幸

(敬称略)



## 名誉教授に39氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月18日（水）開催の教育研究評議会において、次の39氏に対し名誉教授の称号を授与することが決定されました。

本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月3日（水）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

### 北海道大学名誉教授

小野 芳彦	（元大学院文学研究科教授）	寺尾 宏明	（元大学院理学研究院教授）
津曲 敏郎	（元大学院文学研究科教授）	茂木 透	（元大学院理学研究院教授）
三木 聡	（元大学院文学研究科教授）	高畑 雅一	（元大学院理学研究院教授）
岡田 信弘	（元大学院法学研究科教授）	野村 一成	（元大学院理学研究院教授）
林田 清明	（元大学院法学研究科教授）	増田 清	（元大学院農学研究院教授）
白取 祐司	（元大学院法学研究科教授）	丸谷 知己	（元大学院農学研究院教授）
鈴木 賢	（元大学院法学研究科教授）	生方 信	（元大学院農学研究院教授）
松久 三四彦	（元大学院法学研究科教授）	間宮 正幸	（元大学院教育学研究院教授）
亘理 格	（元大学院法学研究科教授）	小林 清一	（元大学院保健科学研究院教授）
三輪 聡一	（元大学院医学研究科教授）	森山 隆則	（元大学院保健科学研究院教授）
藤田 博美	（元大学院医学研究科教授）	石政 勉	（元大学院工学研究院教授）
寺沢 浩一	（元大学院医学研究科教授）	荒井 正彦	（元大学院工学研究院教授）
水上 尚典	（元大学院医学研究科教授）	吉川 信一	（元大学院工学研究院教授）
櫻木 範明	（元大学院医学研究科教授）	成田 吉弘	（元大学院工学研究院教授）
福田 諭	（元大学院医学研究科教授）	俣野 茂	（元大学院工学研究院教授）
進藤 正信	（元大学院歯学研究科教授）	黒川 一哉	（元大学院工学研究院教授）
飯田 浩二	（元大学院水産科学研究院教授）	太田 信廣	（元電子科学研究所教授）
今野 久仁彦	（元大学院水産科学研究院教授）	望月 哲男	（元スラブ研究センター教授）
高橋 是太郎	（元大学院水産科学研究院教授）	上田 宏	（元北方生物圏フィールド科学センター教授）
吉川 久幸	（元大学院地球環境科学研究院教授）		

## 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	16,853件	2,999,093,460円
基金累計額（3月31日現在）	教職員の寄附率	34.1%（1,337件/3,921人）

### 3月のご寄附状況

法人等6社、個人283名の方々から32,543,500円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

#### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社クレタ、寺田医院、北海道ガス株式会社、北海道軌道施設工業株式会社、北海道大学医学部保健学科看護学専攻第8期卒業生、北海道大学連合同窓会

#### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	厚谷 襄兒	井口 光雄	伊藤 隆宏	入澤 秀次	梅田 教生	王 天航
大泉 剛	大森あけみ	小内 透	小野寺満夫	小原 大和	埴山 雅秀	加藤 順司	金川 眞行
金本 式夫	河本 充司	川本 雅子	小林 楠時	斉藤 久	三升畑元基	清水 智之	杉田 弘也
杉山 英明	須田 孝徳	瀬名波栄潤	高橋 光彦	竹田洋一郎	丹野千枝美	土家 琢磨	寺澤 睦
富井 京子	豊田 威信	西 肇	八田 和夫	林 義貢	平位 和博	伏見 伸次	細川 敏幸
松岡 典子	宮本 功	山内 隆嗣	山口 淳二	山崎 賢司	山田 栄一	吉岡 正俊	吉田 広志

#### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

##### （法人等）

株式会社クレタ

##### （個人）

井口 光雄、大森あけみ、松岡 典子、山田 栄一、吉岡 正俊

## 感謝状の贈呈



北海道大学生協同組合 様（平成27年3月19日）



北海道ガス株式会社 様（平成27年4月10日）

## クレジットカードのご寄附について ～NEWS～

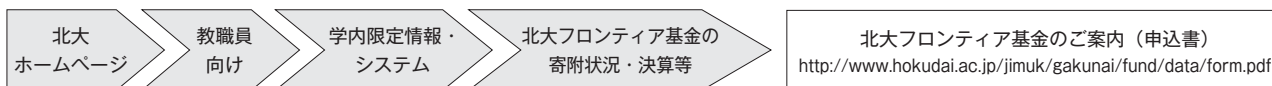
このたび北大フロンティア基金では、「クレジットカード決済によるご寄附」のご利用が可能となりました。ご寄附のお申込みについては、北大ホームページ「北大フロンティア基金 クレジットカードによるご寄附」(<http://www.hokudai.ac.jp/fund/creditcard.html>)からお手続きいただけます。

なお、この「お申込みフォーム」ご利用は、“個人によるご寄附”専用とさせていただきます。企業・団体からのご寄附のお申込みの場合は、下記事務局までご連絡・相談ください。

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

# 平成27年度北海道大学の予算

## 平成27年度北海道大学収入・支出予算書

(単位：百万円)

収入				支出			
事項	前年度 予算額	27年度 予算額	増減額	事項	前年度 予算額	27年度 予算額	増減額
[一般会計]	44,374	45,133	759	[一般会計]	44,374	45,133	759
運営費交付金収入	33,629	34,387	758	人件費	26,469	26,571	102
うち復興特別会計	3	2	△ 2	特別経費	1,352	1,611	259
学生納付金	9,656	9,666	11	特殊要因経費	2,934	3,825	892
雑収入	1,090	1,080	△ 10	退職手当	2,386	2,132	△ 254
				建物新営に伴う設備費	162	121	△ 42
				移転費	143	568	425
				P F I 事業維持管理経費	116	109	△ 7
				土地建物借料	1	1	0
				P C B 廃棄物処理費	0	879	879
				災害支援関連経費	110	0	△ 110
				船員保険事業主負担分調整費	16	16	0
				調整費	200	200	0
				特定経費	4,760	4,536	△ 224
				電子計算機借料	1,298	1,237	△ 61
				電子ジャーナル経費	629	646	17
				公租公課、保険料等	912	873	△ 39
				燃料費	902	823	△ 79
				評価反映経費	48	48	△ 1
				収入見合経費	963	918	△ 45
				目的積立金貸借分	8	△ 9	△ 17
				中期目標達成強化経費	1,000	883	△ 117
				総長室等事業推進経費	320	590	270
				基盤配分経費	7,340	6,917	△ 423
[病院会計]	29,182	29,217	35	[病院会計]	29,182	29,217	35
運営費交付金収入	2,702	2,591	△ 111	人件費	8,922	8,920	△ 2
附属病院収入	26,329	26,409	79	特別経費	524	446	△ 78
雑収入	151	217	66	病院診療経費	17,277	17,627	349
				うち設備費	1,479	1,116	△ 363
				債務償還経費	2,331	2,105	△ 226
				基盤配分経費	128	120	△ 8
[外部資金会計]	22,440	20,714	△ 1,726	[外部資金会計]	22,440	20,714	△ 1,726
施設費補助金等収入	3,153	1,086	△ 2,067	施設整備費	3,153	1,086	△ 2,067
うち復興特別会計	1,926	0	△ 1,926	保育園運営費補助金事業費	89	90	1
保育園運営費補助金収入	89	90	1	直接事業費	16,749	17,092	344
寄附金収入	2,169	2,030	△ 139	寄附金事業費	2,114	1,983	△ 131
受託研究収入	4,515	4,929	414	受託研究費	3,839	4,229	390
共同研究収入	1,007	1,148	142	共同研究費	918	1,054	135
受託事業収入	557	607	50	受託事業費	548	595	47
大学改革補助金等収入	3,431	3,484	53	大学改革補助金等事業費	3,431	3,484	53
文部科学省科学研究費補助金	6,797	6,720	△ 77	文部科学省科学研究費補助金	5,274	5,211	△ 63
厚生労働省科学研究費補助金	554	563	9	厚生労働省科学研究費補助金	475	482	7
その他助成金等	167	56	△ 111	その他助成金等	149	55	△ 94
				間接経費	2,448	2,445	△ 3
				総長室等事業推進経費	1,234	1,214	△ 20
				部局配分経費	1,215	1,232	17
合計	95,997	95,064	1.0%減 △ 933	合計	95,997	95,064	1.0%減 △ 933

※項目ごとに四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

(その他繰越金等：平成26年度末見込み)

前中期目標期間繰越積立金	278百万円
寄附金	7,216百万円
計	7,494百万円

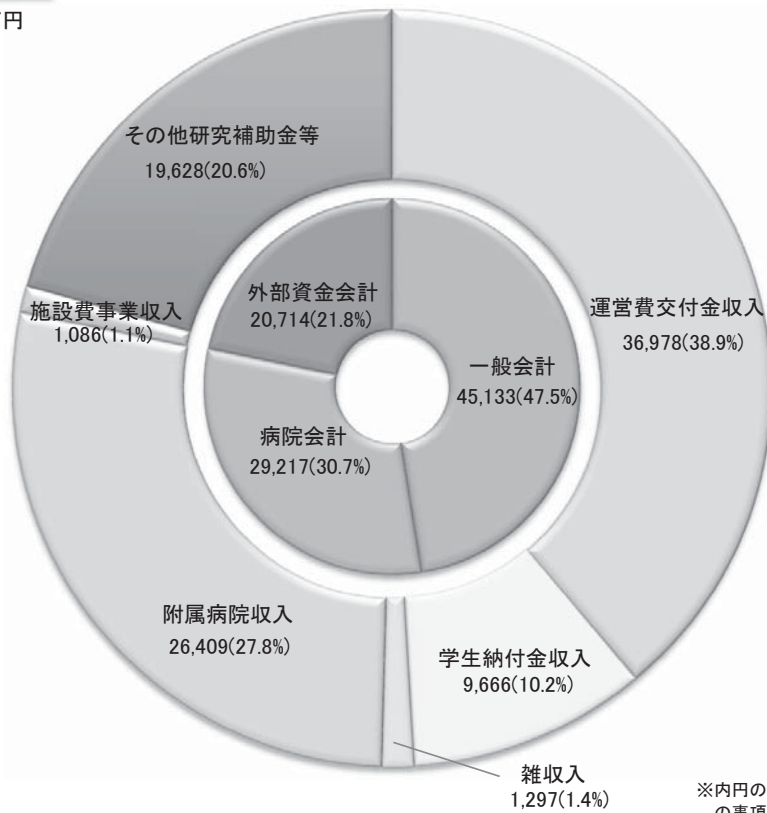


平成27年度北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

収入予算 全体

95,064百万円

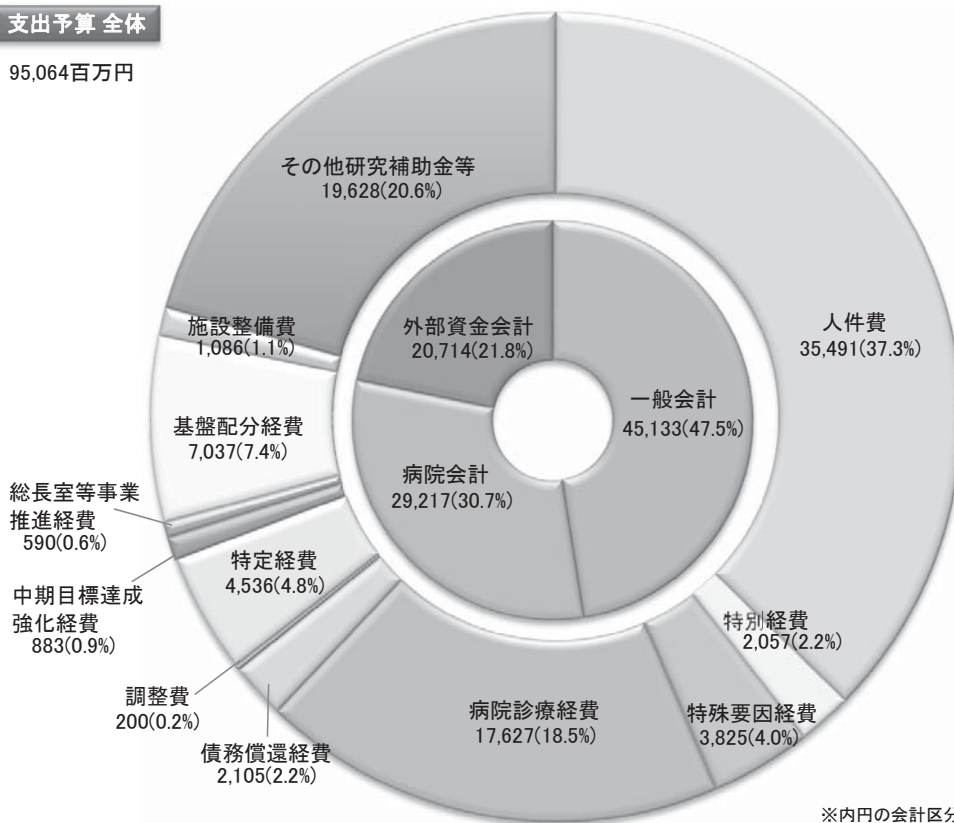


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

（単位：百万円）

支出予算 全体

95,064百万円



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

# 平成26年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式を挙



記念撮影



賞状の授与

3月18日（水）、高等教育推進機構小会議室において、平成26年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式を挙りました。

この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、新田孝彦高等教育推進機構長、鈴木久男総合教育部長、西田久美子学務部長の列席の下、新田高等教育推進機構長から7名の受賞者のうち

2名の欠席者を除く5名に賞状が授与されました。

続いて新田高等教育推進機構長から、鈴木章名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしていきました。

(学務部学生支援課)

## 受賞者

### 第1学期受賞者

- 20組 三谷 拓 巳
- 29組 橘 田 真 理
- 29組 小 池 優

### 第2学期受賞者

- 34組 宮 本 大 輔
- 35組 小 林 珠 代
- 47組 川 名 桃 子
- 51組 渡 邊 大 輝

## 平成26年北大えるむ賞授与式を挙行



授与式記念写真

3月24日（火）、総長室において、平成26年北大えるむ賞の授与式を行い、山口佳三総長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を図ることを目的として創設されたも

のです。

本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績を修め、課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導などに優れた評価を受けたものなどに対して表彰しているもので、今回は、応募のあった12件から6

件が決定されたものです。

引き続き懇談会が催され、山口総長と受賞者の和やかな歓談の後、総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

### 受賞団体・個人と受賞理由

#### ◆ 団体

- 北大カーリングサークル  
「第23回日本ジュニアカーリング選手権大会」において優勝し、「パシフィックアジアジュニアカーリングチャンピオンシップ2015」に日本代表として出場。
- 工学部機械知能工学科チーム  
「第13回流れの夢コンテスト」にて、個人で最優秀賞（第1位相当）及びチームで一樹賞（第2位相当）を独占。
- 恵迪寮自治会士幌小屋チセ・フレップ運営特別委員会  
北海道士幌町にて、同町教育委員会と連携をしながら、小学生を対象とした「学習サポート塾」を開催し、地域への貢献に努めた。
- エレガントスキー部  
「第41回全国学生岩岳スキー大会」基礎スキーの部において、男子総合第1位及び女子団体演技第1位を獲得。

#### ◆ 個人

- 東坂 博樹  
「2014年少林寺拳法全国大会in埼玉」にて優秀賞（第2位に相当）を獲得。
- 廣田 周  
「All Japan Debating Tournament 2014」にて第1位を獲得するなど数多くの英語ディベート大会にて優秀な成績を残したほか、海外での大会に日本代表として参加。

# 平成26年度北海道大学大塚賞授与式を挙



記念撮影

3月24日（火）、総長室において、北海道大学大塚賞授与式を挙

式しました。大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は平成26年度内の博士課程修了予定者6名及び既修了者4名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には山口佳三総長、大塚榮子名誉教授、新田孝彦理事・副学長、西田久美子学務部長の列席の下、山口総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、大塚賞受賞者講演会が事務局大会議室にて開催され、今年度受賞者代表並びに平成22年度受賞者の研究紹介及び講演があり、最後に大塚名誉教授から講評と激励のお言葉をいただきました。

引き続き交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しています。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



交流会の様子

## 受賞者

経済学研究科	馬 嘉 繁	医学研究科	菊 池 穂 香
総合化学院	小 境 夕 紀	生命科学院	荒 江 祥 永
総合化学院	大 岡 敦 子	生命科学院	山 内 順
水産科学院	美 野 さやか	環境科学院	對 馬 あかね
水産科学院	石原（安田）千晶	情報科学研究科	榎 本 彩 乃



## 平成26年度クラーク賞表彰式を挙

3月24日（火）、平成26年度公益財団法人北海道大学クラーク記念財団クラーク賞表彰式がクラーク会館国際文化交流活動室において挙

行されました。クラーク賞は、成績優秀で他の学生の模範となる学部卒業者に対して、本学の推薦に基づき表彰される

ものです。表彰式では、同財団の中村睦男理事長から出席した41名の受賞者に対して、賞状と記念品が授与され、併せて、「クラーク賞を受賞したことを誇りに思い、社会で大いに活躍してください」と賞賛と激励の言葉が贈られました。

なお、水産学部では、函館キャンパスにおいて3月25日（水）に表彰式が

挙行され、出席した3名の受賞者に対して、安井 肇水産学部長から賞状と記念品が授与されました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



表彰式の様子

## 平成26年度 北海道大学企業研究セミナーを開催

学務部キャリアセンターでは、「平成26年度 北海道大学企業研究セミナー」を、北海道大学連合同窓会との共催により、3月1日（日）～31日（火）のうち20日間にわたり、クラーク会館において開催しました。

本セミナーは、就職活動を行う学生の地理的ハンディキャップの解消を目的に、学生が主体的に業界・企業研究を行い、“就職活動へ向けての礎をつくる”ことができるよう、平成16年度から毎年度開催している全国最大規模の就職活動支援イベントです。

本年度は過去最大の658社（昨年度：627社）の参加を得て、延べ33,796名（昨年度：36,387名）の学生が、企業の人事・採用担当者からの企業や業界に係る説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問等を行っていました。

また、留学生の採用を予定している企業による外国人留学生支援企画「留学生相談コーナー」には、122社に参加いただき、延べ327名の留学生が利用しました。

企業による説明終了後の夕方には、

企業の人事・採用担当者と学生との交流の場として「情報交換会」を毎日開催し、299社の担当者と延べ1,407名の学生が交流を深めました。3月13日（金）には、山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長が情報交換会に参加し、企業の担当者と学生の輪に加わって、打ち解けた雰囲気の中で懇談を行いました。

このほか、セミナー期間中に、特別企画として「公開模擬面接会」及び「外国人留学生就職セミナー」を開催しました。「公開模擬面接会」では、多くの学生の視線が注がれるなか、実践さながらの形式で面接が行われ、面接を受けた学生及び見学した学生は、

面接における留意点や課題を認識することができたものと思います。また、「外国人留学生就職セミナー」では、日本の企業で活躍している本学出身の先輩留学生から、就職活動での苦労話や仕事内容など様々な経験談について講話していただき、日本企業への就職を希望する留学生には、今後の就職活動に役立つ大変貴重な機会となりました。

なお、本セミナーは、各企業及び諸団体等の協力を得て開催しているもので、関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

（学務部キャリアセンター）



説明会で企業の説明を聞く学生



外国人留学生支援企画「留学生相談コーナー」で説明を聞く留学生



「情報交換会」で懇談する山口総長



特別企画「公開模擬面接会」で面接を受ける学生



特別企画「外国人留学生就職セミナー」で先輩の話聞く留学生

## 「北大発ベンチャー促進懇談会～サッポロバレーから学ぶ 北海道の創業支援策～」を実施

3月30日（月）、百年記念会館大会議室にて「北大発ベンチャー促進懇談会～サッポロバレーから学ぶ北海道の創業支援策～」を開催しました。

本学では、北大発ベンチャーの設立を促進するための支援制度を本年4月から順次始動します。この懇談会はそのキックオフとして実施したものです。本学産学連携本部（4月から産学・地域協働推進機構）が主催し、独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部の共催、経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会、公益財団法人北海道中小企業総合支援センター、一般財団法人さっぽろ産業振興財団、株式会社北洋銀行、株式会社東京大学エッジキャピタル、北海道ベンチャーキャピタル株式会社にご後援いただき、将来の北大発ベンチャーを支える各機関に本懇談会の運営をご支援いただきました。

懇談会では、産学連携本部長である川端和重理事・副学長の挨拶からはじまり、次に基調講演として「アベノミ

クス・成長戦略の中心施策：創業促進」のテーマで中小企業基盤整備機構の矢島敬雅理事にご講演いただきました。次に特別講演として「サッポロバレーへのファンレター 北大発ベンチャーの作り方と楽しみ方」のテーマで情報科学研究科の山本 強教授が講演を行い、その後パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは「生かせ！大学のシーズ！ベンチャー起業指南」をテーマとして、コーディネーターに産学連携本部の牧内勝哉副本部長、パネラーに工学研究院の金子純一准教授、国際広報メディア・観光学院の野口将輝氏、株式会社エヌビー健康研究所 代表取締役の高山喜好氏、投資会社Uni-Asia Holdings Limited 前会長の吉田一彦氏の4名を迎え議論を交わしました。

最後に、「北大の新しいベンチャー支援制度概要」と大学発ベンチャー等のインキュベーション施設である「北大ビジネス・スプリング」の説明を行いました。当日は、定員を大きく上回

る94名の方に参加いただき、改めて「北大発ベンチャー」の関心の高さを確認することができました。

懇談会終了後、各支援機関の個別相談コーナーを設置しましたが、学内研究者を中心に6件の相談があり、活発な意見交換が行われました。

4月から産学連携本部は改組・拡充し、産学・地域協働推進機構となり、新たに「創業デスク」を設置します。創業デスクでは、ベンチャー設立を考えている研究者及び学生と、各種支援制度を運営している支援機関とのマッチングを行います。また、平成27年度秋以降に北大発ベンチャーの認定制度を設ける予定であり、その窓口業務も担当します。

皆様のお問い合わせをお待ちしています。

◆産学・地域協働推進機構

産学推進本部創業デスク担当 須田  
E-mail : startup@mcip.hokudai.ac.jp  
電話番号 : 011-706-9559

（産学・地域協働推進機構）



川端産学連携本部長の挨拶



中小企業基盤整備機構理事 矢島氏



情報科学研究科 山本教授の講演



パネルディスカッションの様子

## 研究者のためのスキルアップセミナー④ 「研究者のための思考整理術」を開催

3月18日（水）、人文・社会科学総合教育研究棟において「研究者のためのスキルアップセミナー④」を開催しました。

本セミナーは、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキル向上のために、大学力強化推進本部と創成研究機構の共催で実施しているセミナーの第4弾となります。

今回は、アイネスト株式会社の倉橋竜哉氏に「研究者のための思考整理術」と題して、効果的に思考を整理しアイデアを豊かにするツールの一つとしてマインドマップを使う方法について、ご講演いただきました。

教職員・大学院生を中心とした70名の参加者は、倉橋氏の話に真剣に耳を傾け、また、講演の合間に行われた実習においては、時折笑顔もこぼれるなど、終始なごやかな雰囲気が進みました。

講演後に行われた意見交換では、時間が足りなくなるほどの活発な質問・意見が出され、会場は熱気にあふれて

いました。

アンケートの結果、参加者のほとんどが「満足」「まあ満足」という回答であったほか、スキルアップセミナーについて「もっと頻繁に開催してほしい」「番外編で長時間取ったりしても良いと思う」などの意見も数多く寄せられ、本セミナーへの関心の高さがう

かがえました。

大学力強化推進本部、創成研究機構では、これらの意見を元に、今後のセミナーの内容等について検討していきたいと考えています。

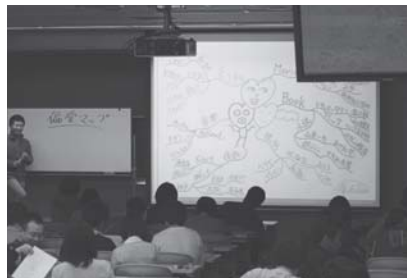
（創成研究機構）



会場の様子



倉橋氏による講演



実習の様子



## 教職員国際化セミナーを開催

世界の課題解決に貢献する大学を目標とする本学の構想「Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブ～世界に開かれ世界と協働～」(HUCI構想)が、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」タイプAに採択されました。今後10年間で世界の課題解決に貢献する大学となるために、これまで以上に国際化を見据えた研究・教育活動を展開する必要があります。その基盤として、効果的な研究戦略を策定・推進するガバナンス体制構築も急務の一つと言えます。

こうしたことから、今回、スーパーグローバル事業の基盤となる教職員の国際化を目的として、南洋理工大学(シンガポール)の総長室・研究推進室長のKhor Khiam Aik教授を招いて講演会を3月19日(木)に開催しました。

研究支援室のゴータム ピタンバル准教授の司会進行のもと、Khor教授には、「研究力強化に向けた研究推進機能と体制の構築」をテーマに、研究費獲得に向けた研究推進体制、学内部局の評価指標の構築や大学の知名度向上等について南洋理工大学の成功的事例をもとにご講演いただきました。

先進的な研究推進体制についての講演を通して、本学が「世界の課題解決に貢献する大学」になるために必要な

国際通用性のある研究推進体制の構築について、各教職員が検討できる機会となりました。

当日は、サステイナブルキャンパス推進本部、人材育成本部、また複数の研究教育部局など、学内の各部署から教職員が参加しました。

(国際本部国際連携課)



熱心に講演をするKhor教授



質疑応答の様子

# インドネシア及び北海道で「大学の世界展開力強化事業」採択事業の基礎科目を開講



グヌンバングランゴ国立公園にて (PAREプログラム)

本学と海外の大学がコンソーシアムを組み実施する2つの大学院共同教育プログラム「人口 (Populations) ・活動 (Activity) ・資源 (Resources) ・環境 (Environments) の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム (PAREプログラム)」及び「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム (RJE3プログラム)」は、本年3月に、それぞれインドネシアと北海道で基礎科目を開講しました。いずれのプログラムも、本学の複数の大学院が共同で取り組む分野横断的プログラムで、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択されており、国際本部にセントラルオフィスを設置して運営しています。

アジアの発展に主導的な役割を担う人材の育成を目的とし、インドネシアとタイの6大学と協働するPAREプログラムでは、3月9日 (月) から20日

(金) までの12日間、インドネシアにおいて「PAREスプリングスクール」(ホスト大学：ボゴール農科大学)を開講し、本学から18名、インドネシア・タイの国際交流協定校から22名の計40名の学生が受講しました。学生は、本学及びコンソーシアム大学教員が提供する「生態系サービス」に関する講義を受講し、チリウン川流域の水質調査を含むフィールドワークを行いました。また、国籍・文化・学問分野が異なる学生とグループを形成し、一つの課題について討論した結果を、流域マスタープランとして取りまとめ、最終日に発表しました。

極東・北方圏地域において活躍が期待される専門家の育成を目的とし、ロシアの5大学と協働するRJE3プログラムでは、3月16日 (月) から20日 (金) までの5日間、本学において「基礎科目」を試行的に開講し、本学から12名、ロシアの国際交流協定校か

ら35名の計47名の学生が受講しました。「基礎科目」では、永久凍土や植生の変化などの「自然環境」、寒冷適応した人類や北方先住民族などの「歴史や文化」、寒冷地の都市・建築・住宅などの「生活環境と地域開発」、エネルギー開発やガバナンスなどの「政治・経済」を主要テーマとし、日露の教員が共同で講義を実施しました。最終日には、各大学に分かれて講義で学んだことなどを発表しました。

平成27年度は、PAREプログラムは今年で3度目となる「PAREサマースクール」を8月25日 (火) から9月8日 (火) に北海道で開講し、RJE3プログラムは北海道とロシアで行われるフィールド実習を加えた「基礎科目」を8月に本格的にスタートする予定です。

(国際本部国際連携課)



国、文化、学問分野の異なる学生との協働 (PAREプログラム)



基礎科目 (試行) の講義の様子 (RJE3プログラム)



日露学生による共同発表 (RJE3プログラム)

## ザンビアで留学コーディネーター配置事業を開始



セレモニーでの記念撮影

本学では、文部科学省の委託事業である平成26年度留学コーディネーター配置事業（アフリカ・サブサハラ）を受託したことに伴い、3月13日（金）にザンビア共和国ルサカ市にあるザンビア大学で本事業のキックオフセレモニー、日本留学説明会及びワークショップを開催しました。

本学では、平成24年にザンビア大学獣医学部内に、アフリカにおける大学の広報、学生・研究者交流促進の拠点として北海道大学ルサカオフィスを設置しました。同オフィスの所長である獣医学研究科の奥村正裕教授と現地職員1名が中心となり活動を行ってきましたが、このほど、留学コーディネーター配置事業を受託したことで、本学のみならず、日本全国の大学へアフリカ・サブサハラ地域から優秀な学生の日本留学を促進する活動を行うこととなりました。

キックオフセレモニーでは、本学の山下正兼副学長による挨拶の後、ザンビア大学ステファン・シムカンガ副学長から祝辞があり、その後、小井沼紀芳駐ザンビア特命全権大使及びザンビア共和国教育・科学・職業訓練・早期教育省のパトリック・ヌカンザ事務次官から歓迎の言葉がありました。

セレモニーに続いて、主としてルサカ市内の学生や高等教育機関の研究者を対象に、日本留学説明会を行いました。説明会では留学コーディネーター配置事業の概要説明の後、在ザンビア大使館の関山雄太三等書記官による国費留学に関する説明があり、その後、日本の大学紹介と、日本留学経験者から体験談の報告がありました。

説明会には、会場の定員を超える241名の参加者があり、設置した日本の13大学の資料がすべてなくなるなど、ザンビアの学生の日本留学への関心の高さを示すものとなりました。

また、本行事にあわせて、ザンビア大学鉱山学科と本学の研究者による「鉱山と環境に関するワークショップ」が実施され、ザンビア大学から12名の研究者と本学から10名の教職員が参加しました。

これらの行事により、研究交流を促

進し、また、日本留学に関するより多くの情報を提供することで、多くの学生が日本留学に対して興味を持ち、ザンビアからの留学生増加につながることを期待されます。

ルサカオフィスでは今後も、サブサハラ地域からの日本留学促進のため、留学説明会の実施、教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進を行っていく方針です。

（国際本部国際連携課）



日本の大学の資料を受け取るルサカ周辺の大学生



日本留学説明会の会場の様子



ワークショップの様子



# 短期留学プログラム「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」を欧州とアジアで実施

国際本部では、平成23年度より海外の交流協定校、国際協力の現場、躍進する日系企業などグローバル・キャリアに関連する現場の経験を通して、語学研修や交換留学等の海外経験に挑戦することを促すファースト・ステップ・プログラム（FSP）を実施しており、平成25年度からは、一般教育演習（フレッシュマンセミナー：グローバル・キャリア・デザイン）として開講しています。2月17日（火）から3月5日（木）には欧州（英国とフィンランド）で、3月14日（土）から28日（土）にはアジア（シンガポールとベトナム）で海外研修を実施しました。

欧州プログラムでは、英国では文学部の部局間交流協定校であるロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）、フィンランドでは新しい大学間交流協定校であるトゥルク大学を訪問しました。各協定校では、キャンパスツアー、授業の参加、学生交流を行い、トゥルク大学では副学長から直接留学の魅力について説明していただきました。

企業訪問では、英国では、NTT Europeや株式会社商船三井、セコムPLC（英国）を訪問し、トップマネジメントの方と直接お話しする機会がありました。フィンランドでは、日系企業以外に、放射性廃棄物の最終処分場であるオンカロ、フィンランド気象庁、国連大学世界開発経済研究所（UNU-WIDER）を訪問しました。

アジアプログラムでは、羽田空港にある日本航空のロードコントロールセンター、整備場やスカイ・ミュージアムを訪問してからシンガポールに移動

しました。シンガポールでは、文学部の部局間交流協定校であるシンガポール国立大学（NUS）とYale-NUS College、ベトナムでは大学間交流協定校であるベトナム国家大学ホーチミン市校で、学生交流、キャンパスツアー、ベトナム語基礎講座、授業参加などを体験し、本学留学プレゼンテーションを行いました。ホーチミンでは、日本語学校も経営しているエスハイヤ、ホーチミンで最も予約が困難なピザ4P'sを訪問して、IT業界からピザ屋をベトナムで始めた背景について経営者から直接伺う機会もありました。また、マブ会（北海道関係者の会、なまらまぶいんでない会の略称）による集まりで、ホーチミンで活躍されている公認会計士、弁護士、理髪師、商社など、プログラムで訪問できなかった業種の方々とも懇談する機会がありました。

プログラムの参加者は日々の各訪問先についての感想をまとめ、特に欧州プログラムでは、英語で感想をまとめて、お世話になったオックスフォード大学やトゥルク大学、日系企業・組織等にフィードバックして学生が得たことについて先方とも共有しました。

海外研修の半ばでは、各参加者が設定した目標への達成度を報告し、他の参加者の行動に対してコメントするなど、短期のプログラムから最大限の成果が得られるように全員で振り返りのミーティングを行いました。

2週間の海外研修を終えて、参加者は交換留学する意識が高まった、英語能力向上に真剣に取り組むようになった、大学卒業の進路選択を具体的に考

えるようになった、と様々な刺激を受けたことを報告書で表しています。この経験を今後のキャリア形成の計画や具体的な行動に活かすため、3回の事後研修を開催し、その後、参加学生は語学研修や交換留学など具体的な行動計画をまとめて、在学中にそれらの計画を実行し、セカンド・ステップに進むことが期待されています。

平成27年度は、前期は「グローバル・キャリア・デザイン1・2」として、欧州（英国とフィンランドを予定）とアジア（シンガポールとタイを予定）を訪問する授業を実施する計画です。留学を含む海外体験をより身近なものと感じてもらえるようさらに努めていく所存です。国際本部では、各種相談を受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。

◆問い合わせ先

FSPに関して：

[ambitious@oia.hokudai.ac.jp](mailto:ambitious@oia.hokudai.ac.jp)

個別の留学相談：

[jryugaku@oia.hokudai.ac.jp](mailto:jryugaku@oia.hokudai.ac.jp)

（国際本部国際教務課）



フィンランドのトゥルク大学での学生交流



ベトナム国家大学でのベトナム語基礎講座



オックスフォード大学難民研究センター所長とのグループ討論



ベトナム国家大学での学生交流

# 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学 グローバルステーションが第2回シンポジウムを開催



関係者集合写真

3月4日（水）にスタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で「第2回GI-CoRE量子医理工学シンポジウム」を医学研究科学友会館フラテにて開催しました。

本シンポジウムは、GI-CoREの初年度にあたる平成26年度の研究成果の報告と共に、今後の具体的な研究計画を公表する場となりました。国際連携研究教育局副局長である上田一郎理事・副学長による開会の挨拶の後、量子医理工学グローバルステーション長である白土博樹教授より同グローバルステーションの研究総括が発表され、続いてスタンフォード大学ユニット長であるクィンズ・リー教授からはスタンフォード大学の見地から臨床、生

物、医学物理部門それぞれの研究成果が報告されました。

続いて、招待講演者である東北大学の神宮啓一教授より「Radiotherapy for Esophageal Cancer in Japan（日本における食道がんに対する放射線治療）」と題し、平成23年の東日本大震災後の東北大学での震災対応実例の紹介を交えながらの講演がありました。

その他、スタンフォード大学からはアマート・ジアッシア教授が放射線生物学に関する詳細な研究計画について発表されるとともに、臨床研究部門についてはアルバート・クーン教授がこれまでの研究成果と今後の展望について講演されました。参加者からも研究内容に関する多くの質問や意見が出さ

れ、活発な質疑応答及び意見交換が行われました。

最後に安田和則理事・副学長からGI-CoRE全体の総括として閉会の挨拶があり、国際共同臨床試験を予定している医師や最先端の研究者を含む63名の参加者とともに盛会裡に終了しました。こうした成果を踏まえ、量子医理工学グローバルステーションでは、平成29年の医理工学院創設を見据えた量子医理工学分野での研究・教育を促進すべく、平成27年度は新メンバーも迎え、世界的な研究拠点としての更なる一歩を踏み出す予定です。

（国際連携研究教育局）



白土教授



リー教授



ジアッシア教授



# 国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが公開セミナーを開催



集合写真



会場の様子



発表風景

3月4日（水）に、「若手研究者による人獣共通感染症克服のための公開セミナー」を獣医学研究科講堂において開催しました。国際連携研究教育局が平成26年4月に本学に設置されて以来、本グローバルステーションでは、海外から一流の研究ユニット誘致を進めてきました。3日（火）には、メルボルン大学ユニットからブレンドン・チュア博士をはじめとする5名、アイルランド国立大学ダブリン校ユニット

からウィリアム・ホール教授をはじめとする5名、アブドラ国王科学技術大学ユニットからアーナブ・ペイン准教授、及び国内から2名の計15名の研究者を招へいし、人獣共通感染症グローバルステーションの教員12名とともに、人獣共通感染症の研究教育を推進するためのコンソーシアムによる研究計画に関し、意見交換を行いました。

4日（水）には、若手研究者による人獣共通感染症克服のための公開セミ

ナーを開催し、本学及びメルボルン大学他から計5名の若手研究者による発表が行われました。

本セミナーには、本学の博士課程大学院生約50名ほか、計93名が参加し、若手研究者による活発な情報交換が行われました。

（国際連携研究教育局）

## セミナー発表者と発表題目

Regulatory mechanism of RIG-I-like receptors: in antiviral innate immune response（ウイルスに対する自然免疫応答を誘導するRIG-I様受容体の制御機構）

押海裕之（人獣共通感染症リサーチセンター 准教授）

(Re) discovery and molecular characterisation of novel tick-borne phleboviruses（新規マダニ媒介性フレボウイルスの（再）発見とその分子生物学的性状解析）

松野啓太（獣医学研究科 講師）

PEGylation of a TLR2-agonist-based vaccine delivery system improves its ability to induce effective anti-viral and anti-tumour CD8<sup>+</sup> T cell responses（TLR2作動性ワクチンシステムによってもたらされる抗ウイルス作用及び抗腫瘍性CD8<sup>+</sup>T細胞作用の効果的な誘導）

関屋俊輝（メルボルン大学大学院生）

How to stop influenza and its sequelae（インフルエンザとその続発症を防止する方法について）

Edin J. Mifsud（メルボルン大学大学院生）

Identifying transmissible Influenza A viruses（インフルエンザウイルスの伝達に関する要因の特定）

Kathryn M. Edenborough（オーストラリア動物衛生研究所 研究員）

## ■ 部局ニュース

### 「北極域研究センター」を設置

4月1日（水）に学内共同施設（研究施設）として、「北極域研究センター」が次世代ポストゲノム棟内2階に設置されました。

地球温暖化による海水減少、北極海航路の利用頻度増加による経済・社会的影響など、近年様々な切り口で関心が高まる北極域周辺の課題解決促進のため、異分野連携を通して貢献する体制を構築します。また、将来的にはこうした取り組みにおいて、日本の中心的拠点としての機能を担うことを目指します。

本学における北極域とその周辺地域の研究は、各部局においてその研究や開発に資する人材の育成に深く関わっ

てきており、現在では、国内に留まらず広く北方圏諸国との連携のもと、その研究や教育が展開され、本学の強みのひとつとして世界に存在感を示しています。

センターの活動によって、各部局に蓄積された北極域に関する研究と教育の成果を統合・集約し、さらには、世界各国のステークホルダーと共に部局を超えた研究・教育活動を展開することで、北極域における課題解決に貢献する異分野連携研究と次世代の優秀な研究者育成の更なる発展を可能とします。

現在、兼務教員として、文学研究科、経済学研究科、水産科学研究院、

地球環境科学研究院、工学研究院、低温科学研究所、スラブ・ユーラシア研究センターから17名が携わり、参画部局は随時拡大予定です。

4月6日（月）に開催した第1回の異分野連携勉強会は、遠隔地会議システムにより函館キャンパスの教員も参加して行われました。7部局・16名の教員が集い、北極域研究に関する文系・理系のアプローチの相違と今後の可能性について活発な議論が行われました。

（研究推進部研究振興企画課）

### 「埋蔵文化財調査センター」を設置

4月1日（水）に、学内共同施設（特定業務施設）として「埋蔵文化財調査センター」が設置されました。

本学は、構内全域が「文化財保護法」に定めるところの「周知の埋蔵文化財包蔵地」であるため、土地の掘削を伴う工事等が計画された場合、これまでは、埋蔵文化財調査室が緊急調査を実施してきました。

しかし、年々増える工事とそれに伴

う緊急調査による対応では、今後も実施される各種工事の進捗に対して大きな不安と危険性をはらんだ状況が生じていました。

この状況を打開するため、構内の未調査地区における遺跡の学術的な調査を計画的に実施可能とし、さらに、出土資料は学術資産・地域資源として研究・公開・保存するなど、地域連携の更なる進展を可能とする組織として埋

蔵文化財調査室を学内共同施設（特定業務施設）へ発展的に改組することとしました。

将来的には、北海道における埋蔵文化財ネットワークの中核となって新たな地域文化創出の拠点に発展することを目指します。

（埋蔵文化財調査センター）

## 農学院・農学研究院・農学部と国際農林水産業研究センター（JIRCAS）が研究開発・教育に関する連携・協力協定を締結

近年、世界的な人口増加に伴い生じている地球規模の食料・環境問題に対し、我が国としても、包括的な解決能力を備える専門家や国際的に活躍する人材育成のためのプラットフォームを形成していく必要があります。このような背景から、この度、農学院・農学研究院・農学部は、国際農林水産業研

究センター（JIRCAS）と「相互の研究開発と教育の発展を目的とした連携・協力に関する協定書」を締結しました。同協定の締結・調印式は3月17日（火）にJIRCAS本所国際会議室において執り行われ、丸谷知己農学研究院長とJIRCASの岩永 勝理事長により同協定書の調印を取り交わしました。

同協定の締結を通じ、両機関の人材交流・共同研究の活性化、及び学生自身による海外研究現場の体験機会の増加等、包括的な人材育成システムの構築が期待されます。

（農学院・農学研究院・農学部）



協定書を取り交わしたJIRCAS岩永理事長（左）と丸谷農学研究院長



協定締結式終了後の集合写真

# 工学研究院がアイルランド国立ダブリン工科大学と部局間交流協定を締結

工学研究院では、平成26年度トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業（略称：トップコラボ事業）に「北大・空間性能システム専攻の国際水準をはかるダブリン工科大学とのコラボ活動（活動代表者：長野克則教授）」が採択されました。このコラボ活動の一環として、3月23日（月）にダブリン工科大学（DIT）からブライアン・ノートン学長、マリー・マックナマラ研究院長ら4名、及び在日本アイルランド大使館からアン・バリントン駐日大使、アイルランド商務庁からエディ・ヒューズ日本代表らが来学され、部局間交流協定締結の調印式に先立ち、山口佳三総長らを表敬訪問しました。

総長表敬訪問のあと、工学研究院において調印式が行われ、ダブリン工科大学のノートン学長と名和豊春工学研究院長が協定書に署名を行いました。工学研究院側からは名和工学研究院長、五十嵐敏文国際交流室長、長野教授はじめ計7名の教員と杉山敏保国際企画事務室長ら4名の事務職員が参列しました。バリントン大使からは「本交流が益々発展し、両校が深い絆で結ばれることを期待します」とのご挨拶をいただき、滞りなく調印式を終了しました。本交流協定書には、インターシッパやSI（サマー・インスティテュート）、LS（ラーニング・サテライト）など短期の学生交流の構築に

関して対等な関係で相互努力することはもちろんのこと、ジョイント・ディグリーやダブル・ディグリー、コチュテルまで発展させることが明記されています。

DITはアイルランドで最大の工科大学であり、学生数は約22,000人、教員・スタッフ総数は2,000名を超える本学と同規模の大学で、前身は1887年にアイルランドで最初に創立された工業技術学校に端を発します。2013・2014年のTimes Higher Education“創立50年未満の世界大学ランキング”においては94位と現在、国際的に注目を浴びている大学の一つです。



山口総長（右側）と握手を交わす  
バリントン駐日大使と  
ダブリン工科大学ノートン学長（左端）



山口総長、上田一郎理事・副学長を囲んでの  
記念撮影



ダブリン工科大学と部局間交流協定調印式の様子



名和工学研究院長（左）とノートン学長による  
協定書への署名



工学研究院玄関前での記念撮影

## 「アイルランドー日本 エネルギーセミナー」

調印式後には、フロンティア応用科学研究棟の鈴木章ホールにて「アイルランドー日本 エネルギーセミナー」を開催しました。セミナーでは名和工学研究院長の挨拶の後、バリントン大使から日本ーアイルランドの科学技術、特にエネルギーと環境についてコラボレーションの重要性について特別講演をいただきました。DIT側からノート

ン学長ら3名、工学研究院から活動代表者の長野教授、秋山友宏教授、近久武美教授、森 太郎准教授の4名によるエネルギーと環境に関する講演に加えて、国内のトップコラボ先として東京大学から大岡龍三教授、一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターから廣瀬之信部長、アイルランド最大の電機メーカーの日本法人 Dimplex Japan社

代表らによる招待講演を行い、国内外のトップランナーらを通じて本学の知名度向上に寄与したところです。セミナーでは同時通訳を用意して理解を深めるように努めましたが、それが功を奏して、北海道内外から広くエネルギー関連企業、設計事務所、建設関連、公設試験研究機関、大学関係者など約80名の参加がありました。



本セミナー終了後、山口総長の出席のもと、懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、親睦を図り友情、信頼関係を深めました。

アイルランドは国土面積、人口、気候などが北海道と類似しており、街もコンパクトで安全で、ユーロ経済圏唯一の英語を母国語とする国です。また、Googleの本社をはじめ多くのIT企業、

製薬関係の研究機関が集積しており頭脳集約的産業が活発です。そのため学生の短期留学先として非常に適しているという長所があります。今後、DITと工学研究院の間でSIやLSによる教員や大学院生の派遣・受入が活発に行われてジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリーなどへの進化、また、共同研究を通して博士課程学生の共同指導、

さらには共著論文や共著書などの刊行などを進めることにより、本学が推し進める“Hokkaido Universal Campus Initiative”に貢献できることが期待されます。

(工学院・工学研究院・工学部)



バリントン大使による特別講演



ノートン学長による基調講演



懇親会での山口総長の挨拶



バリントン大使の返礼挨拶(左からノートン学長、名和工学研究院長、バリントン大使、長野教授)

## 公共政策学連携研究部が台湾 国立金門大学社会科学院と学術・教育交流協定を締結

公共政策学連携研究部と台湾の国立金門大学社会科学院は、3月12日(木)に学術・教育交流協定を締結しました。

この協定は、双方の教員及び研究者の交流、学生の交流、学術資料、刊行物及び情報等の交換、そして共同研究

やシンポジウムを実施するなどの協力を推進するという趣旨のものです。

国立金門大学からは、黄 奇学長及び同大学社会科学院の陳 建民院長(教授)、劉 冠効助理教授が、公共政策学連携研究部からは、山崎幹根研究部長の代理として柿澤未知准教授が調

印式に出席しました。

これにより、公共政策研究の領域における双方の交流がより一層活発になることが期待されます。

(公共政策学教育部・公共政策学連携研究部)



金門大学との交流協定



## 公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターがシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催



オープンセッション全景（北海道ダイアログ）

2月28日（土）・3月1日（日）、公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター東アジア研究所主催により、日本、韓国、台湾、中国（香港を含む）という東アジア地域の4つの市民社会を代表する民間研究者・言論人を集めた「第3回北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催しました（株式会社北海道新聞社等共催）。

今年の「北海道ダイアログ」は、「東アジア・ミレニアルズの共時性」をテーマとして、本田由紀（東京大学教授）、湯浅 誠（社会活動家）のほか、世界的な注目を集めた台湾及び香港の学生運動リーダーや中国、韓国の著名な専門家・社会活動家をお招きし、東アジア地域の若者たちが直面している政治・経済・社会情勢等を議論

しました。権力と富の結合及び集中化が進む中国。かつての「戦後日本型循環モデル」が崩壊した日本。新自由主義的経済政策の下で非正規雇用の拡大が続く韓国。そして、中国との経済統合を進める為政者に違和感と危機感を強める香港と台湾。いずれも若者の閉塞感の強まりが指摘される一方、そのような閉塞感の中でも、「民主主義を守るため」「自らの正当な権利を守るため」「社会に前向きな貢献を行うため」といった市民社会的な共通の価値観に基づき行動する若者が確かに存在することも確認されるなど、東アジア地域の現在と未来を考える上できわめて示唆に富む議論が展開されました。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）

## メディア・コミュニケーション研究院で国際シンポジウム「ボーダーレス時代の互恵的第二言語教育—多元的言語学習環境の創造」を開催

国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院は、3月10日（火）、メディア・コミュニケーション研究院105室において、国際シンポジウム「ボーダーレス時代の互恵的第二言語教育—多元的言語学習環境の創造」を開催しました。

ヘルシンキ大学のリッカ・ランシサルミ氏（日本語専任講師・日本学兼任教授）を基調講演者に迎え、「Language as Saying, Doing, Being - and Knowing: Learning languages and about languages in the borderless age」と題して、ボーダーレス時代の言語学習の意義についてご講演いただきました。また、香港大学の萬 美保氏（日本語上級講師・日本語プログラムコーディネーター）には、香港、北京、メルボルンをオンラインで結んだ日本語学習者の合同会議について、シェフィールド大学のトム・マコーリー氏（日本語プログラムコーディネーター・日本留学コーディネーター）には、日本人学生とイギリ

ス人学生が互いの外国語学習を支援するタンデム・ラーニングについてご報告いただきました。

外国語教育センターからは、中国人留学生のティーチング・フェロー活用による中国語教育アクティブ・ラーニングと国際交流科目受講生に対するアンケート調査の報告がありました。国際広報メディア・観光学院生2名が、日本語・韓国語の学習困難度に関する研究発表（村山友里枝）、小樽商科大学とジョージア大学の遠隔協働学習の実践報告（中津川雅直）を行った後、パネル・ディスカッション「東アジア

に多元的言語学習共同体の創造は可能か」が実施され、招待講演者3名の他、メディア・コミュニケーション研究院の飯田真紀准教授、清水賢一郎准教授が参加し、互恵的言語学習の可能性について討議しました。

学内外から延べ43名の参加があり、ヨーロッパや香港の状況を参考に、日本における今後の外国語教育のあり方について熱心な意見交換がなされました。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



東京外国語大学の藤森弘子氏より質問を受ける香港大学の萬氏



中国語TFプロジェクトチームによるアクティブ・ラーニングの発表

# 国際広報メディア・観光学院で 優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を挙



授賞式の様子



受賞者

3月25日（水）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を行いました。

本賞は、学業成績が最優秀であった学生、国内学会・国際学会の大会発表において優秀と認められた賞を受賞した学生、さらには、課外活動や社会活

動等において顕著な功績を残し、当学院の名声を高めたと認められる学生を表彰するために平成24年度に創設され、今年度は、成績部門3名、学術部門3名、課外活動部門2チームと1名の計14名が受賞者として選ばれました。

授賞式では、受賞者に賞状、トロフィーの授与及び記念品の贈呈が行わ

れました。

受賞者には、本賞の名称（「舞台は地球」）のとおり、今後世界を舞台として、国際的に活躍することを期待しています。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）

## 受賞者

成績部門	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	知場 亜紀
成績部門	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	渡邊 春菜
成績部門	観光創造専攻	修士課程2年次	許 玉萱
学術部門	国際広報メディア専攻	博士後期課程2年次	須田 比奈子
学術部門	国際広報メディア専攻	博士後期課程1年次	野口 将輝
学術部門	観光創造専攻	修士課程2年次	加藤 寛
課外活動部門	IMCTSベンチャー研究会		
	国際広報メディア専攻	博士後期課程1年次	野口 将輝
	国際広報メディア専攻	修士課程1年次	坂本 悠
	国際広報メディア専攻	修士課程1年次	小堀 真由美
課外活動部門	IMCTS観光研究会		
	国際広報メディア専攻	博士後期課程1年次	野口 将輝
	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	横山 真衣
	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	大荷 拓朗
	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	孫 綿濃
	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	戴 夢楚
	国際広報メディア専攻	修士課程2年次	李 思穎
課外活動部門	国際広報メディア専攻	修士課程1年次	平山 花菜絵

## 国際広報メディア・観光学院が北京・上海で 留学説明会及び同窓会を開催

3月14日（土）・15日（日）の両日、北京オフィスを会場に本学院国際広報メディア専攻を対象にした北京での留学説明会を、更には初の試みとして17日（火）には名古屋大学上海オフィスをお借りして、同内容の上海説明会を実施しました。北京・上海の両説明会を合わせ、60名近い参加者がありました。

説明会の進め方は、例年通り、学院・専攻の概要、研究生を経ての大学院入学プロセス、研究生事前審査への応募時の注意点という3項目を説明し、その後、北京・上海両会場ともにテレビ電話を利用して、札幌在住の留学生との中国語での質疑応答へと進

み、最後に個別相談という流れを辿りました。特に札幌在住の大学院生・研究生との間では、自由闊達かつ親身なやり取りが交わされるとともに、個別相談では参加者が納得するまで丁寧に疑問に答えた点などが大変に好評でした。上海での開催も含め、来年も実施を継続していく予定です。

また、14日（土）の説明会終了後には北京在住あるいは一時帰国中の同窓生7名が集まり、第4回北京同窓会を、17日（火）の説明会終了後には4名の修了生の参加を得て、第1回上海同窓会を開催しました。それぞれに帰国後就職した修了生ですが、仕事を始めたばかりの世代とキャリアアップを

重ねた修了生まで、親睦を深めるだけでなく、同窓生同士での情報交換・互助活動に資する会であったと感じました。

会食中は、学生時代に戻って和やかな歓談の時を過ごし、修了生からは来年の同窓会開催の要望が、教員からは「ホームカミングデー」への参加の呼びかけもあり、本学院と修了生との結びつきを強める機会となったと強く感じさせられた次第です。

（国際広報メディア・観光学院、  
メディア・コミュニケーション研究院）



全体説明の様子（北京）



北京同窓会



テレビ電話での質疑応答（上海）



上海同窓会会場前で



## 国際広報メディア・観光学院が台北で留学説明会及び同窓会を開催

3月28日(土)・29日(日)の2日間、台北市中心部の交流協会台北事務所文化ホールで、本学院の留学説明会を実施しました。本学院ではこれまで毎年、北京で説明会を行ってきましたが、昨年11月のサハリン国立大学、本年3月中旬の北京・上海に続き、台湾でも初めて開催を試みたものです。

初開催の留学説明会でしたが、2日間合わせて40数名の来場者がありました。説明会では、まず教員が、各専攻でどのような研究教育がいかなる特徴をもった教育方法で展開されているか、先輩たちがどんなテーマで修士論文を書き上げ、修了後はどのような進路に進んでいるか等について紹介したほか、入試の概要や研究生制度についても詳しい説明を行いました。

その後、台湾出身の在校生2名が、研究生から入試合格に至るまでの過程や札幌での院生生活の体験について紹

介し、さらにボランティアスタッフとして駆けつけてくれた修了生たちも、それぞれ自分が大学院で取り組んだ研究テーマと現在の仕事などについて紹介を行いました。こうした留学生目線の実体験に即した情報提供は来場者にとって非常に参考になったようで、Q&Aでは学修面・生活面について矢継ぎ早に質問の手が挙がり、本学院への関心の高さがうかがえました。その後の相談コーナーも気取らない雰囲気の中で活発なやり取りが交わされ、特に台湾出身の在校生・修了生と対面で個人的に相談ができた点が大変好評でした。

今回の説明会では、留学希望の学生のみならず、現地の新設私立大学の人文社会学系大学院院長と准教授の先生もご参加くださり、提携を視野に入れた交流を、とのお話をいただきました。本学への台湾からの熱い期待をひ

しひしと感じさせられた次第です。

また、説明会1日目終了後には、同じく台湾で初めてとなる同窓会(台湾校友会)を開催しました。説明会に協力してくれた修了生4名が出席し、在校生2名も加わり、互いの近況報告や学生時代の思い出話などに花が咲き、大変楽しい一時となりました。文字どおり「校友」としての「縦」の結びつきを強めながら親睦を深めることができ、有意義な集いになりました。

説明会及び同窓会ではアンケートを実施したので、説明会参加者、そして修了生の要望をできるだけ汲み取りながら、今後も継続開催する方向で検討していきます。

(国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院)



同窓会参加者で記念撮影



熱心に説明に耳を傾ける来場者



在校生による院生生活の紹介

## 平成26年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程 共同FDの開催

3月2日（月）・3日（火）に幕別温泉グランヴィリオホテルにおいて、平成26年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程共同FDを開催しました。本学獣医学部教職員46名、帯広畜産大学教職員46名の総勢92名が参加し、昨年の81名を上回る大人数での開催になりました。

1日目は、帯広畜産大学に到着後、帯広畜産大学の先生方のご案内のもと、各グループに分かれて、動物・食品検査診断センター、病態診断棟、解剖教育研究等の見学を実施しました。夕方、ホテルに移動してからのFDでは、平成27年度から両校でトライアルが実施されるCBT（Computer Based Testing：コンピューターによる知識評価）や、平成27年度に帯広畜産大学で開始するOSCE（Objective Structured Clinical Examination：臨床能力評価）に関して、それらの内容や全国的な取り組みへの準備状況が説明されました。また、夜には懇親会が実施され、

帯広畜産大学における教育や研究の様子がスライドで紹介されました。卓球の真剣勝負もあり、打ち解けた雰囲気での懇親会が行われました。

翌日は、2部に分けてFDを再開しました。第1部は「欧州獣医学教育施設協会（EAEVE：The European Association of Establishments for Veterinary Education）認証取得に向けた予備査察の結果報告」が行われました。日本において初の試みとなるヨーロッパの獣医学の国際認証取得に向けて、共同獣医学課程としてどのような取り組みが必要か、改めて議論が進み、様々な質問がありました。特に平成26年度はEAEVEの関係者を両校に招いての視察と意見交換が行われたので、EAEVE取得のために、またより良い獣医学教育のために、両校のカリキュラムをどのように改善するべきか、その状況が報告されました。

第2部は「共同獣医学課程カリキュラム3年目を終えての問題点、改善

点、科目間の調整等について」のディスカッションが行われました。共同獣医学課程による授業が始まって、両校より多くの先生方が帯広と札幌間を移動し、また事務間の密な連携も必要となっています。授業の実施や成績評価に際しての問題点を、アンケート調査の結果も踏まえて議論しました。

本学と帯広畜産大学による合同FDは今回で4回目となります。当初は定期的に行われる予定ではありませんでした。が、昨年度のFD実施より、今後もこの合同FDを継続的に実施することになりました。FDに多くの教職員が参加することで国際認証やCBT、OSCEなどに対する理解が進み、また、両大学で行っている共同獣医学課程がより高いレベルでの獣医学教育システムとなること、そして、両校の教職員の交流がますます活発化することが期待されます。

（獣医学研究科・獣医学部）



帯広畜産大学での施設見学の様子



全体ディスカッションの様子



## 理学院・理学研究院・理学部等で平成26年度FD合同研修会を開催

理学院・理学研究院・理学部、生命科学学院、総合化学院は、3月19日（木）午後2時より、最近、本学でも問題になっている学生の「メンタルヘルス」と、新たな教育手法として注目されているものの、実態を知る人が少ない「アクティブラーニング」について、合同でFD研修会を行いました。

はじめに、平成26年度の理学研究院の各部門でのFD研修会の状況が報告され、その後、本学保健センターカウンセラーの武田弘子先生から「北大における学生の自殺の現状と予防対策」について講演があり、自殺につながる不登校、ひきこもり対策の要点やその流れ、保健センターで用意されているプログラムなど、実際の具体例を挙げた丁寧な説明がありました。特に、研究室で過ごす時間の多い大学院生は、本人の変化を研究室の教員が敏感に感じ取り、対応については保健センターと連絡を取ってその原因の特定や支援方針を早急に決めることが重要であることが示されました。

後半は、アクティブラーニングに関する講演2件でした。理学研究院の小

田 研教授からは「アクティブラーニングに対する基礎科学系大学院の最近の取り組み」という題目で、「デザインスクール」、「PBL（Problem Based Learning：問題解決型学習、あるいは、Project Based Learning：課題解決型学習）」や「アントレプレナー講習」といった、最近教育の現場でよく耳にするもののその実態がよく理解されていない「アクティブラーニング」について、その必要性と理学研究院等がどのような取り組みを行ってきたかについて紹介がありました。理学研究院等では全学に先駆けてこのような「アクティブラーニング」関連の講習会や研究会を開催することで、基礎科学系教育における「アクティブラーニング」の現状や問題点、その効果的な実施について検討しており、平成27年度からは理学研究院内にアクティブラーニング推進室を立ち上げ、構成員へのアクティブラーニングの情報提供やその実施方法等について検討することが報告されました。

組織開発推進室プロセスコンサルタント・ファシリテーターの内田龍之介

氏からは、「ファシリテーションの理解と事例のご紹介」という題目で、問題解決のための話し合いや打ち合わせにおいて、その議論を結論に導く司会役「ファシリテーター」の技法である「ファシリテーション」について実例を挙げて紹介いただきました。講演の後半は実際に内田氏がファシリテーターを務めて、参加者全員がグループごとに議論することにより、これまで言葉としてしか理解できていなかった「ファシリテーター」や「ファシリテーション」について、その内容や効果について実感することができました。

理学研究院ではアクティブラーニング推進室を中心として、今後もこのような研修会を通じて基礎科学系における新たな教育的技法の紹介、開発、実施における相談及びその周知活動を進め、本学における次世代の基礎科学系教育と世界の課題解決を牽引する人材育成に貢献することを目指しています。

（理学院・理学研究院・理学部）



講演する武田カウンセラー



講演する小田教授



ファシリテーションを行う内田氏と議論する参加者

## 文学研究科・文学部でハラスメントに関するFD研修を開催

文学研究科・文学部では、かねてより部局内に学生相談室を設置する等の対策により、様々なハラスメント問題への対応を強化してきました。平成26年度は、3月4日（水）に人文・社会科学総合教育研究棟W409において、平成24年度から引き続きハラスメント問題をテーマにしたファカルティ・ディベロプメント（FD）研修会を開催しました。

本年度は、講師に東北大学高度教養教育・学生支援機構の吉武清實教授をお招きし、「キャンパス・ハラスメント防止へ『要注意の教員行動33箇条』～被害者も加害者も出さないために～」と題してご講演いただきました。

吉武教授は、臨床心理学（学生相談・コミュニティ心理学）が専門で、同大の学生支援開発部門臨床教育開発室室長を務められています。

吉武教授は、講演と同じ表題の論文（『学生相談所年報』第9号1-18頁、東北大学高等教育開発推進センター 東北大学学生相談所所収）の抜刷を配付のうえ、要点をパワーポイントで示しながら講演を進められました。最初に全体を貫くコンセプトを示したうえで、要注意の教員行動として「授業や教育指導のすっぱかしを繰り返す、あるいは、指導せずほったらかし」から「私的な食事にふたりきりで、たびたび行く」まで計33箇条を指

摘しました。いずれも実際にあった事案をもとにした模擬事例とともに解説していただいたので、極めて具体的にわかりやすい展開でした。

50名余り集まった教職員は、熱心に拝聴し大学におけるハラスメントの対応と予防について多くを学ぶことができました。

本研究科・学部では、今後もこのような研修会等を積極的に開催していくことによって、様々なハラスメントの防止に真摯に取り組むとともに、より良い充実した教育研究環境の構築に努めていきたいと考えています。

（文学研究科・文学部）



講演を行う吉武教授



熱心に話を聞く文学研究科の教員

## 薬学研究院が第5回薬学研究院研究発表会（FD研修会）を開催

3月13日（金）、薬学研究院臨床薬学講義室において「第5回薬学研究院研究発表会（FD研修会）」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力の向上や他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化等を目的として、一昨年度から実施しているものです。

発表会は南 雅文薬学研究院長の開会挨拶の後、生化学研究室の小原圭助教による「脂質非対称性センシングの分子機構と細胞応答」、及び臨床病態解析学研究室の中川宏治講師による「低酸素・低栄養ストレス応答における細胞内シグナル伝達機構」の研究発表が行われました。

FD研修会を兼ねた今回の研究発表会には本研究院の教職員53名が出席し、活発な質疑討論が交わされ、盛会のうちに終了しました。出席者へのアンケート調査では、多くの出席者から「研究院内のコミュニケーションと自

己啓発の機会として有意義な企画である」との肯定的な意見が寄せられました。次回は今夏に開催する予定です。

（薬学研究院・薬学部）



小原助教の発表



中川講師の発表

## 薬学研究院でトップラボ講演会「難治性疾患に対する創薬研究におけるオックスフォード大学との連携」を開催

3月17日（火）、中央キャンパス総合研究棟1号館共同講義室において、オックスフォード大学よりSarah L Rowland-Jones教授並びにSimon J Davis教授を講師にお迎えして講演会を開催しました。

講演会は、オックスフォード大学のインターンシップ制度の紹介に続いて、Rowland-Jones教授より、“Emerging issues in paediatric HIV: adolescent survivors of vertical infection and

exposed uninfected children in Africa”と題してHIV感染の根治に向けての講演がありました。次にDavis教授より、“The kinetic-segregation model of leukocyte receptor triggering: evidence and translational implications”と題してT細胞表面受容体のシグナル活性化メカニズムと抗体医薬設計について最新の知見をお話いただきました。

すべて英語での講演でしたが、終了後には学生を含む約30名の参加者から

様々な質問が寄せられ、活発な質疑応答がなされました。

両教授には、サマー・インスティテュートを視野に入れた、より長期の滞在にもご快諾いただいております。来年以降も更に充実したシンポジウムを企画運営していく予定です。

（薬学研究院・薬学部）

## 水産科学院各種表彰授賞式を挙

3月26日(木)、ロワジュールホテル函館において、学位記授与式に引き続き、水産科学院各種表彰の授賞式を挙

行しました。  
本表彰は、学術上優れた研究成果を

挙げた大学院生に授与される水産科学院独自の制度です。

今年度は伊藤一隆賞2名、佐々茂雄賞2名・はるにれ賞1名の計5名が受賞しました。

授賞式では安井 肇水産科学院長から賞状・記念品が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



「はるにれ賞」授与



お祝いの言葉を述べる安井学院長

名 称	受 賞 者
伊藤一隆賞	高橋 勇樹, マリン ゲレーロ アラン ヘルツ
佐々茂雄賞	松尾 謙人, 黒田 真道
はるにれ賞	美野 さやか

## 水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙

水産学部3年次の函館キャンパスへの移行に伴い、4月2日(木)、講義棟大講義室において、キャンパス移行式を行いました。

式には、安井 肇学部長のほか、副研究院長、評議員、学科長、教務委員長、学生委員長、練習船船長、学科担任が出席し、安井学部長から189名の移

行者へ、函館キャンパスで新たに始まる学生生活に向けて激励がありました。

移行式終了後には、引き続き、水産学部くろしお賞の授賞式を行いました。

本表彰は、優れた学業成績により水産学部3年次に進級し、函館キャンパスに移行した学生を表彰する水産学部独自の表彰制度です。

受賞者である海洋生物科学科の飯野佑樹さんには、安井学部長から賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



移行生を激励する安井学部長



くろしお賞授賞式の様子



## 総合化学院創設5周年記念事業を開催

3月17日（火）に、総合化学院創設5周年記念事業として、記念式典、研究発表会及び記念祝賀会をフロンティア応用科学研究棟で開催しました。

総合化学院は、現代社会における化学技術発展の必要性、重要性に基づき、社会的な要請に応えるために、理学系化学と工学系化学が連携・融合した世界に誇る最先端の化学大学院として、「化学及び化学関連の幅広い専門分野で次世代のフロントランナーになれるトップクラスの研究者と技術者の育成」を教育目標に、平成22年4月にスタートしました。

記念式典では、坂口和靖学院長の開会の辞と総合化学院の概要説明に始まり、山口佳三総長の挨拶、名和豊春工学研究院長及び寺尾宏明理学研究院長

からの式辞があり、独立行政法人物質・材料研究機構の室町英治理事から祝辞をいただきました。

次いで、総合化学院の活動内容・成果報告として、独立行政法人物質・材料研究機構の魚崎浩平フェローより総合化学院創設前史について、大熊毅フロンティア化学教育研究センター長より同センターの活動について、石森浩一郎プログラムコーディネーターより博士課程教育リーディングプログラム（物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム）について、それぞれ詳しい報告がありました。さらに、博士後期課程修了生代表2名からの挨拶、下東康幸九州大学大学院理学研究院主幹教授からの総合化学院外部評価報告と続き、最後

に、「総合化学院への期待」として鈴木章名誉教授からお言葉をいただきました。

記念式典に続いて、総合化学院全研究室からの学生63名によるポスター発表が行われ、参加学生との意見交換が熱心に行われました。

ポスターセッション終了後の記念祝賀会は、坂口学院長の開会の辞に始まり、喜多村昇初代学院長の挨拶、鈴木名誉教授の乾杯の音頭で開宴となり、高岡晃教遺伝子病制御研究所長のスピーチなどが行われ、盛況のうちに閉会となりました。

（総合化学院）



坂口学院長の挨拶



山口総長の挨拶



祝辞を述べる室町理事



魚崎フェローによる報告



鈴木名誉教授のお話



# 教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターで教職高度化フォーラム「北海道大学における教職課程の役割と今後に向けて」を開催

3月4日（水）、教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教職高度化研究部門が教職高度化フォーラム「北海道大学における教職課程の役割と今後に向けて」を開催しました。

日本女子大学の吉崎静夫教授による講演「教師教育研究の発展と総合大学の役割」では、1980年代以降に世界的に「授業研究」と「教師教育」をつなぐ研究領域に関心が集まってきた経緯、そして現在の鍵概念になっている「授業研究（Lesson Study）」、「専門的な学習共同体（Professional Learning Community）」について、日本の教師教育及び教育実践研究が推進すべきことが紹介されました。その上で、総合大学における教職課程を高度化するための方途や、研究志向の大学が果たすべき教育研究者養成の指針

が示されました。

シンポジウムでは、「総合大学における教職課程の役割と今後に向けて」というテーマのもと、4名のシンポジストの発表、指定討論者からのコメント、そしてフロアを交えた議論が行われました。

本学の姫野完治准教授は、学生が教職課程を履修するプロセスや教職志向の動機、学部卒業後の進路等を分析し、大学院における教職課程の高度化や教師教育研究の充実について発表しました。石村源生准教授は、本学におけるCoSTEP（科学技術コミュニケーション教育研究部門）の取り組みを紹介するとともに、教職課程における科学技術コミュニケーション教育の意義を発表しました。名古屋大学の柴田好章准教授は、名古屋大学が新たに新領

域「教師教育学」を設立するに至った経緯や、研究総合大学における教育学部に求められること等を発表しました。岡山大学の高旗浩志教授は、教職への意欲向上期、学校教育理解期、教育実践力養成期の3期に分けてコアカリキュラムを設けた教職課程を通して、教職課程履修生や成績がどのように変容したかを発表しました。

4名の発表と吉崎教授の指定討論をふまえて、フロアを交えた討論が行われ、「教職の高度化」をいかに捉えるか、今後の中等教育改革にむけた総合大学の教職課程改革、研究総合大学の教育学部が果たす役割等について活発な議論が交わされました。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）

開会挨拶 小内 透（北海道大学大学院教育学研究院長）

講演 「教師教育研究の発展と総合大学の役割」

吉崎 静夫（日本女子大学人間社会学部教授 日本女子大学教職開発センター所長）

シンポジウム「総合大学における教職課程の役割と今後に向けて」

シンポジスト 柴田 好章（名古屋大学大学院教育学研究科）

高旗 浩志（岡山大学教師教育開発センター）

石村 源生（北海道大学高等教育推進機構）

姫野 完治（北海道大学大学院教育学研究院）

指定討論 吉崎 静夫（日本女子大学人間社会学部）

コーディネータ 大野 栄三（北海道大学大学院教育学研究院）

近藤健一郎（北海道大学大学院教育学研究院）



吉崎教授による講演



シンポジウムの様子

## 環境健康科学研究教育センターが国立保健医療科学院との共同フォーラムを開催

環境健康科学研究教育センターでは、国立保健医療科学院との連携協定に向けて、教育及び研究の連携を探るため、3月23日（月）に百年記念会館にて「共同フォーラム－健康・安全社会の構築に向けて－」を開催しました。

国立保健医療科学院は、昭和13年に公衆衛生技術者養成機関として設立された国立公衆衛生院と、国立医療・病院管理研究所、国立感染症研究所・口腔科学部とが平成14年に統合された組織です。保健、医療、福祉及び生活環境に関する厚生労働行政施策の推進を図るため、地方自治体職員の人材育成や関連する調査研究を行っています。

共同フォーラムでは、まずは本学から、当センター連携教育推進部門長の小笠原克彦教授（保健科学研究院）が、「社会と健康」Diplomaプログラムについて紹介しました。続いて国立

保健医療科学院企画調整主幹の曾根智史氏から国立保健医療科学院の養成訓練と調査研究の概要について、さらに生活環境研究部長の樺田尚樹氏、生涯健康研究部上席主任研究官の安藤雄一氏、健康危機管理研究部上席主任研究官の奥田博子氏から具体的な研究内容について紹介がありました。本学と国立保健医療科学院との研究協力事例として、本学工学研究院の松井佳彦教授による「水道における水質リスク評価および管理に関する総合研究」、環境健康科学研究教育センターの荒木敦子准教授による「室内空気質とシックハウス症候群に関する研究」の2課題を紹介し、総合討論にて今後の連携のあり方について意見交換しました。

共同フォーラムに続き、北海道における公衆衛生大学院の役割と設置への協力体制を考える研究集会を開催しま

した。「エビデンスに基づいた公衆衛生活動に向けて－地域と大学・研究機関との協働の現状と課題－」というテーマに沿って、国立保健医療科学院の曾根氏から「公衆衛生従事者の教育と大学・研究機関との連携：国立保健医療科学院の経験から」と題した基調講演の後、道内医科系の4大学から地域における公衆衛生活動の報告がありました。

今回のフォーラムでは35名ほどの参加があり、国立保健医療科学院と学内の教育・研究の連携を模索する第一歩といえる有意義なフォーラムとなりました。また道内大学の公衆衛生学分野の教育・研究者と国立保健医療科学院とが情報交換する場ともなり、今後の積極的な連携が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）



国立保健医療科学院の紹介をする曾根氏



講演に真剣に耳を傾ける参加者

## 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第11期修了生に 修了証書授与



今年度の修了生と基幹教員ら



センター長から修了証書授与

3月25日（水）、修士・専門職学位・博士学位記授与式当日の午後4時からエンレイソウ第一会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、吉岡充弘センター長から修了証書が授与されました。

今年度の修了生は第11期生として、修士課程6名（南 賢明：医学研究科、小泉光世：理学院、長路敬太、染谷真琴、三谷瑠里子：生命科学院、千年涼太：保健科学院）、博士課程1名（森 千紘：生命科学院）の所属学院・研究科の学位取得に加えて発達脳科学

専攻所定の修了要件を充足し、修了が認定されたものです。

センターでは、脳科学に関する大学院授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、北広島クラッセホテルでの合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数の研究科に所属する基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、修了論文の公開発表会や合宿研修では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の大学院生・教員に自分の研究を理解してもらうことを特に重視しています。

発達脳科学専攻は、文理医系融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足し、現在は学内12研究科（学院）にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳について融合した教育プログラムを編成し、研究科枠を超えた人材育成を図っています。これまでに修士課程69名及び博士（後期）課程21名、計90名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）

## 附属図書館で国立大学図書館協会北海道地区企画事業「情報発信力スキルアップワークショップ」を開催

附属図書館では、2月20日（金）に附属図書館において、国立大学図書館協会北海道地区協会主催、北海道地区大学図書館協議会後援による情報発信力スキルアップワークショップ「聴き手をその気にさせる！ーなっとく！さっそく使えるプレゼンテーションの極意ー」を開催しました。

このワークショップは、国立大学図書館協会の地区協会助成事業として実施されたもので、道内7国立大学の若手・中堅職員によるワーキンググループが、昨年に続き、図書館の情報発信に役立つ実践的なスキルアップ研修を目指して企画しました。

当日は、小樽商科大学教育開発センターの辻 義人先生による指導のもと、「わかりやすいプレゼンのコツ」と「シンプルなプレゼンを心がける」という2つの要点を講義と実践によって学びました。

「わかりやすいプレゼンのコツ」では、プレゼンの心構えや注意点、続いて「シンプルなプレゼンを心がける」では、資料作成・発表の際に使える具体的なテクニックが説明されました。ユーモアを交えた簡潔な講義に時折笑い声も上がり、参加者は楽しみながら熱心に聞き入っていました。各講義の後、少人数のグループに分かれてポス

ターやスライド資料を作成し、発表と講評が行われました。

道内国公立大学図書館職員のほか、道外からの受講者を含めて35名の参加があり、受講者アンケートに寄せられた感想では「講演の内容をすぐ実践に移せたのでとても効果的だった」「改めて気付かされることが多くあり、今後の業務に活かしたい」などの感想が寄せられ、参加者の満足度の高い企画であることがうかがえました。

（附属図書館）



辻先生による講義



熱心に聞き入る受講者



プレゼンテーションの実践



## 北海道大学病院で新卒者多職種合同歓迎会を開催

4月3日（金）、北海道大学病院では本年度新規採用者に対する歓迎会を開催しました。新規採用者の職種は、医科臨床研修医・歯科臨床研修医・看護師・薬剤師・メディカルスタッフ・事務職員と多岐にわたり、以前は各職種で歓迎会を開催していましたが、昨年度より「多職種合同」歓迎会として開催しています。

新規採用者は当日朝から、多職種合同研修として専門の講師より接遇のノウハウやチーム医療の実践について、グループワークを通じての一日研修を済ませ、この多職種合同歓迎会に参加しました。会場となった北部食堂には、新規採用者186名のほか、寶金清博病院長をはじめ病院執行部・各診療

科長等97名が集まりました。

会の冒頭では、寶金病院長の開会挨拶、飯田順一郎副院長の乾杯の発声があり、多職種混合グループでの笑顔があふれる賑やかな雰囲気となりました。会の途中には病院執行部より期待のこもった激励及び各職種新規採用者の紹介があった後、その期待に応えるように各職種の代表6名より熱い抱負が述べられました。最後に、川畑いづみ看護部長から乾杯及び閉会の言葉が述べられ、大盛況の中、惜しまれつつも多職種合同歓迎会が終了し、新卒者同士あるいは病院職員との交流が深まる場となりました。

近年、医療はますます多様化・高度化が進んでおり、患者さんに安心・安

全で良質な医療を提供するためには、医療現場で職種の垣根を越えたシームレスな連携が極めて重要です。多職種合同研修・歓迎会を通じて、当院におけるチーム医療がさらに発展していくことを期待します。

（北海道大学病院）



寶金病院長の開会挨拶



飯田副院長からの乾杯の挨拶



多職種混合グループで盛り上がる新卒者



寶金病院長の話を熱心に聞く新卒者

## 北海道大学病院でひまわり分校開校式

北海道大学病院では、4月6日（月）、ひまわり分校の開校式が開催されました。

分校の前身である院内学級は、平成7年度に入院する児童・生徒のために札幌市立幌北小学校、札幌市立北辰中学校の分室として設置されました。

本院が平成25年2月に小児がん拠点病院に指定され、長期入院を要する児童・生徒が増加してきたことに伴い、平成27年度より分校として開校することとなりました。

開校式では、寶金清博病院長の挨拶、引地秀美札幌教育委員会学校教育部長からお話があり、児童・生徒にエールが送られました。

分校となったことで、専任の教頭が配置され、教員も小学校、中学校とも各2名に増員しました。

病状等により教室まで来られない時のベッドサイドへの訪問授業もより一層行えるようになるなど、病院にあっても充実した学習環境が整うことで、治療にも効果が出るのが期待されます。

（北海道大学病院）



寶金病院長の挨拶



引地学校教育部長のお話

## スラブ・ユーラシア研究センターのグローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」が最高評価

3月20日（金）、グローバルCOEプログラム平成21年度採択拠点の事後評価が公表されました。全9拠点のうち5拠点が「設定された目的は十分に達成された」との最上位評価でしたが、スラブ研究センター（当時）が中核となり、本学の人文社会系全部局及び総合博物館を糾合した「境界研究（ボーダースタディーズ）の拠点形成」は、問題点の指摘がない高い評価を得ました。平成21年度は「学際、複合、新領域」のみの公募で、本プログラムは145件の中から採択された唯一の人文・社会系のものでした。中間評価においては、理系の他プログラムとの比較の中で苦闘し、下位3拠点に分類され、研究成果が高く評価される一方で、人材育成面、特に若手研究者のキャリアパス作りの不足、全学をあげた支援体制の不備などに厳しい指摘がありました。

その後、本プログラムは、十全の高い研究成果を若手の育成にどのように反映させるかの観点から、国境地域に面する自治体への若手研究者の派遣、

国内外の境界研究の拠点や諸学会などのネットワーク作りに力を注ぎ、実務と研究を繋ぐ形で人材の育成に成功しました。また、福岡・釜山での国際会議（Border Regions in Transition (BRIT) 第12回大会）の誘致、総長裁量経費によるサマースクールの支援、英文雑誌Eurasia Border Review 刊行に関わる継続的な支援など、本学の支援体制を整えた結果が、今回の評価に結びついたと言えます。

サマースクールに参加した欧米、インド、中国等の若手研究者はいずれも自国の研究教育機関で中堅として活躍するとともに、次世代リーダーとして台頭しています。また本学を中心とする日本の若手研究者も国内外で活躍し、境界研究の拠点が各地ででき始めています。本年4月からは九州大学アジア太平洋未来センターにボーダースタディーズ・モジュールが設置され、本学の若手研究者が九州の地でこれを牽引しています。本学においては、スラブ・ユーラシア研究センターの境界研究ユニット（UBRJ）が引き続き、

国内外の様々な研究・教育活動を牽引しています。

スラブ・ユーラシア研究センターの境界研究ユニットは、グローバルCOEプログラムの成果を継承・拡大し、ボーダースタディーズを人文社会系の新しい学問領域として定着させる活動を続けています。昨年度からは、日本学術振興会で新設された実社会プログラムの支援で「国境観光を創る」プロジェクトを開始し、民間の力を結集しながら国境地域振興を主導する取り組みを行っています。その一部はグローバルCOEプログラムの総合博物館展示コーナーを継承しながら、成果発信を行いました。

今回の評価に伴い、本プログラムを支援して下さった全学の関係者に心よりお礼申し上げます。本学の人文社会系の教育研究の目玉としてボーダースタディーズをより盛り上げていく所存です。これまで以上に力強いご支援をよろしくお願いいたします。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



BRIT第14回大会プレナリー・セッションで発言する岩下明裕UBRJユニット代表（2014年11月 フランス・アルス）



インド・バングラデシュ国境での岩下UBRJユニット代表（右から3人目）（2015年3月）

## ■お知らせ

# 学士会館七大学展示コーナー「北大ブース」のリニューアル

学士会館（東京都千代田区神田錦町）1階の七大学展示コーナーにある「北大ブース」をリニューアルしました。

七大学展示コーナーは、本学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学が、広く社会へ情報発信する場として平成22年4月に設置されました。

展示ブースはスクールカラーの緑を基調とし、LEDライトを効果的に活用しています。ブース正面には、本学ならではの一品として、練習船「おしよる丸」で使用されていた六分儀\*をアクリルケースに入れて展示しています。

併せて、広報誌を設置し、学外向け広報誌「リテラポプリ」や、本学をコンパクトに紹介する小冊子「北海道大学読本」を自由にお持ち帰りいただけるようにしています。

モニターには常時映像が流れており、キャンパスの四季やイベント、おしよる丸5世が進水する様子などをハイビジョン映像でご覧いただけます。

なお、オープンエデュケーションセンターの藤田良治准教授の協力を得てリニューアルを実施しました。

お近くにご用の際には、新しくなった北大ブースにぜひお立ち寄りください。

\*六分儀：2つの反射鏡を用いて水平線からの天体の高度（角度）や、2つの物標の狭角を測定する光学計器。全円を6分割した円弧の形をした枠を持っていることから、この名前が付いている。洋上での自分の船の位置を求めるために使用するが、現在では船の位置はGPS（人工衛星からの電波）によって得られるため、ほとんど使われていない。

（総務企画部広報課）



リニューアルした北大ブース



七大学展示コーナーの様子

## 平成27年度 人間ドックの実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドックを次のとおり実施しています（任意継続組合員を含む）。

なお、平成19年度より受付等については、専門業者へ外部委託となり、組合員が直接ホームページ等から申込みしていただくこととなりますので、よろしくご協力願います。

1. 申込期間

平成27年4月1日（水）～12月19日（土）

2. 対象者

満年齢35歳以上（当該年度の4月1日現在）の組合員本人（任意継続組合員を含む）及び組合員の被扶養者である配偶者です。

3. 補助額

組合員 2万5千円 被扶養配偶者 1万5千円

（利用料金が共済組合助成額を下回る場合は、利用料金）

受診料の個人負担額は、医療機関に支払います。

4. 健診機関

文部科学省共済組合ホームページ掲載の「健診機関リスト」から各自選択します。

5. 申込方法

申込方法につきましては、昨年度と同様の取扱いとなりますので、詳細については文部科学省共済組合ホームページでご確認願います。

なお、ホームページを閲覧できない方は、郵送の申込となりますので所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

お問い合わせ先

（株）イーウェル 健診サポートセンター

TEL 0570-057120

受付時間 （平日）10時～20時 （土・日・祝）10時～17時

6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い、今回実施する健康診断結果のうち、法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます（目的外利用はいたしません）。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）



## 博士学位記授与

3月25日（水）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は307人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は15人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	なかむら 村 史	ふみ	サンスクリット叙事詩『マハーバーラタ』第13巻の文学研究 主査：教授 細田 典明
	にいかわ 新 川 拓 哉	や	A Defence of Naive Realism (素朴実在論の擁護) 主査：教授 山田 友幸
	こにし 小 西 信 義	よし	北海道豪雪過疎地域における除排雪活動に関する人類学的研究 主査：教授 佐々木 亨
博士（学術）	さいとう 齋 藤 祥 平	しょう へい	N.S.トルベツコイの思想と亡命ロシア人世界－ユーラシア主義を中心に－ 主査：教授 ウルフ・デイビッド
博士（文学）	すがわら 菅 原 よし 慶 郎	ろう じょう	近世における俵物・諸色の研究～北奥・蝦夷地を事例に～ 主査：准教授 谷本 晃久
	たむら 田 村 た だ し 理		イギリス奴隷貿易廃止運動の歴史的意義－リヴァプールのウィリアム・ロスコーを中心に－ 主査：教授 長谷川 貴彦
	いのうえ 井 上 貴 翔	しょう 翔	日本戦間期における文学と科学的言説との交渉－探偵小説・指紋・写真 主査：教授 押野 武志
	おかだ 岡 田 だ 一 ひろ 祐	ひろ 祐	平仮名字体意識と明治期読本 主査：教授 池田 証壽
	しん 申 ぶん 雄 哲	ちよく 哲	図書寮本類聚名義抄の基礎的研究 主査：教授 池田 証壽
	チェスバ マリアンナ CESPA Marianna		イタリア語と日本語の過去時制に関する対照研究 主査：准教授 藤田 健
	いまい 今 井 史	ふみひと 史	運動制御過程におけるイメージの役割－運動準備時に生成される結果イメージを研究対象として－ 主査：特任教授 菱谷 晋介
	きんじょう 金 城 たつ 達 や 也	や 也	地域社会の生活実践に内在する資源保全のしくみ－沖縄・奄美の自然資源利用から－ 主査：教授 宮内 泰介
	ささき 佐々木 しん 真 吾	しん 真 吾	児童期における想起のコントロールの発達：“だいたい”と“正確”の教示を用いて 主査：教授 仲 真紀子
	てらばやし 寺 林 あき 暁 ら 良	あき 暁 ら 良	地域環境管理の社会学的研究－ヨシ原管理にみる「複数の利害」のダイナミズム－ 主査：教授 宮内 泰介
	とよかわ 豊 川 わたる 航	わたる 航	情報化社会における「集合知」発生メカニズムの社会生態学的検討 主査：准教授 高橋 伸幸
	まつもと 松 もと しん 信 吾	しん 信 吾	認知技能の熟達に伴うイメージ操作過程の変化－珠算学習者を対象にした実験的検討－ 主査：特任教授 菱谷 晋介
博士（法学）	かわむら 川 村 たか 行 のり 論	のり 論	年金と信託－受託者責任を中心とした日英比較法研究－ 主査：教授 加藤 智章
	さかまき 酒 巻 なお 修 や 也	なお 修 や 也	一部無効の本質と射程－一部無効論における当事者の意思の意義を通じて－ 主査：教授 松久 三四彦
	はまぶ 濱 ぐち こう 弘 太郎	こう 弘 太郎	損害賠償法における損益相殺に関する総合的研究 主査：教授 松久 三四彦

博士 (経済学)	いがらし 五十嵐 がく 岳	Essays on some nonparametric boundary-bias-free density estimators (境界バイアスのないノンパラメトリック密度推定量に関する研究) 主査:教授 柿沢 佳秀
博士 (経営学)	かま 鎌 だ 田 なお や 直 矢	サプライチェーン・マネジメントにおけるインテグレーションと成果の関係 主査:教授 坂川 裕司
博士 (経済学)	カレン ガゴイ KALENGA NGOY ジョン JOHN	Development of the mining industry in Congo: The copper industry in Katanga, 1906-2012 (コンゴ鉱山業の発展: カタンガ地域の銅産業 1906年~2012年) 主査:准教授 高井 哲彦
	こ ばやし 小 林 よう すけ 陽 介	米国における産業の再編と経済の金融化 主査:教授 岡部 洋實
博士 (経営学)	ふか 深 やま 山 せい や 誠 也	高齢者介護組織の経営 主査:教授 平本 健太
博士 (経済学)	マ 馬 カ 嘉 ハン 繁	中国国有銀行における内部労働市場の形成 主査:特任教授 宮本 謙介
博士 (医学)	かど や 角 谷 まさ とし 昌 俊	Pigment epithelium-derived factor inhibits the growth of human esophageal squamous cell carcinoma by suppressing neovascularization. (PEDFは血管新生を阻害することにより食道癌の増殖を抑制しうる) 主査:教授 武富 紹信
	あさ 浅 かわ 川 なお や 直 也	心不全患者における順応性自動制御換気の血行動態に与える急性効果の機序に関する研究 主査:教授 松居 喜郎
	あ 阿 べ 部 よう こ 容 子	超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引生検法 (EUS-FNA) における 22G 穿刺針のスタイレットの有無による組織採取の差異に関する多施設共同前向き無作為比較研究 主査:教授 松野 吉宏
	ア 安 ヤン 燕	Biological basis of the anxiolytic-like effect of mirtazapine in the rat conditioned fear stress model (ラット恐怖条件付けモデルにおけるmirtazapineの抗不安効果の生物学的基盤に関する研究) 主査:教授 吉岡 充弘
	いい 飯 つか 塚 さとし	TRUE Gene silencing法を用いたcyclin D1の発現抑制による頭頸部扁平上皮癌細胞の増殖抑制 主査:准教授 濱田 淳一
	いわ 岩 さき 崎 こう 浩 じ 司	造影剤, 局所麻酔薬が椎間板変性に与える影響についての研究 主査:教授 山本 有平
	えん 遠 どう 藤 しょう こ 将 吾	Porphyrin Derivatives Mediated Sonodynamic Therapy on Malignant Glioma in Vitro (悪性神経膠腫細胞株に対するポルフィリン誘導体を用いた音響力学療法) 主査:教授 田中 伸哉
	おお 大 たけ 竹 じゅん や 淳 矢	Studies on effective induction of cancer antigen-specific T cells and its application for cancer immunotherapy (がん抗原特異的T細胞の効果的な誘導とがん免疫治療への応用に関する研究) 主査:教授 瀬谷 司
	おお 大 にし 西 れい ぞう 礼 造	ラット dextran sulfate sodium誘発腸炎モデルに対するヒト羊膜由来間葉系幹細胞投与の効果 主査:准教授 北村 秀光
	おお 大 の 野 よう すけ 陽 介	Studies on functional regulation of human dendritic cells by IL-6/STAT3 signaling pathway and the effects of anti-tumor immunity in a tumor microenvironment (IL-6/STAT3シグナル経路によるヒト樹状細胞の機能制御と抗腫瘍免疫への影響に関する研究) 主査:教授 佐藤 典宏
おお 大 みや 宮 ゆう き 友 貴	VGluT3を発現するCCK陽性バスケット細胞はマウスの脳の特定の皮質及び皮質様扁桃体領域において内因性カンナビノイドシグナル関連分子を豊富に備えた陥入型シナプスを形成する 主査:教授 吉岡 充弘	
おお 大 もり 森 さ おり 沙 織	大腸鋸歯状病変発生における腸管スピロヘータの関与についての検討 主査:教授 平野 聡	

博士（医学）	かど ぐち とも やす 門 口 智 泰	Studies on the Development Process of Angiotensin II-Induced Skeletal Muscle Abnormalities and Role of NAD(P)H Oxidase 2 (アンジオテンシンII誘発性骨格筋異常の進展過程とNAD(P)H oxidase 2が及ぼす役割の検討) 主査：教授 岩崎 倫政
	かね こ きた ひろ 金 子 貞 洋	Functional analysis of Ceacam1 that is expressed in the glioblastoma-initiating cells (膠芽腫幹細胞に発現されている膜タンパク質Ceacam1の機能解析) 主査：教授 田中 伸哉
	かね し よう すけ 兼 次 洋 介	Influence of light exposure in night time on sleep development of preterm infants (夜間の光曝露が早産児の睡眠発達に及ぼす影響に関する研究) 主査：教授 有賀 正
	かめ だ ゆう すけ 亀 田 裕 亮	Siglec-15を介した生体内骨吸収制御機構に関する研究 主査：教授 大場 雄介
	かわ はた しゅう へい 川 畑 修 平	胆管大結石に対する乳頭大径バルーン拡張術の有用性に関する研究 主査：教授 平野 聡
	きの した まと し 木 下 哲 志	Novel Pharmacological Target for the Treatment of Ocular Neovascular Diseases (眼内血管新生性疾患に対する新規治療の探索) 主査：教授 村上 正晃
	こ じま たか し 小 島 崇 史	妊娠高血圧腎症モデルマウスにおけるオートファジーの意義とATG9の役割の解明 主査：教授 筒井 裕之
	こ すぎ みず は 小 杉 瑞 葉	Studies on inhibitory interaction between graft-derived and reconstituted T cells involves murine chronic graft-versus-host disease (慢性移植片対宿主病における移植片由来および再構築由来T細胞の相互作用に関する研究) 主査：教授 橋野 聡
	こ ばやし けん たろう 小 林 健太郎	Postoperative assessment of donor's hepatic asialoglycoprotein receptor function using Tc-99m GSA scintigraphy in living donor liver transplantation (Tc-99m GSAシンチグラフィを用いた生体肝移植ドナーにおける術後のアシアロ糖タンパク受容体機能評価に関する研究) 主査：教授 武富 紹信
	こ とう けい こ 後 藤 佳 子	Synthetic PAMPS gel activates BMP/Smad signaling pathway in ATDC5 cells, which plays a significant role in the chondrogenic differentiation independent of insulin (合成PAMPSゲルはATDC5細胞におけるBMP/Smadシグナル伝達経路を活性化し、それはインスリン非依存性軟骨分化において重要な役割を果たす) 主査：教授 岩崎 倫政
	さ さき さち こ 佐々木 幸 子	日本人労働者における短時間睡眠および不眠が慢性腎臓病発症に及ぼす影響について 主査：教授 佐藤 典宏
	さ さき はじめ 佐々木 元	マウスiPS細胞から誘導した制御性マクロファージ様細胞によるiPS細胞由来アログラフトの生着延長効果の検討 主査：教授 清野 研一郎
	サメー エルモルシー Sameh Elmorsy アハメド エルモルシー Ahmed Elmorsy	A study of the chondroprotective effects of high molecular weight cross-linked hyaluronic acid in a rabbit knee osteoarthritis model (家兎関節症モデルにおける高分子ヒアルロン酸の軟骨保護作用に関する研究) 主査：教授 近藤 亨
	しば え やすし 洪 江 寧	マウスCommunity-Associated Methicillin-Resistant <i>Staphylococcus aureus</i> 肺炎モデルにおけるInterleukin-17の役割 主査：准教授 森松 組子
	すず き たか ゆき 鈴 木 孝 幸	細胞質内ウイルスDNAへの細胞特異的な自然免疫応答とウイルスによるその抑制 主査：教授 有賀 正
すず き まさ のぶ 鈴 木 正 宣	TRIM39 negatively regulates NF $\kappa$ B signal through stabilization of Cactin (TRIM39はCactinの安定化を介して、NF $\kappa$ Bシグナルを負に制御する) 主査：教授 廣瀬 哲郎	

博士 (医学)	すみ だ けん たろう 角 田 健太郎	Studies on biological properties and immunosuppressive function of myeloid-derived suppressor cells in tumor microenvironment (がん微小環境におけるミエロイド由来抑制性細胞群の性状とその免疫抑制機能に関する研究) 主査：教授 瀬谷 司
	たか しな た いち 高 階 太 一	Histone methyltransferase EZH2阻害剤による非小細胞肺癌細胞に対する抗腫瘍効果, 及び histone deacetylase (HDAC) 阻害剤との併用効果の検討 主査：教授 松野 吉宏
	たけ むら りょう 竹 村 龍	マウス腫瘍細胞のネクロトーシス誘導経路に関する研究 主査：教授 廣瀬 哲郎
	つくだ よう こ 佃 曜 子	Anti-adipogenic and anti-viral effects of L-carnitine on hepatitis C virus infection (L-カルニチンのC型肝炎ウイルス増殖抑制効果に関する研究) 主査：教授 清野 研一郎
	てら した かつ み 寺 下 勝 巳	肝内胆管癌における上皮間葉転換に関する分子の発現と臨床病理学的研究 主査：准教授 神山 俊哉
	にし かわ みき と 西 川 幹 人	Exercise capacity in chronic kidney disease (慢性腎臓病における運動能力) 主査：教授 生駒 一憲
	はし もと ゆう き 橋 本 勇 希	多発消失性白点症候群における網膜層厚と脈絡膜循環動態の経時的変化 主査：教授 清水 宏
	はや かわ あきら 早 川 輝	死後の血液中サイログロブリン濃度の値による法医学的診断の有用性に関する研究 主査：教授 藤田 博美
	はやし ひで ゆき 林 秀 幸	ターゲットシーケンス法を用いた膵がんの薬物応答性に関与する遺伝子変異プロファイルの作成と変異情報の予後予測バイオマーカーとしての有用性に関する研究 主査：教授 武富 紹信
	ば ば もと 馬 場 基	細胞質のNF-κB/p65強発現はトリプルネガティブ乳癌において予後良好な因子である 主査：教授 櫻木 範明
	まつ かわ とし ひろ 松 川 敏 大	抑制型ペア型免疫受容体LMIR3/CD300fの欠損は炎症性腸疾患を増悪させる 主査：教授 坂本 直哉
	まつ しま まさ あき 松 島 理 明	Studies on the comparison of different symptom assessment scales for multiple system atrophy (多系統萎縮症の症状評価スケールの比較検討に関する研究) 主査：教授 生駒 一憲
	まつ もと りゅう じ 松 本 隆 児	膀胱癌の浸潤・転移メカニズムの検討 主査：教授 櫻木 範明
	まる やま あきら 丸 山 晃	TLR2 シグナルは MDSCの生存と抑制活性を増強する 主査：教授 村上 正晃
	みず かみ かず や 水 上 和 也	Small conductance Ca <sup>2+</sup> -activated K <sup>+</sup> current is upregulated via the phosphorylation of Ca <sup>2+</sup> /calmodulin-dependent protein kinase II in cardiac hypertrophy (カルシウム/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼII活性化による肥大心のSKチャンネル調節機序の検討) 主査：教授 三輪 聡一
	みず の おさむ 水 野 修	遺伝性掌蹠角化症の2病型；長島型掌蹠角化症と線状掌蹠角化症における原因遺伝子とその病態に関する研究 主査：教授 石田 晋
み なみ ゆう すけ 三 浪 友 輔	ヒト滑膜肉腫におけるmicroRNAの機能解析 主査：教授 山本 有平	
やま ぎき たけ し 山 崎 健 史	CD74 expression is increased with amplified activation of parietal epithelial cells by lipopolysaccharide treatment in the mouse model of focal segmental glomerulosclerosis (巣状分節性糸球体硬化症マウスモデルにおいて、リポポリサッカライド刺激によりボウマン嚢壁側上皮細胞の活性化が増幅され、CD74発現が増強する) 主査：教授 篠原 信雄	



博士 (医学)	<p>ラニア ハッサン Rania Hassan モハメド ハッサン Mohamed Hassan</p>	<p>The <i>SKINTI</i>-like Gene Is Inactivated in Hominoids But Not in All Primate Species: Implications for the Origin of Dendritic Epidermal T Cells (ヒト及び類人猿で不活化しているSKINT1様遺伝子の旧世界ザルでの機能残存と樹状表皮T細胞の由来に関する検討)</p> <p>主査：教授 志田 壽利</p>
	<p>リトル ケリス Lyttle Kerise アリスア Alecia</p>	<p>Postnatal stress exposure infers depressive-like behavior and morphological changes in rats (ラット幼若期ストレスはうつ様行動と形態学的変化を引き起こす)</p> <p>主査：教授 久住 一郎</p>
	<p>リヨン チェン LEONG CHEAN リン RING</p>	<p>New insight into the host and virus interaction of HBV (HBVに対する宿主応答の解析に関する研究)</p> <p>主査：教授 志田 壽利</p>
博士 (歯学)	<p>いけ だ まさ あき 池 田 真 明</p>	<p>Release from optimal compressive force suppresses osteoclast differentiation (至適圧縮力の解放は破骨細胞の分化を減弱する)</p> <p>主査：教授 飯田 順一郎</p>
	<p>いけ だ よし き 池 田 欣 希</p>	<p>Histological examination on bone tissue around titanium implants bearing early occlusal loading after the immediate placement into extraction sockets (抜歯即時埋入後早期咬合負荷を与えたチタンインプラント周囲骨の組織学的検索)</p> <p>主査：教授 横山 敦郎</p>
	<p>うえ きた ひろ き 上 北 広 樹</p>	<p>液状飼料飼育による成長期ラット顎関節軟骨に関する免疫組織化学的および微細形態学的研究 主査：教授 山口 泰彦</p>
	<p>うし むら しゅう や 牛 村 秀 耶</p>	<p>自動pHサイクル装置を用いた乳歯に対するシーラントの脱灰抑制効果の評価 主査：教授 八若 保孝</p>
	<p>おお つか ま い 大 塚 麻 衣</p>	<p>Effectiveness of training methods to improve orbicularis oris muscle endurance in patients with incompetent lips (口唇閉鎖不全者に対する持久力トレーニングの有効性)</p> <p>主査：教授 飯田 順一郎</p>
	<p>しま けい こ 島 恵 子</p>	<p>Effect of masticatory movements on head, trunk and body sways during standing position (咀嚼運動が頭部動揺, 体幹動揺, 身体重心動揺に及ぼす影響)</p> <p>主査：教授 横山 敦郎</p>
	<p>たけ うち たみよ 竹 内 多美代</p>	<p>Symptoms and physiological responses to prolonged, repeated, low-level tooth-clenching in humans (低強度で長時間の実験的クレンチングが引き起こす臨床症状と生理的反応)</p> <p>主査：教授 山口 泰彦</p>
	<p>ち だ なつ こ 千 田 奈津子</p>	<p>Disease specificity of anti-tryptophan hydroxylase-1 and anti-AIE-75 autoantibodies in APECED and IPEX syndrome (APECEDとIPEXにおける抗TPH-1抗体と抗AIE-75抗体の疾患特異性)</p> <p>主査：教授 八若 保孝</p>
	<p>なか にし こう 中 西 康</p>	<p>Characterization of poly(L-lactic acid)/ organically modified montmorillonite nanocomposites synthesized by a solution intercalation method (ソリューションインターカレーション法により作製したポリ-L-乳酸/有機化モンモリロナイトナノコンポジットの特性)</p> <p>主査：教授 飯田 順一郎</p>
	<p>の がわ とし ふみ 野 川 敏 史</p>	<p>Comparison of treatment outcome between implant-supported fixed prostheses and removable partial dentures in patients with mandibular distal-extension edentulous spaces (下顎遊離端欠損患者におけるデンタルインプラントと部分床義歯の治療効果の比較)</p> <p>主査：教授 横山 敦郎</p>
<p>ひこ ね あつし 彦 根 敦</p>	<p>矯正学的歯の移動後の歯槽骨再形成に対する低出力超音波パルスの効果 主査：教授 飯田 順一郎</p>	
<p>ひこ ね くみ こ 彦 根 久美子</p>	<p>Histochemical examination on periodontal tissues of <i>Klotho</i>-deficient mice fed with phosphate insufficient diet (低リン餌飼育 <i>Klotho</i> 欠損マウスの歯周組織における組織化学的検索)</p> <p>主査：教授 飯田 順一郎</p>	

博士（歯学）	ひさ だ おき な 久 田 明 奈	歯根外部吸収想定モデルにおける各種根管洗浄法の水酸化カルシウム貼薬効果に及ぼす影響 主査：教授 八若 保孝
	ひさ もと め り 久 本 芽 璃	A systematic analysis for localization of predominant growth factors and their receptors involved in the murine tooth germ differentiation by use of in situ hybridization technique (In situ hybridization法によるマウス歯胚の分化に関連する成長因子と受容体の局在解析) 主査：教授 横山 敦郎
	まつ むら かある 松 村 馨	メダカ咽頭歯・咽頭骨にみられる硬組織間接着界面の形態学的特徴 主査：教授 飯田 順一郎
	おお き さい こ 大 木 彩 子	フッ化物徐放性材料の象牙質表面への塗布による脱灰抑制効果 主査：教授 佐野 英彦
	お がわ こう すけ 小 川 幸 佑	Periodontal tissue engineering by nano beta-TCP scaffold and fibroblast growth factor 2 in 1-wall infrabony defects of dogs (イヌ1壁性骨欠損におけるナノβ-TCPスキャフォールドおよびFGF2を用いたPeriodontal tissue engineering) 主査：特任教授 川浪 雅光
	おく しや ゆ か 奥 舎 有 加	L-ヒスチジンによる摂食抑制メカニズムの解明 主査：教授 山崎 裕
	かど わき よし たか 門 脇 佳 孝	Bond Performance of "Touch and Cure" Adhesives on Resin Core Systems (接触硬化型接着材を用いた新規レジンコアシステムの接着性能) 主査：教授 佐野 英彦
	かわ の しん べい 川 野 晋 平	Microtensile bond strength of a newly developed resin cement to dentin (新規接着性レジンセメントの象牙質微小引張り強さ) 主査：教授 佐野 英彦
	かわ むら りょう 川 村 良	腫瘍及び非腫瘍細胞由来アルカリ性ホスファターゼの阻害剤に対する反応性の相違 主査：教授 山崎 裕
	く どう とも なり 工 藤 智 也	骨芽細胞様細胞 (MC3T3-E1) のthapsigargin感受性Ca依存ATPaseの分離 主査：教授 山崎 裕
	すず き ひらく 鈴 木 啓	自然免疫応答におけるインターフェロン応答の正の調節因子としてのBinCARD2の解析 主査：教授 田村 正人
	テイ セイ ジョウ 丁 世 俊	Effect of different remaining dentin thickness on microtensile bond strength of current adhesive systems (残存象牙質の厚さと水中保存が接着強さに与える影響について) 主査：教授 佐野 英彦
	とら や ひさし 虎 谷 彌	Osteoblastic function is relatively activated in <i>c-src</i> deficient adult mice but not in <i>c-fos</i> deficient mice (骨芽細胞の機能は、 <i>c-fos</i> 遺伝子欠損マウスではなく <i>c-src</i> 遺伝子欠損マウスで活性化される) 主査：教授 網塚 憲生
	はし もと なお き 橋 本 直 樹	改良pHサイクルによるエナメル質におけるフッ素取り込み量の評価 主査：教授 佐野 英彦
	パン フン 潘 峰	The effects of different application time on all-in-one self-etching adhesives (象牙質面処理の違いが接着材の接着強さに及ぼす影響) 主査：教授 佐野 英彦
ふく やま ま い 福 山 麻 衣	オフィスブリーチング後のエナメル質に対するフッ化物歯面塗布の効果 -新規押し込み硬さ試験およびTMR法による評価 - 主査：教授 佐野 英彦	
ふな と よし き 船 戸 良 基	A new technique for analyzing trace element uptake by human enamel (マイクロPIGE/PIXEを用いたヒトエナメル質における微量元素取り込みの測定) 主査：教授 佐野 英彦	

博士（歯学）	もも せ たけ ひと 百 瀬 越 人	Periodontal wound healing by collagen hydrogel scaffold and FGF2 in class II furcation defects in dog (イヌ根分岐部Ⅱ級骨欠損におけるコラーゲンハイドロゲルスキャフォールドとFGF2による歯周組織治癒) 主査：特任教授 川浪 雅光
	やなぎ さわ こう 柳 澤 剛	炭酸カルシウムまたは $\alpha$ -TCPを複合化した4-META/MMA-TBBレジン上への新生骨の接触 主査：特任教授 川浪 雅光
	うー うえん うえん 于 聞 文	Changes in tumor oxygen state after sorafenib therapy evaluated by $^{18}\text{F}$ -fluoromisonidazole hypoxia imaging of renal cell carcinoma xenograft (腎細胞癌モデルにおけるsorafenib治療後の腫瘍内酸素状態の変化を $^{18}\text{F}$ -fluoromisonidazole低酸素イメージングにより評価) 主査：教授 北川 善政
	うん ま はび ば Umma Habiba	Cytoplasmic expression of HuR may be a valuable diagnostic tool for determining the potential for malignant transformation of oral verrucous borderline lesions (HuRの細胞質発現は口腔疣贅状病変の悪性化の指標となる) 主査：教授 進藤 正信
	さか た けんいちろう 坂 田 健一郎	RNA編集酵素ADAR2の発現抑制は悪性中皮腫細胞の悪性度を低下させる 主査：教授 北川 善政
	すぎ やま まさ ひろ 杉 山 正 博	Activation of NLRP3 inflammasome in dendritic cells and macrophages by <i>Mycoplasma salivarium</i> ( <i>Mycoplasma salivarium</i> による樹状細胞ならびにマクロファージにおけるNLRP3インフラマソーム活性化) 主査：教授 北川 善政
	つば い か な こ 坪 井 香奈子	Effects of drug discontinuation after short-term daily alendronate administration on osteoblasts and osteocytes (アレンドロネート連日投与中止が骨芽細胞・骨細胞に与える組織化学的影響) 主査：教授 北川 善政
	ほう しょう たか ゆき 北 條 敬 之	活性酸素種によるBiglycan発現誘導を介した腫瘍血管内皮細胞の血管新生能亢進 主査：教授 藤澤 俊明
	みや た かず き 宮 田 一 生	歯科外来手術室入室前の緊張緩和を目的とした音楽鎮静効果に関する研究－心拍変動解析を用いた無作為比較試験－ 主査：教授 藤澤 俊明
わ だ ま ゆ み 和 田 麻友美	水疱性類天疱瘡自己抗原である17型コラーゲンの異なるエピトープに対する抗体の病原性解析 主査：教授 北川 善政	
博士（獣医学）	かん ぞん しんく 姜 成 植	Studies on <i>in vitro</i> production of bovine embryos: effects of penicillamine, hypotaurine and epinephrine on fertilization and individual embryo culture on blastocyst development (牛の体外胚生産に関する研究：ペニシラミン、ハイポタウリンおよびエピネフリンが受精に与える影響と個別胚培養が胚盤胞発生に与える影響) 主査：教授 木村 享史
	き むら じゅん べい 木 村 純 平	Studies on molecular pathogenesis of murine autoimmune glomerulonephritis- an early sign to the progression of chronic kidney disease indicated by injured podocytes - (自己免疫性糸球体腎炎モデルマウスの分子病態に関する研究－慢性腎臓病の早期進行サインとしての足細胞傷害－) 主査：教授 昆 泰寛
	くろ だ まこと 黒 田 誠	Roles of TIM-1 in filovirus entry into cells (フィロウイルスの細胞侵入におけるTIM-1の役割) 主査：教授 高田 礼人
	さかい みず き 境 瑞 紀	Studies on the virulence factor involved in the pathogenicity in tick-borne encephalitis virus infection (ダニ媒介性脳炎ウイルス感染における病原性発現に関与するウイルス側因子に関する研究) 主査：教授 菊和 宏明

博士 (獣医学)	佐々木 隼 人 ささき はや と	Study of genetic background-dependent diversity of renal failure caused by the <i>tenis2</i> gene deficiency in the mouse (マウスのテンシン2遺伝子欠損に起因する腎障害における遺伝学的背景の影響に関する研究) 主査：教授 安居院 高志
	CHANGKAEW カンジャナ KANJANA	Characterization of antimicrobial resistant <i>Escherichia coli</i> isolated from food producing-animals in Thailand (タイの食料生産用動物から分離された薬剤耐性大腸菌の性状解析) 主査：教授 鈴木 定彦
	邱 永 晋 チュウ ヨン ジン	Epidemiological and bioinformatical analyses of tick-borne pathogens (マダニ由来病原体に関する疫学ならびに生物情報科学的解析) 主査：教授 杉本 千尋
	みやもと りょう 亮 宮 本 亮	神経系における硫化水素産生機序の解明 主査：特任教授 伊藤 茂男
博士 (情報科学)	小 川 純 お がわ じゅん	Water Flow Control Methodology to Inhibit Seaweed Twist Based on Physics Simulation (物理シミュレーションに基づく海洋バイオマスの絡み制御技術) 主査：教授 山本 雅人
	た 村 康 将 た むら やす まさ	Studies on Advanced Metaheuristics employing Local Clustering for Job-shop Scheduling Problem (ジョブショップスケジューリング問題に対する局所クラスタリングに基づくメタ解法) 主査：教授 山本 雅人
	お の りょう た 太 小 野 良 太	Service aspect oriented Recommender Systems (サービスの特徴を考慮した推薦システム) 主査：教授 鈴木 恵二
	こん の よう こ 子 今 野 陽 子	Structured Approach for Local Clustering Organization (局所クラスタリング組織化法の構造化アプローチ) 主査：教授 鈴木 恵二
	さか もと ゆう すけ 輔 坂 本 悠 輔	キーワードのあいまい一致を導入したキーワードプログラミングシステムに関する研究 主査：教授 栗原 正仁
	ジョ 徐 タク ゼン 然 徐 卓 然	A Study of Attraction Basin Sphere Estimation for Niching Evolutionary Algorithms (ニッチング進化計算アルゴリズムのためのAttraction Basin Sphere計算法の提案) 主査：教授 山本 雅人
	シイ 石 ウェイ 偉 石 偉	A New Interactive Visualization Framework for Defining Both Standard Charts and Nonstandard Charts Based on Two Tree-structured Schemata (二種類の木構造スキーマを用いて、標準チャートと非標準チャートを定義可能な新しいインタラクティブ情報可視化フレームワークに関する研究) 主査：特任教授 田中 譲
	でん づみ しゅう へい 平 伝 住 周 平	Studies on Decision Diagrams for Efficient Manipulation of Sets and Strings (集合および文字列を効率よく操作するための決定グラフに関する研究) 主査：教授 湊 真一
バク 朴 ヒン 斌 朴 斌	セマンティック・ウェブ上のリソースの探索的検索・統合・可視化分析フレームワーク 主査：特任教授 田中 譲	
博士 (工学)	あき ほ たか ふみ 史 秋 保 貴 史	Coherent control of nuclear spins in GaAs using spin injection techniques from a half-metallic spin source (ハーフメタル強磁性体からのスピン注入を用いたGaAsにおける核スピンのコヒーレント制御) 主査：准教授 植村 哲也
	いけ うち あき ら 朗 池 内 昭 朗	STM/STS and SP-STS study of surface structural and electronic properties of $Fe_3O_4(001)$ thin films (走査トンネル顕微鏡およびスピン偏極走査トンネル顕微鏡によるマグネタイト薄膜表面の原子構造と電子状態に関する研究) 主査：教授 末岡 和久



博士 (工学)	いし くら とも つぐ 石 倉 丈 継	Electrical spin injection from ferromagnet into an InAs quantum well (強磁性体からInAs量子井戸への電氣的スピ注入に関する研究) 主査: 准教授 植村 哲也
博士 (情報科学)	ゴンザレス Gonzalez カラバリン リゼス Carabarin Lizeth	Bio-Inspired Electronic Circuits and Stochastic Information Processing Systems exploiting Noise and Fluctuations (ゆらぎを利用する生物的な電子回路と確率的情報処理システムに関する研究) 主査: 准教授 浅井 哲也
博士 (工学)	サイ 崔 シ 志 キン 崔 志 欣	Growth and Spin Transport in InAs Nanowires (InAsナノワイヤの成長とスピン輸送) 主査: 教授 本久 順一
	なか い せい じ 中 井 栄 治	Study on Selectively Grown GaAs-based Nanowire Array Solar Cells (有機金属気相選択成長法を用いたGaAsナノワイヤアレイ太陽電池に関する研究) 主査: 特任教授 福井 孝志
博士 (情報科学)	にし まき か おり 西 牧 可 織	二重位相共役鏡による光衛星間通信システムの高性能化に関する研究 主査: 准教授 岡本 淳
博士 (工学)	ふくだ 福田 エリック しゆん 福田 エリック 駿	A Study on Acceleration Methods of Data Center Applications with Reconfigurable Hardware (リコンフィギュラブルハードウェアによるデータセンターアプリケーション高速化手法に 関する研究) 主査: 教授 本村 真人
	むら 村 かみ よう すけ 村 上 暢 介	透過型電子顕微鏡を用いた金属原子移動現象の実時間微細構造解析に関する研究 主査: 教授 高橋 庸夫
博士 (情報科学)	ツァイ 蔡 ビン 根 蔡 萍 根	Study on spatial and temporal variations in single cell rheology measured by atomic force microscopy (原子間力顕微鏡による単一細胞レオロジーの時空間変化に関する研究) 主査: 教授 岡嶋 孝治
	キセリョフ デニス Kiselev Denis	Study on a Cross-language Search Method for the Japanese TV Guide (日本語TVガイドにおける異言語間検索手法に関する研究) 主査: 教授 荒木 健治
	きた 北 じま し ほ 北 嶋 志 保	患者が発信する情報活用のための薬剤効果抽出に関する研究 主査: 教授 荒木 健治
	くす 楠 もと かつ とし 楠 元 克 敏	コンピュータグラフィックスにおける所望形状の雲の映像生成に関する研究 主査: 准教授 土橋 宜典
	ソウ 宋 ケン 妍 宋 妍	階層ベイズモデルの導入による映像の構造に注目したシーン分割の高精度化に関する研究 主査: 教授 長谷山 美紀
博士 (工学)	お 小 がわ まさ し 小 川 将 司	次世代パワー半導体デバイスの適用を考慮した高周波PWMインバータのひずみ・ノイズ低減 に関する研究 主査: 教授 小笠原 悟司
博士 (情報科学)	さ 佐 とう たか ひろ 佐 藤 孝 洋	電磁界解析を用いた電気機器の最適設計に関する研究 主査: 教授 五十嵐 一
	ジョウ 周 ロン 嶸 周 嶸	Detection of Cercospora Leaf Spot in Sugar Beet by Image-based Robust Tracking and Feature Extraction (ロバストなトラッキングと特徴抽出を用いたてんさいの褐斑病斑の検出) 主査: 教授 金子 俊一
	たか 高 はし けい た 高 橋 啓 太	ゼロサプレス型BDDを用いた動的生産プランニングの統合的計画法に関する研究 主査: 教授 小野里 雅彦
	てら 寺 うち なお や 寺 内 直 也	高温超電導量子干渉素子の量子的特性を考慮した数値解析に関する研究 主査: 准教授 野口 聡
博士 (工学)	バク 朴 ガラム 江 朴 江	Imitation Learning Framework using Principal Component Analysis for Humanoid Robot Motion Generation (ヒューマノイドロボット動作生成のための主成分分析を用いた模倣学習フレームワーク) 主査: 教授 近野 敦

<p>博士 (情報科学)</p>	<p>リヤン 梁 ドン 棟</p>	<p>Dynamic Scenes and Appearance Modeling for Robust Object Detection and Matching Based on Co-occurrence Probability (共起確率に基づいて動的シーンと外観のモデリングを用いたロバストな物体検出とマッチング) 主査：教授 金子 俊一</p>
<p>博士 (水産科学)</p>	<p>アイリーン ドロルフィーノ Irene Dolorfino アラビア Alabia</p>	<p>Potential habitat of neon flying squid (<i>Ommastrephes bartramii</i>) in western and central North Pacific from spatio-temporal models (西部・中部北太平洋における時空間モデルによるアカイカの潜在的な生息域分布の解明) 主査：教授 綿貫 豊</p>
	<p>クリストファー Christopher アウラムラング Aura Mulanda</p>	<p>An integrated approach of habitat suitability model for management of Japanese scallop (<i>Mizuhopecten yessoensis</i>) aquaculture: a comparative study in Funka Bay and Mutsu Bay, Japan (ホタテガイ養殖管理のための好適生息域モデルの統合的アプローチ：噴火湾と陸奥湾との比較研究) 主査：教授 今井 一郎</p>
	<p>いちむらまさき 市村政樹</p>	<p>根室地域におけるサケの自然再生産の現状と評価に関する研究 主査：特任教授 桜井 泰憲</p>
	<p>ジャン 張 ユウ 越</p>	<p>Survival Strategies of the Sea Snail <i>Nassarius fraterculus</i> (Dunker, 1860) (海産巻貝クロスジムシロの生存戦略) 主査：教授 矢部 衛</p>
	<p>たか はし ゆう き 高橋 勇 樹</p>	<p>CFD解析を用いたオッターボードの設計に関する研究 主査：教授 藤森 康澄</p>
	<p>ヴィジャイ Vijai ダルママニ Dharmamony</p>	<p>SPAWNING ECOLOGY AND EARLY LIFE HISTORY OF THE NEON FLYING SQUID (アカイカの繁殖生態と初期生活史) 主査：特任教授 桜井 泰憲</p>
	<p>ユ 柳 ヘ 海 ギョウ 均</p>	<p>LABORATORY STUDIES ON THE EFFECTS OF TEMPERATURE ON THE EARLY LIFE STAGES OF JAPANESE FLYING SQUID AND WALLEYE POLLOCK (スルメイカおよびスケトウダラの初期生活期に対する水温の影響に関する飼育実験研究) 主査：教授 綿貫 豊</p>
	<p>いし はら まなぶ 石原 学</p>	<p>魚類卵濾胞における排卵能獲得分子機構に関する研究 主査：教授 荒井 克俊</p>
	<p>ジョン 全 ジュン 峻 ヨン 登</p>	<p>Studies on the Potential of Marine Brown Algae for Antimicrobials and Mineral Supplements (海産褐藻の抗菌およびミネラルサプリメント機能に関する研究) 主査：教授 高橋 是太郎</p>
	<p>たか はし かず と 高橋 一 人</p>	<p>フコキサンチノールの臨床大腸癌および大腸癌細胞株に対する抗腫瘍効果に関する研究 主査：教授 高橋 是太郎</p>
<p>アラン ヘルツ Alan Hertz マリン グレエロ Marin Guerrero</p>	<p>Studies on Mitochondrial Genome for Phylogenetic Inference and Species Identification in Pectinidae (イタヤガイ科貝類の系統推定と種判別にに向けたミトコンドリアゲノムに関する研究) 主査：教授 都木 靖彰</p>	
<p>み の 野 さやか 美 野 さやか</p>	<p>Microbial ecology in deep-sea hydrothermal vents: the population genetics of metabolically unique chemolithoautotrophic bacteria (深海底熱水活動域の微生物生態：新規化学合成独立栄養細菌の集団遺伝) 主査：教授 尾島 孝男</p>	
<p>博士 (環境科学)</p>	<p>ほん じょう けい た 本 城 慶 多</p>	<p>Game-theoretic models of human behavior: malaria prevention and emissions trading (人間行動のゲーム理論モデル～マラリア予防と排出権取引を例として) 主査：准教授 佐竹 暁子</p>
	<p>デボン ロナルド Devon Ronald ダブリン Dublin</p>	<p>“Satoyama-Satoumi” regional management: a universal cognition and practice for green economy, ecosystem health and sustainable society in indigenous communities of the world (“里山里海” 地域管理：世界の先住民族のグリーン経済，エコシステムヘルス，持続的社會に資する実践と普遍的な認識) 主査：教授 田中 教幸</p>

博士 (環境科学)	アンバリシュ Ambarish ポクレル Pokhrel	Studies on ice core records of dicarboxylic acids, $\omega$ -oxocarboxylic acids, pyruvic acid, $\alpha$ -dicarbonyls and fatty acids from southern Alaska since 1665 AD: A link to climate change in the Northern Hemisphere (南アラスカにおけるジカルボン酸, $\omega$ -オキソカルボン酸, ピルビン酸, $\alpha$ -ジカルボニルの1665年以降のアイスコア記録に関する研究: 北半球における気候変動とのリンク) 主査: 教授 河村 公隆			
	アヴィメッド Avirmed ダシュツェレン Dashtseren	Study on the ground thermal regimes under a forest-steppe mosaic in the area of discontinuous permafrost, Mongolia (モンゴル不連続永久凍土帯の草原森林混在域における地温動態に関する研究) 主査: 准教授 石川 守			
	オウ 王	カ 可	Provenance and depositional variability in response to climate and sea level changes in the subaqueous Yangtze delta and the inner shelf of the East China Sea during the middle and late Holocene (中期-後期完新世における気候および海水準変動に応答した揚子江デルタおよび東シナ海陸棚の堆積物供給源および堆積様式の変化) 主査: 教授 杉本 敦子		
	おお 大	やぶ 藪	いく 幾	み 美	Chemical compositions of past soluble aerosols reconstructed from Greenland and Antarctic ice cores (南極及びグリーンランド氷床コアから復元した過去の水溶性エアロゾルの化学組成) 主査: 教授 Ralf Greve
	つし 對	ま 馬	あ あかね	山岳アイスコアを用いた北部北太平洋域の古環境復元に関する研究 主査: 教授 三寺 史夫	
	きの 木	した 下	こう 豪	た 太	Multilocus phylogeography of northeastern Asian hares (Leporidae, <i>Lepus</i> ) (複数遺伝子座を用いた北東アジア産ノウサギ属の系統地理学的研究) 主査: 准教授 鈴木 仁
	ふか 深	の 野	とおる 透	トイレ便器内の初期バイオフィーム形成とその制御に関する研究 主査: 教授 森川 正章	
	さ 佐	とう 藤	まさ 允	あき 昭	Larval dispersal patterns and their effects on population structures of two anemonefishes ( <i>Amphiprion frenatus</i> and <i>Amphiprion perideraion</i> ) in the Philippines (フィリピンにおけるクマノミ属魚類の幼生分散と個体群構造に関する研究) 主査: 教授 仲岡 雅裕
	ファン 樊	ミン 敏	Studies on spatial and temporal analysis of hydrological ecosystem services in watershed (流域における水文学的生態系サービスの時空間解析に関する研究) 主査: 教授 柴田 英昭		
	スヘルマン Suherman	Development of surface plasmon resonance biosensor using self-assembled monolayer (自己組織化単分子層を用いた表面プラズモン共鳴バイオセンサの開発) 主査: 准教授 川口 俊一			
キョウ 喬	リン 琳	Structure and stability studies on the lipid monolayers exposed to low-level ozone (低濃度オゾンに曝露した脂質単分子膜の構造と安定性に関する研究) 主査: 准教授 叶 深			
博士 (理学)	くろ 黒	だ 田	まさ 匡	みち 迪	On the GIT moduli of semistable pairs consisting of a plane cubic curve and a line (平面三次曲線と直線からなる半安定な組のGITモジュライについて) 主査: 准教授 朝倉 政典
	ふた 二	くち 口	しんいちろう 伸一郎	Time-ordered Exponential for Unbounded Operators with Applications to Quantum Field Theory (非有界作用素に対するtime-ordered exponentialと場の量子論への応用) 主査: 教授 新井 朝雄	
	ゆく 行	の 野	わたる 亘	Abnormal geodesics in generalized subriemannian geometry (一般化されたサブリーマン幾何学における異常測地線) 主査: 教授 石川 剛郎	

博士 (理学)	わか 若 さ 狭 きょう 恭 へい 平	The lifespan of solutions to initial value problem for nonlinear wave equations (非線形波動方程式に対する初期値問題の解の最大存在時間) 主査:教授 久保 英夫
	おか 岡 ゆう 雄 き 基	STM Spectroscopy in Organic Superconductor $\kappa$ -(BEDT-TTF-d[3,3]) <sub>2</sub> Cu[N(CN) <sub>2</sub> ]Br (有機超伝導体 $\kappa$ -(BEDT-TTF-d[3,3]) <sub>2</sub> Cu[N(CN) <sub>2</sub> ]BrにおけるSTM分光) 主査:教授 野村 一成
	うめ 梅 い 井 みち 迪 こ 子	Observational Study of Environmental Effects on Gas Deficiency of Nearby Cluster Galaxies (近傍の銀河団銀河のガスの欠乏と環境効果に関する観測的研究) 主査:准教授 徂徠 和夫
	おお 大 ぬま 沼 りょう 亮	Ultrastructural and phylogenetic studies of unarmoured kleptochloroplastidic dinoflagellates (盗葉緑体性無殻渦鞭毛藻類の微細構造学的・系統分類学的研究) 主査:教授 堀口 健雄
	おお 大 もり 森 かず 一 と 人	Geochemical and paleontological characteristics in "living fossil" Pacific sclerosponges (太平洋産 "生きた化石" 硬骨海綿骨格の地球化学的・古生物学的考察) 主査:教授 鈴木 徳行
	かわ 川 さき 崎 のり 教 ゆき 行	Isotopic signature of oxygen and magnesium for coarse-grained Ca-Al-rich inclusions from carbonaceous chondrites (炭素質コンドライトに含まれる粗粒難揮発性包有物の酸素・マグネシウム同位体宇宙化学) 主査:教授 塚本 尚義
	たか 高 はし 橋 こう 幸 じ 士	新生代石炭に由来した炭化水素ガスの生成・排出に伴う炭素・水素同位体分別に関する研究 主査:教授 鈴木 徳行
	まえ 前 だ 田 じゅん 隼	Morphology and dynamics of midlatitude sporadic-E from GPS total electron content observations (GPS全電子数観測による中緯度スポラディックEの形態と動態) 主査:教授 日置 幸介
	やす 安 だ 田 たか 貴 とし 俊	Glacier Surge Dynamics at the West Kunlun Shan inferred from Satellite Remote Sensing (衛星遠地観測に基づく西クンルン山脈における氷河サージならび流動構造) 主査:教授 古屋 正人
やま 山 だ 田 のり 規 こ 子	Diversity of endosymbiotic diatoms and photosynthetic pigments in dinoflagellates (渦鞭毛藻における共生珪藻と光合成色素の多様性) 主査:教授 堀口 健雄	
博士 (農学)	さか 阪 なか 中 みき 幹 やす 祥	挿入配列因子ISBto11を用いたピフィズス菌のトランスポゾン変異導入系の開発 主査:教授 横田 篤
	シン 申 ドン 鍊 チョル 鐵	養豚における生産者出資型インテグレーションの展開に関する研究-宮城県における家族養豚経営の動向を中心に- 主査:教授 柳村 俊介
	その 蘭 べ 部 れい 礼	リモートセンシングを用いた農業環境のモニタリングに関する研究 主査:准教授 谷 宏
	モハメッド Mohammad ロンディ Rondhi	Effect of Improved Technologies on Income of Smallholder Rubber Farmers in Indonesia (技術進歩がインドネシアのゴム作農家の所得に及ぼす効果) 主査:教授 近藤 巧
	あ 安 べ 部 えり 英 りか 香	ホウレンソウの花芽形成・抽だいに関する研究 主査:准教授 藤野 介延
	いし 石 くろ 黒 せい 聖 や 也	イネの網羅的転写解析を中心とした穂ばらみ期耐冷性の育種・遺伝学的研究 主査:教授 貴島 祐治
	さだ 貞 ひろ 廣 じゅ 樹 り 里	Dextran dextrinaseの触媒機構および細胞局在性の解明 主査:教授 木村 淳夫
ジ ヨ サン KYAW SAN ウィン WIN	Effects of dietary protein supplementation on rumen digesta kinetics and voluntary intake of rice straw in dairy cows (稲わらへのタンパク質飼料の補給が乳牛のルーメン内容物動態および自由摂取量に及ぼす影響) 主査:特任教授 近藤 誠司	



博士（農学）	たか はし 橋 あずさ	アロニアおよびハスカップ果実に含まれるアントシアニンの抗酸化能に関わる諸要因の解析 主査：准教授 鈴木 卓
	チン 陳 スン 孫 ル 祿	The Evolution of Endogenous Pararetrovirus Sequences in the Genomes of Rice and Other Grass Species (イネ及びイネ科植物種のゲノムに内在するパラレトロウイルス配列の進化) 主査：教授 貴島 祐治
	ふく ま 間 なお き 希	ルーメン内繊維分解コンソーシアムにおける細菌間相互作用に関する研究 主査：教授 小林 泰男
	ほり うち かず な 堀 内 和 奈	アスパラガスにおける単性花形成機構の解明と雄性種子生産技術の改良に関する研究 主査：教授 増田 清
	ほん ま 間 ゆう じ りょう 雄 二 朗	テンサイOwen型細胞質雄性不稔性に働く新規花粉稔性回復遺伝子Rf2の研究 主査：准教授 久保 友彦
	ミン ボー MIN BO	Effects of substitution of starch source with highly digestible fiber in concentrate on energy utilization and recovery of ovarian function in early lactating dairy cows (泌乳初期乳牛における濃厚飼料中デンプン源の高消化繊維への代替がエネルギー利用および卵巣機能回復に及ぼす影響) 主査：特任教授 近藤 誠司
	リュウ 劉 モン 錦 ケン 妍	Turnip mosaic virusに感染したArabidopsis 生態型Lerの全身えそ症状を決定するTuNI遺伝子の同定及び発現解析 主査：教授 増田 税
	あら かわ りょう た 荒 川 竜 太	Characterization of maize genotypes that differ in biological interactions with parasitic and symbiotic organisms with respect to strigolactones (トウモロコシにおける寄生および共生生物相互作用とストリゴラクトン分泌特性との関係) 主査：准教授 江澤 辰広
	きく 菊 ち 池 ゆう すけ 裕 介	Physiological and molecular mechanisms of phosphate uptake and translocation in arbuscular mycorrhizal symbiosis (アーバスキュラー菌根共生におけるリン酸吸収および輸送の生理・分子機構) 主査：准教授 江澤 辰広
	シャロン ユー リン Sharon Yu Ling ラウ LAU	Study on the diversity and vertical distribution of soil microorganisms in tropical peatlands of Sarawak, Malaysia, and characterization of nitrous oxide (N <sub>2</sub> O)-emitters and quenchers from the tropical peat soils (サラワク・マレーシア熱帯泥炭地における土壌微生物の多様性と垂直分布、および熱帯泥炭土壌から分離した亜酸化窒素 (N <sub>2</sub> O) の産生および消去に関わる微生物の特徴に関する研究) 主査：教授 橋床 泰之
	ウアン 王 シャオ 曉 ナ 娜	Study on the effects of elevated CO <sub>2</sub> , O <sub>3</sub> and high nitrogen loading on the rhizosphere dynamics of deciduous trees (落葉樹の根圏動態に対する高CO <sub>2</sub> とO <sub>3</sub> 及び高窒素負荷の影響に関する研究) 主査：教授 小池 孝良
	そ 曾 が 昌 し 史	The effect of urban form on biodiversity potential and the extinction of experience: land sharing and land sparing compared (都市の形状が生物多様性と自然体験の消失に及ぼす影響：土地の節約戦略と共有戦略の比較) 主査：准教授 庄子 康
ディアン Dhian ドウイバドドラ DWIBADRA	Taxonomy and Biogeography of the Family Macrochelidae (Acari: Mesostigmata) Associated with Dung Beetles (Coleoptera: Scarabaeidae) in Kalimantan, Indonesia (インドネシア・カリマンタンにおける食糞性コガネムシ科甲虫に便乗するハエダニ科 (ダニ亜綱：トゲダニ目) の分類および生物地理学的研究) 主査：教授 大原 昌宏	
やま した よし み 山 下 善 道	乳牛ふん尿の液肥利用を目的とした固液分離併用型好気性発酵 主査：教授 岩淵 和則	
博士（生命科学）	あさ の のぞ み 朝 野 希 美 Study on eukaryotic ribosome biogenesis (真核生物リボソーム生合成についての研究) 主査：教授 姚 関	

博士 (生命科学)	くし びき たか ひろ 櫛 引 崇 弘	Studies on the interaction between substances derived from pathogens and an antimicrobial peptide tachyplesin I (病原菌由来物質と抗菌ペプチドタキプレシンIの相互作用に関する研究) 主査：准教授 相沢 智康
	こ ぼやし もも こ 小 林 桃 子	Structural and functional insights into degradation and formation of glycosidic bond catalyzed by bacterial enzymes (グリコシド結合の分解および合成を触媒する細菌由来の酵素に関する構造および機能的考察) 主査：教授 姚 関
	たけ もと けん じ 竹 本 憲 司	Study on cellular response to compressive stress in mouse myoblasts : involvement of dephosphorylation of the myosin regulatory light chain via RhoA phosphorylation (マウス筋芽細胞における圧縮刺激に対する細胞応答に関する研究：RhoAのリン酸化によるミオシン調節軽鎖の脱リン酸化の関与) 主査：教授 芳賀 永
	リゼーシュ Rijeesh キヤキダターヤット Kizhakidathazhath	Dynamic Induction of Enantiomeric Excess from a Prochiral Azobenzene Dimer under Circularly Polarized Light (円偏光によるプロキラルアゾベンゼン二量体からの鏡像異性体過剰の動的誘起) 主査：教授 玉置 信之
	あさ の ま み 浅 野 真 未	冬眠シリアンハムスターにおける腸粘膜上皮の細胞更新遅滞 主査：准教授 園山 慶
	おか か おり 岡 香 織	Studies on nuclear receptors in reptiles with temperature-dependent sex determination (温度依存的性決定機構を持つ爬虫類の核内受容体に関する研究) 主査：准教授 勝 義直
	くぬ き もとし 功 刀 基	Study on relationship between evolution of photosystems and evolution of chlorophyllide <i>a</i> oxygenase in green plants (緑色植物における光化学系の進化とクロロフィル <i>b</i> 合成酵素の進化の関係に関する研究) 主査：教授 田中 歩
	くり はら み すず 栗 原 美寿々	Studies on regulatory mechanisms at the testis-specific <i>Tcam1/TCAM1P</i> gene locus in mouse and human (マウスとヒトにおける精巣特異的遺伝子 <i>Tcam1/TCAM1P</i> の発現調節機構に関する研究) 主査：准教授 木村 敦
	さ さ き しゅう 佐々木 秋	Molecular genetic study on gravitropism and gravitropic growth habit of the <i>Arabidopsis</i> shoot (シロイヌナズナシュートの重力屈性及び成長習性に関する分子遺伝学的研究) 主査：准教授 綿引 雅昭
	すず き ゆう や 鈴 木 悠 也	Physiological roles of <i>Arabidopsis</i> deadenylase, AtCCR4 (植物の脱アデニル化酵素AtCCR4の機能と役割) 主査：准教授 千葉 由佳子
	タイス Thais ワ ラ ン カ HUARANCCA レ ジ ュ ス REYES	Transcriptional activation and intracellular localization of <i>Arabidopsis</i> ubiquitin ligase ATL31 in defense and carbon/nitrogen response (シロイヌナズナヌビキチンリガーゼATL31の遺伝子発現およびタンパク質細胞内局在制御を介した植物免疫とC/N栄養環境適応機構の解析) 主査：教授 山口 淳二
	はぎ わら あかね 萩 原 茜	Studies on the mechanism of luteinizing hormone-induced expression of prostaglandin E <sub>2</sub> receptor EP4b essential for ovulation of the medaka (メダカ排卵に必須なプロスタグランジンE <sub>2</sub> 受容体EP4bのLHによる発現誘導機構に関する研究) 主査：特任教授 高橋 孝行
パオ 包 リヤン 亮	Study of light mediated-tropism and chloroplast movement in protonemata and gametophores in the moss <i>Physcomitrella patens</i> (コケ植物ヒメツリガネゴケにおける光屈性および葉緑体定位運動制御の研究) 主査：准教授 藤田 知道	

博士 (生命科学)	もり ち ひろ 森 千 紘	Studies on the audition-independent vocal development in songbird (ソングバードを用いた聴覚非依存的な発声パターンの発達に関する研究) 主査: 准教授 和多 和宏
	やま がみ か な こ 山 神 香菜子	A study on the effects of inositol depletion on the functions of phospholipid flippases in yeast (イノシトール欠乏が酵母リン脂質フリッパーズの機能に与える影響に関する研究) 主査: 教授 田中 一馬
博士 (薬科学)	とり や べ なお ゆき 鳥谷部 尚 之	肝臓非実質細胞を標的とする細胞内動態を考慮したsiRNAキャリアの開発 主査: 教授 原島 秀吉
	は なる たい き 羽 成 泰 貴	免疫抑制物質ブラシリカルジンAおよびCの全合成研究 主査: 准教授 穴田 仁洋
	ビョウ 朴	γセクレターゼによるAlcadeinの切断機構の解明と膜脂質組成が基質切断に及ぼす影響の解析 主査: 教授 鈴木 利治
	やま うち ひゅん 山 内 順	2型糖尿病分子メカニズムの解明と核酸医薬への展望 主査: 教授 原島 秀吉
	り 季 ショウ ケン 李 高 軒	Characterizing Topology of Surface Ligands on Liposomes (リポソーム表面に標識されたりガンドのトポロジーに関する評価) 主査: 教授 原島 秀吉
	わら しな しょう た 薬 科 翔 太	樹状細胞への効率的なsiRNA導入を実現する新規ナノキャリアの開発及び樹状細胞療法への展開 主査: 教授 原島 秀吉
	ワン ヤン チン 王 延 卿	Synthesis of Transition Metal Substituted Pentacene Derivatives and Their Application (遷移金属を置換基にもつペンタセン誘導体の合成及び応用研究) 主査: 教授 高橋 保
博士 (教育学)	あ ち ら よう へい 阿知良 洋 平	「平和的生存」をつくる学習-加害と被害の同時存在からの批判的再構成- 主査: 教授 宮崎 隆志
	おく むら や す こ 奥 村 安寿子	Early stages of visual word processing in Japanese Hiragana: Psychophysiological correlates of expertise in reading (日本語ひらがなにおける視覚単語処理の初期過程: 熟達した読みの心理生理学的基盤) 主査: 特任教授 室橋 春光
	きく ち ひろ みつ 菊 池 浩 光	単回性トラウマティック・ストレス受傷者のresilience発現を促進・阻害する諸要因の研究 主査: 教授 間宮 正幸
	やま もと あや 山 本 彩	支援を拒否する自閉症スペクトラム特性をもつ人に対する介入プログラムの開発 主査: 特任教授 室橋 春光
	さかき ひとみ 榊 ひとみ	子育てにおける学習と連帯-子育てにおける連帯を生成する学習の展開論理- 主査: 教授 宮崎 隆志
博士 (国際広報メディア)	キョウ ケイ メイ 邱 慧 鳴	中国のネット小説の物語論的構造及びそれを生み出したネットコミュニティのあり方-穿越小説を例に 主査: 准教授 西村 龍一
博士 (学術)	たか はし みち こ 高 橋 道 子	社会的コミュニケーションと間主観性-ハーバマスと丸山眞男を軸として- 主査: 教授 鈴木 純一
博士 (国際広報メディア)	ハ タ エ フ KHATAYEVA タ チ ア ナ TETYANA	ウクライナ国ドロゴピチ市の聖ユリイ教会堂(1657)-構成上の特質と壁画を中心にして- 主査: 准教授 堀田 真紀子
	ひら た み き 平 田 未 季	注意概念と推意理論を用いた日本語指示詞の統一的分析 主査: 教授 上田 雅信
博士 (保健科学)	いし だ か すみ 石 田 香 澄	偏性細胞内寄生性細菌クラミジアの宿主細胞への適応機構に関する研究 主査: 特任教授 小林 清一
	いし だ とも や 石 田 知 也	着地動作時の膝関節外反角度およびモーメントに影響する要因の検討-膝前十字靭帯損傷予防の観点から- 主査: 教授 浅賀 忠義

博士 (保健科学)	おおみや ひでとし 大 宮 秀 淑	慢性期統合失調症患者に対する認知機能改善療法 (CRT) - 前頭葉/実行機能プログラム (FEP) による実践的研究 - 主査: 教授 八田 達夫
	さわだ のりこ 澤 田 紀 子	車いすのバックレスト形状の違いによる高齢者の頭頸部アライメント及び頸部運動の比較 主査: 教授 山中 正紀
	なかむら まなみ 中 村 麻名美	3.0Tesla MRI装置による新しいk-space充填法を使用した頸動脈プラーク性状評価に関する技術的・臨床的研究 主査: 教授 小笠原 克彦
	はぎの いずみ 萩 野 泉	Ecology of Baka hunter-gatherers' children in southeast Cameroon. - nutritional status, physical activities, and daily behaviors - (カメルーン南東部に居住するピグミー系狩猟採集民の子どもにおける生態学的研究 - 栄養状態・身体活動・生活行動 -) 主査: 教授 小笠原 克彦
	まんい ひろき 萬 井 太 規	立位バランス制御の加齢の影響に関する研究 - 片脚立位動作の姿勢制御に着目して - 主査: 教授 前島 洋
	みうら たくや 三 浦 拓 也	健常者および慢性腰痛症例における体幹ローカル筋群とグローバル筋群の関連性 主査: 教授 遠山 晴一
	よしだ かずき 吉 田 一 生	Flow時の脳活動: 近赤外線分光法 (fNIRS) を用いた検討 主査: 教授 浅賀 忠義
博士 (工学)	かねこ しょうご 兼 子 翔 伍	ギガヘルツ弾性表面波時間分解イメージング法における任意周波数測定実現のための研究 主査: 准教授 松田 理
	かわしま ゆうき 河 島 佑 樹	Charge Stripe in FeTe (鉄テルルにおける電荷ストライプの研究) 主査: 准教授 市村 晃一
	さかもと もりつぐ 坂 本 盛 嗣	軸対称偏光素子を利用した光渦及び光格子の生成に関する研究 主査: 准教授 岡 和彦
	たきかわ よしのり 瀧 川 佳 紀	せん断流下における微粒子のブラウン運動 主査: 教授 折原 宏
	みずたか しょうご 水 高 将 吾	過負荷故障に対する複雑ネットワークの安定性に関する理論的研究 主査: 教授 矢久保 考介
	ヤン 麗 平 嚴 リー ベン	Formation dynamics of resident electron spin polarization and ensemble spin coherence in CdTe single quantum well (テルル化カドミウム単一量子井戸における残留電子スピン分極の形成ダイナミクスと集合スピニコヒーレンス) 主査: 教授 足立 智
	シ 施 詩	Creation and Strengthening Mechanism of Nano-sized Bubble Dispersion in Copper (ナノバブル分散銅の創製と転位-バブル相互作用メカニズム) 主査: 教授 鶴飼 重治
	チヨウ テン フェイ 張 騰 飛	Li-N-H System for Hydrogen Storage: An Investigation on Reaction Mechanism and Catalytic Effect (リチウム-窒素-水素系水素貯蔵材料の反応機構と触媒効果) 主査: 特任教授 大貫 惣明
	ロッチム バクティ Rochim Bakti カヨノ Cahyono	Ironmaking Process using Carbon Deposition by Chemical Vapor Infiltration (CVI) Method (化学気相浸透 (CVI) 法による炭素析出を用いる製鉄プロセス) 主査: 教授 秋山 友宏
	わかたけ おぎ たけのぶ 若 杉 剛 伸	超高压電子顕微鏡用ガス環境その場観察法の開発と応用 主査: 特任教授 大貫 惣明
たき た あつこ 瀧 田 敦 子	微小材料のクリープ特性評価のためのマイクロインデンテーション法に関する研究 主査: 教授 佐々木 克彦	



博士（工学）	しらとり たか ひさ 白鳥 貴久	Velocity profiling based rheometry toward model-free characterization of non-Newtonian fluids (非ニュートン流体のモデルフリー物性評価のための速度分布計測に基づくレオメトリ) 主査：教授 村井 祐一
	たき や ひろ あき 瀧谷 啓晃	Diffusion mechanism of water and ions in hardened cement pastes with different water to cement ratios (水セメント比の異なるセメント硬化体中の水およびイオンの拡散機構) 主査：教授 小崎 完
	かいとう たか ひろ 垣内 孝宏	Study on Governing Factor for Oxygen Reduction Reaction Activity of Electrocatalyst for Polymer Electrolyte Fuel Cells (固体高分子型燃料電池用電極触媒の酸素還元活性の支配因子に関する研究) 主査：教授 朝倉 清高
	ざい ま かず のり 財満 和典	誘電体バリア放電支援予混合バーナー火炎における高エネルギー電子の役割に関する研究 主査：教授 佐々木 浩一
	はせみ ひろ ゆき 長谷美 宏幸	パルス中性子共鳴吸収分光法を用いた核種定量分析に関する研究 主査：准教授 加美山 隆
	ム ハ マド Muhammad ラフィック ミルザ ビン Rafiq Mirza bin ジュライヒ Julaihi	Synthesis of metallic oxide nanoballs via submerged glow-discharge plasma and their photocatalytic effect (水溶液プラズマ法による金属酸化物ナノボール作製とその光触媒効果) 主査：教授 渡辺 精一
	エムディー ジャヒール M. D. Jahir ウディン Uddin	Fluvial bar instability with bank erosion (側岸侵食を伴う河道砂州の不安定性) 主査：教授 泉 典洋
	いとう のり ひこ 伊藤 徳彦	建設事業の事業地域における経済波及効果推計プロセスの構築に関する研究 主査：准教授 高野 伸栄
	おみて しん や 表真也	道路橋床版ライフサイクルにおける疲労耐久性に関する実験的研究 主査：特任教授 林川 俊郎
	ソン リョウ メイ 孫 亮 明	Study on environmental vibration and mitigation countermeasures caused by running high-speed train on railway viaduct (高速列車走行による鉄道高架橋の環境振動と軽減対策に関する研究) 主査：特任教授 林川 俊郎
	デン キン 田 欽	Seismic performance of curved highway bridges with steel bearings under serious earthquakes (鋼製支承を有する曲線格子高架橋の地震応答性状に関する研究) 主査：特任教授 林川 俊郎
	ドク チェン チェン 杜 倩 倩	Vulnerability Scanning Methodologies Applied to Logistics Transportation Network (物流ネットワークにおける脆弱性評価手法の構築) 主査：准教授 岸 邦宏
	なか まえ しげ ゆき 中 前 茂之	除雪単価逓減則に基づく道路管理者と受注企業のリスク評価に関する研究 主査：准教授 高野 伸栄
	まつ むら ひろ ふみ 松村 博文	母都市との連担性から見た次世代ニュータウンに向けた再生と地域マネジメント 主査：教授 瀬戸口 剛
	たけだ きよ たか 武田 清賢	寒冷地における家庭用熱電併給システムの導入効果に関する研究 主査：教授 濱田 靖弘
	たて まつ こう いち 立松 宏一	優良ストック形成に向けた北海道の戸建住宅の省エネルギーに関する研究 主査：教授 羽山 広文
なか むら やすし 中村 靖	地中熱ヒートポンプシステムにおける搬送動力削減によるトータルシステム高効率化に関する研究 主査：教授 長野 克則	
あが ひろ ひで 阿賀 裕英	CCA木材の処理とリサイクルに関する研究 主査：特任教授 古市 徹	

博士 (工学)	セバスチャン イグナシオ Sebastian Ignacio チャルチャラク オチョア Charchalac Ochoa	Reclamation of domestic greywater for agricultural irrigation by intermittent sand filter bioreactor (家庭雑排水の農業再利用のための間欠砂ろ過床法に関する研究) 主査：教授 船水 尚行
	モ ハ メ ッ ド アリ Muhammad Ali	Rapid start-up of anaerobic ammonium oxidation (anammox) process for nitrogen removal from wastewater (排水から窒素を除去するための嫌気性アンモニア酸化 (アナモックス) プロセスの迅速な立ち上げ) 主査：教授 岡部 聡
	さか い とし あき 酒 井 利 彰	サロベツ原野南部における沖積層の地質構造と地下水流動, およびその完新世における成立過程 主査：教授 五十嵐 敏文
	だん じょう たかし 檀 上 堯	ビーチロック形成機構に学ぶ人工岩の開発に関する基礎的研究 主査：教授 川崎 了
	みつ い よし たか 三 井 善 孝	氷点下における岩石の力学的挙動の時間依存性 主査：准教授 児玉 淳一
	み き ひで お夫 三 木 秀 夫	動物細胞流加培養用無血清培地の設計 主査：教授 高木 陸
	こ ぼやし まさ ひで 小 林 正 英	福島第一原子力発電所 1 号機を中心とした事故の分析と教訓抽出に関する研究 主査：教授 奈良林 直
たつ はら たけし 龍 原 毅	掘削ずりからの自然由来重金属等を含む多様なpHを有する浸出水に対する吸着層工法に関する研究 主査：教授 五十嵐 敏文	
博士 (理学)	いし い たか おき 石 井 孝 興	Enantioselective Alkynylation of Carbonyl Compounds Based on Cooperative Copper Catalysis (協同的銅触媒作用に基づくカルボニル化合物の不斉アルキニル化反応) 主査：教授 谷野 圭持
	いの うえ だい すけ 井 上 大 介	Effect of Stepwise Feeding and External Mechanical Stimuli on Active Self-organization of Microtubules (微小管能動的自己組織化における逐次的材料供給および外部力学刺激の影響) 主査：教授 坂口 和靖
	うえ まつ りょう へい 植 松 遼 平	Theoretical Study on the Mechanism of Complex Organic Synthetic Reaction Involving Unexpected Intermediates (未知の中間体を含む複雑有機合成反応機構の理論的解明) 主査：教授 谷野 圭持
	おお おか あつ こ 大 岡 敦 子	Identification of EPLIN as a Crucial Regulator for Extrusion of RasV12-transformed Cells (Ras変異細胞の正常上皮細胞層からの逸脱における重要な制御因子としてのEPLINの同定) 主査：教授 村上 洋太
	おお さわ あゆみ 大 澤 歩	Development and Application of 1,3a,6a-Triazapentalene Derivatives as a Novel Fluorescent Molecule (新規蛍光分子1,3a,6a-トリアザペンタレンの開発と応用) 主査：教授 鈴木 孝紀
	くぼ た ひろ ゆき 窪 田 啓 之	Modification of the Electronic Properties of the TCNQ Anion Radical Salts by Cation Design and Carrier Doping (カチオン設計およびキャリアドーピングによるTCNQアニオンラジカル塩の電子構造制御) 主査：教授 佐田 和己
	こ ざかい ゆう き 小 境 夕 紀	Study on Cancer Inducible Mechanism via Abnormal Nucleolar Formation by Overexpression of Protein Phosphatase PPM1D (脱リン酸化酵素PPM1D過剰発現による核小体形成異常を介した細胞癌化メカニズムに関する研究) 主査：教授 村上 洋太

博士 (理学)	さか ぐち たつ や 坂 口 達 也	Study on Silver Nanostructures Formed through Oligomerization and Orientation of Biom mineralization Peptides (バイオミネラリゼーションペプチドの多量体化と配向化によって形成される銀ナノ構造体に関する研究) 主査：教授 村上 洋太
	さくら い けん たろう 櫻 井 健太郎	Studies toward the Asymmetric Total Synthesis of Azadirachtin (アザジラクチンの不斉全合成研究) 主査：教授 澤村 正也
	ただ の げん た 只 野 元 太	Stereoselective Synthesis of Bioactive Nitrogen-Containing Heterocyclic Compounds (生物活性を示す含窒素複素環化合物の立体選択的合成) 主査：教授 及川 英秋
	にい み けい すけ 新 見 佳 祐	First-principle Molecular Simulations of Vibrational Spectroscopy and Reaction Dynamics in Noble-gas Matrix Environments: Noble-gas Compounds and Photodissociation Dynamics (マトリックス効果を考慮した振動と反応の第一原理シミュレーション：希ガス化合物の振動分光と蟻酸の光解離反応への適用) 主査：教授 武田 定
	ふじ い りゅう や 藤 居 瑠 彌	<i>Aspergillus oryzae</i> 異種発現系を用いた糸状菌由来二次代謝産物の全合成研究 主査：教授 谷野 主持
	やぶ した みず ほ 藪 下 瑞 帆	A Study on Catalytic Conversion of Non-Food Biomass into Chemicals (非可食バイオマスの触媒的変換に関する研究) 主査：教授 佐田 和己
博士 (工学)	おお ぬま あつ ひこ 大 沼 篤 彦	マイクロ相分離構造制御による燃料電池用固体高分子電解質膜の高性能化に関する研究 主査：教授 吉川 信一
	さか ぐち りゅう すけ 坂 口 祐 亮	Asymmetric Conjugate Cyanation of $\alpha, \beta$ -Unsaturated Carbonyl Compounds Catalyzed by the Ruthenium Complex/Lithium Compound Combined Systems (ルテニウム-リチウム複合錯体触媒を用いる $\alpha, \beta$ -不飽和カルボニル化合物の不斉共役シアノ化反応) 主査：教授 伊藤 肇
	さ とう やす し 佐 藤 康 史	移植用軟骨様細胞シート作製に関するプロセス工学的研究 主査：教授 大利 徹
	たか だ けん じ 高 田 健 司	Synthesis of Well-Defined Acrylate Polymer Architectures by Organocatalyzed Group Transfer Polymerization (有機分子触媒を用いたグループトランスファー重合による構造が明確なアクリレートポリマーの精密合成に関する研究) 主査：教授 佐藤 敏文
	なか むら よう いち 中 村 陽 一	Studies on Catalytic Property of Reduced V and Mo Oxides for Conversion of Oxygenated Compounds (含酸素化合物転換反応における還元V, Mo酸化物の触媒作用に関する研究) 主査：教授 増田 隆夫

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（経済）	しら かわ きん や 白 川 欽 哉		ドイツ民主共和国における国家的工業管理と巨大企業体制の展開 - 社会主義における生産と管理の組織化とその生産力的限界 - 主査：特任教授 宮本 謙介
	た なか あい こ 田 中 藍 子		Three Essays on Family Economics: Timing of income transfers, voluntary provision of public goods and social welfare (家族の経済学に関する3つの研究：所得移転のタイミング、公共財の自発的供給および社会厚生) 主査：教授 板谷 淳一
博士（医学）	か 古 ゆう き 賀 古 勇 輝		統合失調症患者における病識と関連する要因についての研究 主査：教授 久住 一郎
	はや かわ なお ひこ 早 川 直 彦		活性型ビタミンD <sub>3</sub> のヒト筋管における骨格筋萎縮因子への作用メカニズムに関する研究 主査：准教授 北村 秀光
博士（環境科学）	すえ 陶 やす のり 陶 泰 典		A study on the latitude of a western boundary current extension jet (西岸境界流続流ジェットの形成緯度に関する研究) 主査：教授 久保川 厚
博士（農学）	き 季 ケツ 活		Comparative study on ecological peculiarities of native and exotic phytoseiid predators as agents for biological control (生物的防除利用を目指した土着および輸入天敵カブリダニ類の生態的特性に関する比較研究) 主査：教授 秋元 信一
	お ち やす お 越 智 保 夫		カテプシンK阻害剤の骨代謝に対する影響に関する研究 主査：教授 原 博
博士（薬科学）	あ べ な お こ 阿 部 奈 保 子		環状化RNAのRNA干渉効果および翻訳鋳型としての性質 主査：特任教授 松田 彰
	くす もと けん じ 楠 本 憲 司		GALA修飾ナノ粒子の肺血管内皮標的化メカニズム解明と核酸創剤への応用展開 主査：教授 原島 秀吉
博士（教育学）	さ とう ひろ あき 佐 藤 浩 章		ファカルティ・ディベロップメントの構造と評価に関する研究 主査：特任教授 木村 純
	よし だ あ きら 吉 田 安 規 良		市販の消化薬がもつ中学校向け理科教材としての価値に着目したタンパク質及び脂肪の消化実験教材の開発とその評価 主査：教授 大野 栄三
博士（工学）	す 諏 お きょう いち 諏 訪 恭 一		Study on Optical Amplifying Aberration Measurement for Semiconductor Optical Aligner (半導体露光装置に於ける光学増幅型取差計測の研究) 主査：特任教授 馬場 直志
	エニ スギアルティ Eni Sugiarti		Characterization of Ni-Based Coated Layer on Carbon Steel by Electron Microscopy and Neutron Radiography (電子顕微鏡法と中性子透過法による炭素鋼上のNi基コーティング層の評価) 主査：特任教授 大貫 惣明
	ひら い やす ゆき 平 井 康 幸		非定常流量下における小規模河床形態の形成・消失と河床抵抗に関する研究 主査：教授 清水 康行
	み 三 うら たい と 三 浦 泰 人		セメント系複合材料の準微視的・化学・力学連成解析システム 主査：准教授 佐藤 靖彦



## ■同窓会との交流

# 北海道大学インドネシア同窓会を設立、 ジャカルタで同窓生懇談会を開催

北海道大学インドネシア同窓生懇談会を、3月7日（土）午前11時から、インドネシア・ジャカルタ市内のホテル・グランメリアで開催しました。

懇談会の開催に先立ち、インドネシア人同窓生によるミーティングが開かれ、「北海道大学インドネシア同窓会」の設立が承認され、会長にC.Hanny Wijaya氏（ボゴール農科大学、農学研究科）、執行部役員6人が就任することが決まりました。今後は現地の日本人同窓会「エルム会」と協力しつつ、本学の知名度向上とインドネシアの発展に貢献することが期待されます。

同窓会の会員は、インドネシア人元留学生の他、本学に学生、研究者、職員等として在籍したことのある同国在住の方を対象としています。

ミーティングの後に開催した同窓生懇談会は、第1部「北海道大学の近況報告会」、第2部食事会で構成されました。参加者は、山口佳三総長、三上隆理事・副学長、インドネシア人同窓生66人、日本人同窓生17人、現役学生（PAREプログラム参加者）18人、本学教職員9人の計110人に上りました。

第1部の「北海道大学の近況報告会」では、山口総長による開会の挨拶、

本学の近況報告に続き、川野辺創国際副本部長による「ASEAN諸国との学術交流の紹介」、三上理事・副学長による「北海道大学の同窓会について」の発表が、それぞれ同窓生有志による日本語からインドネシア語への逐次通訳で行われました。

第2部の食事会では、インドネシア人同窓生、日本人同窓生、現役学生が和やかに交流し、最後は恵迪寮歌「都ぞ弥生」を合唱し、盛況の内に幕を閉じました。

（国際本部国際連携課）



インドネシア同窓生懇談会の集合写真



本学の近況を報告する山口総長

## 北海道大学タイ同窓会を設立、バンコクで同窓生懇談会を開催



タイ同窓生懇談会の集合写真

北海道大学タイ同窓生懇談会を、3月8日（日）午後5時から、タイ・バンコク市内のホテル・ザスコソンで開催しました。

懇談会の開催に先立ち、タイ人同窓生によるミーティングが開かれ、「北海道大学タイ同窓会」を設立することが承認され、会長にLuangpituksa Pairoj氏（マヒドーン大学、農学研究科）が就任することが決まりました。今後、役員を選出などを経て、同窓会としての活動を開始します。同窓会は、タイ人元留学生の他、本学に学生、研究者、職員等として在籍したことのある同国在住の方を対象とし、現

地の日本人同窓会「クラーク会」と緊密に連携を取って運営していく方針です。

ミーティングの後に開催した同窓生懇談会は、第1部「北海道大学の近況報告会」、第2部食事で構成されました。参加者は、山口佳三総長、三上隆理事・副学長、タイ人同窓生50人、日本人同窓生12人、現役学生（新渡戸カレッジ生を中心とした短期留学スペシャルプログラム参加者）5人、本学教職員8人に、独立行政法人日本学術振興会バンコク研究連絡センターと株式会社北洋銀行バンコク駐在員事務所からのゲスト4人を迎え、参加者数は



本学の同窓会について紹介する三上理事・副学長

計79人に上りました。

第1部の「北海道大学の近況報告会」では、山口総長による開会の挨拶、本学の近況報告に続き、川野辺創国際副本部長による「ASEAN諸国との学術交流の紹介」、三上理事・副学長による「北海道大学の同窓会について」の発表が、それぞれ同窓生有志による日本語からタイ語への逐次通訳で行われました。

第2部の食事会では、タイ人同窓生、日本人同窓生、現役学生が和やかに交流し、盛況の内に幕を閉じました。

（国際本部国際連携課）

## 北海道大学函館同窓会「総会及び懇親会」

3月25日（水）に函館市のホテル函館ロイヤルにおいて北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長、村田直樹理事・事務局長が出席しました。

当日の参加者は46名でした。懇親会では山根 繁会長の挨拶に始まり、山口総長、新田理事・副学長が「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。安井 肇水産科学研究院長の発声による乾杯の後、参加者の懇親を深め、最後に参加者全員が輪になって肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い、盛会の裡に終了しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



挨拶する山根会長



山口総長（左端）と参加者との懇談

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成27年3月11日）

議案・国立大学法人北海道大学における内部統制システムの整備について

- ・女性管理職等への登用推進の目標設定について
- ・大学力強化推進本部の組織改編について
- ・函館市産学官交流プラザの寄附受について

協議事項・北海道大学現代日本学プログラム課程の実施について

- ・大学院特別教育プログラム新渡戸スクールの実施について
- ・国際総合入試の導入について
- ・平成27年度収入・支出予算書について
- ・平成27年度年度計画について
- ・教育研究組織等の部門等の改組について
- ・「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」にかかる本学の対応について
- ・産学・地域協働推進機構の設置について
- ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
- ・コンプライアンスの推進等に係る体制の整備について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・理事の交代及び副学長の任命等について

- ・役員の退職手当の支給について
  - ・古本クリーニングデー・プロジェクトの実施について
  - ・「第2期中期目標期間における運営組織の点検評価報告書」に基づく改善状況等について
  - ・教育研究組織の組織整備に関する手続きについて
  - ・教育研究組織等の講座等の改組について
  - ・会計検査院会計実地検査の実施について
- 

### 教育研究評議会（平成27年3月18日）

議題・名誉教授の選考について

- ・北海道大学現代日本学プログラム課程の実施について
- ・大学院特別教育プログラム新渡戸スクールの実施について
- ・国際総合入試の導入について
- ・平成27年度予算について
- ・平成27年度年度計画について
- ・教育研究組織等の部門等の改組について
- ・「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」にかかる本学の対応について
- ・産学・地域協働推進機構の設置について
- ・コンプライアンスの推進等に係る体制の整備について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・教員の懲戒について

報告事項・理事の交代及び副学長の任命等について

- ・教育研究組織等の講座等の改組について
  - ・設置基準の制定に伴う教育研究施設等の類型について
  - ・大学力強化推進本部の組織改編について
  - ・COI拠点への昇格及びFMI国際拠点の竣工について
  - ・寄附講座の延長について
  - ・平成26年度運営費交付金の追加配分について
-

---

**経営協議会**（平成27年3月19日）

- 議 題・役員の退職手当の支給について
- ・平成27年度年度計画について
  - ・平成27年度予算について
  - ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・理事の交代について
- ・大学力強化推進本部の組織改編について
  - ・COI拠点への昇格及びFMI国際拠点の竣工について
  - ・平成26年度運営費交付金の追加配分
  - ・函館市産学官交流プラザの寄附受について

---

**役員会**（平成27年3月23日）

- 議 案・北海道大学現代日本学プログラム課程の実施について
- ・大学院特別教育プログラム新渡戸スクールの実施について
  - ・国際総合入試の導入について
  - ・クロスアポイントメント制度の導入について
  - ・平成27年度年度計画について
  - ・教育研究組織等の部門等の改組について
  - ・「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」にかかる本学の対応について
  - ・産学・地域協働推進機構の設置について
  - ・国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について
  - ・コンプライアンスの推進等に係る体制の整備について
  - ・平成27年度予算について
  - ・就業規則関連規程の一部改正について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
  - ・留学生宿舍の整備について
  - ・共同プロジェクト拠点の認定について
  - ・クロスアポイントメントの適用について
  - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程等の一部改正について
- 報告事項・事務組織の見直しについて

---

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。



## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成27年3月9日海大達第12号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学治験取扱規程の一部を改正する規程

(平成27年3月19日海大達第13号)

薬事法等の一部を改正する法律（平成25年法律第84号）が施行されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則等の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第14号)

本年4月1日付けで、本学の組織の設置、改組及び廃止を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第15号)

本年4月1日付けで、本学の教育研究組織に置く専攻、講座、部門、分野及び研究部門等を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第16号)

学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第17号)

本年4月1日付けで、理学院長を教育研究評議会の評議員に加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学教育研究評議会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第18号)

本年4月1日付けで本学に研究センターを設置すること並びに学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学次世代大学力強化推進会議規程等の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第20号)

本年4月1日付けで、国際本部及び事務局の改組を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学評価規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第22号)

本年4月1日付けで、独立行政法人通則法及び国立大学法人法が改正されたこと並びに本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学監事監査規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第23号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法が改正されたことにより、監事の職務及び権限に関する規定を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第24号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学に研究センター及び学内共同施設を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

## 国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第26号)

本年4月1日付けで、①創成研究機構URASTATIONの機能を大学力強化推進本部に移行すること、②学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと、及び③本学の教育研究施設等の位置付けが見直されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第27号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと及び国際本部の組織を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程及び北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第28号)

本年4月1日付けで、本学に外国人留学生のための学位プログラムとして現代日本学プログラム課程を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第29号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと、本年4月1日付けで、高等教育推進機構の組織を再編すること、及び現代日本学プログラム課程を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学安全衛生本部規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第31号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと及び運営委員会の組織を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第32号)

文部科学省補助事業「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択を受け、同事業を総長が指定する「次世代大学力の強化に係る事業」として推進すること等により、本年4月1日付けで、大学力強化推進本部の組織を改めること及び同本部に関する重要事項を審議する本部会議を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程

(平成27年4月1日海大達第33号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織である産学連携本部及びフード&メディカルイノベーション推進本部を廃止し、新たに産学・地域協働推進機構を設置することに伴い、同機構の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構知的財産委員会規程

(平成27年4月1日海大達第34号)

国立大学法人北海道大学職務発明規程第6条第1項の規定による異議の申立てについて審議するとともに、産学・地域協働推進機構長の諮問に応じ、本学の知的財産活動の現状分析、評価及び啓発活動並びに本学の知的財産の活用方針について審議するため、産学・地域協働推進機構に置く知的財産委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 国立大学法人北海道大学副学長の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第35号)

## 国立大学法人北海道大学教育研究組織の長の任命等に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第36号)

## 北海道大学附属図書館規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第153号)

本学のガバナンス体制の整備を目的として副学長の任命要件を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第38号)

情報セキュリティ委員会の構成員を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全委員会規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第39号)

委員会の議事について見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理委員会規程等の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第40号)

**北海道大学名誉学位規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第47号)

**国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第59号)

**国立大学法人北海道大学発明補償金支払規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第60号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第41号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、事務組織の改組を行うこと、教育学研究科、知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携センター及びロボロジー理工学教育研究センターを廃止すること、並びに学内共同教育施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学における教授会への意見聴取事項等に係る規程**

(平成27年4月1日海大達第42号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項について総長が決定を行うに当たり、教授会の意見を聴くことが必要なものについてあらかじめ定めることとされたこと等に伴い、所要の定めを行ったものです。

**国立大学法人北海道大学における共同プロジェクト拠点の認定等に関する規程**

(平成27年4月1日海大達第43号)

部局横断的に実施される教育プロジェクト又は研究プロジェクトのうち、本学の教育研究の充実に特に資すると認められるものを共同プロジェクト拠点として認定することとしたことに伴い、所要の定めを行ったものです。

**北海道大学通則の一部を改正する規則**

(平成27年4月1日海大達第44号)

①学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたこと、②平成27年度から、現代日本学プログラム課程を設置すること、③平成27年度の学士課程入学者から、これまでの卒業要件に学部長が定める卒業に必要な基準を付加すること及び④文学部の編入学定員を削ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**北海道大学大学院通則の一部を改正する規則**

(平成27年4月1日海大達第45号)

①学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたこと、②委託生に関する規定を削除すること並びに③法学研究科法律実務専攻の定員を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**北海道大学学位規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第46号)

本年4月1日付けで、現代日本学プログラム課程を設置すること、並びに学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第48号)

現代日本学プログラム課程の学生に係る進級、授業科目、履修方法等（第1年次の休学期間に関する事項を除く。）については、現代日本学プログラム課程規程において定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学の学士課程における授業科目の成績の評価に関する規程**

(平成27年4月1日海大達第49号)

平成27年度の学士課程入学者から、成績の評価を11段階で行うことに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

**北海道大学現代日本学プログラム課程規程**

(平成27年4月1日海大達第50号)

平成27年度から、実践的な英語能力を有する外国人留学生に対し、日本語教育並びに現代日本の社会及び文化に関する教育を行うことにより、日本語及び英語を高度に運用する能力並びに日本社会に関する深い知識を有し、日本のよき理解者として国際社会において中核的な役割を担う人材の育成を目的とした学位プログラムとして、現代日本学プログラム課程を実施することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

**北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第51号)

本年4月1日付けで、新渡戸カレッジにおいて、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第52号)

平成27年度の学士課程入学者から、成績の評価を11段階で行うこと及び全学教育科目について、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第53号)

平成27年度の学士課程入学者から、成績の評価を11段階で行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール規程**

(平成27年4月1日海大達第54号)

平成27年度から、本学の大学院学生がそれぞれの学修で獲得する高度な専門性を活用する能力とフロンティア精神を培い、国際社会における創造的な課題解決及び社会的価値の創出を実現できる専門家を育成することを目的とした教育プログラムである大学院特別教育プログラム新渡戸スクールを実施することに伴い、新渡戸スクールの組織、編成及び修了要件等について所要の定めを行ったものです。

---

**北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第55号)

本学大学院理工系専門基礎科目について、より適切な教育効果を得るために授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第56号)

本学大学院共通授業科目について、より適切な教育効果を得るために授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程及び国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第57号)

①本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに③独立行政法人通則法が改正され、法人の類型が整理されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---



## 国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第58号)

①本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに③学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直しを踏まえ、兼務教員の任命手続きを改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第61号)

## 国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程

(平成27年4月1日海大達第68号)

国立大学法人北海道大学においてクロスアポイントメント制度を導入することに伴い、所要の改正及び定めを行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第62号)

①附属図書館の夜間開館業務を外部委託したことにより勤務時間帯の区分を削ること、②高等教育推進機構の組織の見直しが行われること、③北海道大学病院診療支援部において眼科外来の検査業務に従事する職員に係る勤務体制を整備することにより新たな勤務時間帯の区分を設けること、並びに④国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、基本給の調整額を規定することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第63号)

## 国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第64号)

短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律施行規則の改正を踏まえ、短時間労働者に対して雇用管理の改善等に関する事項に係る相談窓口を文書によって明示することとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第65号)

①国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、基本給の調整額を規定すること、②短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律施行規則の改正を踏まえ、短時間労働者に対して雇用管理の改善等に関する事項に係る相談窓口を文書によって明示することとすること及び③国立大学法人北海道大学においてクロスアポイントメント制度を導入することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

(平成27年4月1日海大達第66号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、基本給月額を引き下げることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学職員の行動評定及び能力評定の実施に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第67号)

研究戦略企画及び研究推進支援業務を職務とするUR A職の創設及び医療職(看護)の行動評定項目の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第69号)

大学の教員等の任期に関する法律が改正され、労働契約法の特例が定められたことを踏まえ、同法第4条第1項第1号又は同項第2号に基づき任期を見直すこと、本年4月1日付けで水産科学研究院海洋生物資源科学部門海洋生物資源保全管理学分野及び海洋応用生命科学部門安全管理保障科学分野を廃止並びに電子科学研究所附属社会創造数学研究センターを設置すること、教育学研究院の助教について任期制を導入すること、並びに総長主導によるテニユアトラック制度を導入することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程**

(平成27年4月1日海大達第70号)

本学におけるコンプライアンス責任体制を明確にするとともに、コンプライアンスの推進等に係る取組を効率的かつ効果的に実施し、公平公正な大学運営と社会的な信頼の維持に資するため体制を整備することに伴い、所要の定めを行ったものです。

**国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第71号)

①本年4月1日からフレックスタイム制を新設すること、②北海道大学病院診療支援部において眼科外来の検査業務に従事する職員に係る勤務体制を整備することにより新たな勤務時間帯の区分を設けること、③附属図書館の夜間開館業務を外部委託したことにより勤務時間帯の区分を削ること、及び④国際本部及び高等教育推進機構の組織の見直しが行われることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第72号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法が改正されること、及び独立行政法人通則法第50条の2第3項の規定を踏まえて本給月額の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学役員退職手当規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第73号)

**国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第75号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法が改正されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第74号)

本年4月1日付けで、①国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法が改正されること、②独立行政法人通則法第50条の10第3項の規定を踏まえ、基本給月額、単身赴任手当の職員に加算する額の月額、広域異動手当の支給割合及び寒冷地手当の支給地域区分の見直しを行うこと、③研究戦略企画及び研究推進支援業務を職務とするUR A職を創設すること、④フレックスタイム制を新設すること並びに⑤外国人留学生のための学位プログラムとして現代日本学プログラム課程を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第76号)

札幌市から認可保育園に対して交付される補助金における人件費の算定については、国家公務員の給与を参考として算定されていることから、当該補助金の額を考慮しつつ、職員の給与について社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与水準を十分考慮して国民の理解が得られる適正な給与水準とするため、職員が受ける基本給月額を引き下げることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第77号)

給与制度の総合的見直しに伴い、職員の職務への貢献度をよりの確に反映させること、国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法の改正並びに研究戦略企画及び研究推進支援業務を職務とするUR A職の創設に伴い、所要の改正を行ったものです。

**北海道大学客員教員規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第78号)

**北海道大学招へい教員規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第79号)

学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直し並びに本年4月1日付けで本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第80号)

①本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②学内共同施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置すること並びに③知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携研究センター及びトポロジー理工学教育研究センターを廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第81号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに遺伝子組換え生物等の輸出の手続きに関する規定を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程**

(平成27年4月1日海大達第82号)

平成26年12月22日付けで公布された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を踏まえ、本学における体制を整備することに伴い、所要の定めを行ったものです。

**国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第83号)

①本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに②感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律が平成26年11月21日に公布され、平成27年1月21日から一部施行されたこと並びに感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令が平成27年1月9日に公布され、平成27年1月21日から一部施行されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第84号)

①本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること、②平成26年4月1日付けで、本学の教育研究組織として国際連携研究教育局が設置されたこと、③原子力規制委員会設置法に基づき原子力規制委員会が設置され、放射線障害の防止に関する業務を同委員会が実施することとされたこと、並びに④放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行規則の一部が改正され、放射線量等の測定に係る要件が変更されたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学エックス線障害予防規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第85号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学の組織として研究センター及び学内共同施設を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第86号)

主任技術者及び主任技術者の職務を代行する者の指名範囲を見直すこと並びに保安業務のための巡視、点検及び測定の基準を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学有害廃液取扱規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第87号)

本年4月1日付けで、①本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに③排水基準を定める省令の一部改正に伴い、所要の改正を行ったものです。



---

**国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第88号)

本年4月1日付けで、①本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること、③教育学研究科、知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携研究センター及びトポロジー理工学教育研究センターを廃止すること、④学内共同施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置すること並びに⑤本学に外国人留学生のための学位プログラムとして現代日本学プログラム課程を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第89号)

本年4月1日付けで、①本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること、③知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携研究センター及びトポロジー理工学教育研究センターを廃止すること並びに④学内共同施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第90号)

本年4月1日付けで、①本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること並びに③法人文書ファイル管理簿の様式を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第92号)

①平成26年12月26日付けで、「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針」が改正されたこと、②本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、並びに③本学に研究センター及び学内共同施設を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第91号)

**国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第93号)

本年4月1日付けで、①本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、②本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること並びに③異議申立てに関する決定通知書に係る様式を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第94号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること並びに学内共同施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第95号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること、本学に研究センター及び学内共同施設を設置すること、知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携研究センター及びトポロジー理工学教育研究センターを廃止すること並びに学内共同施設として北極域研究センター及び埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第96号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として産学・地域協働推進機構を設置すること並びに本学に研究センター及び学内共同施設を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---



---

**国立大学法人北海道大学コーポレートカード利用規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第97号)

平成22年12月17日付けで、改正割賦販売法が完全施行されたことにより、決済方法が「個人主債務・公私分離決済方式」から「会社決裁型」に変更となり、仕訳に係るシステム名称も「利用明細公私分離サービス」から「利用明細請求仕訳サービス」に変更となっていることに伴い、規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第98号)

本年4月1日付けで、インターナショナルハウスの使用料等の額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学子どもの園保育園規程の全部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第99号)

本年4月1日付けで施行される子ども・子育て支援新制度に対応するため、札幌市子ども・子育て支援法施行条例（平成26年条例第48号）第21条の規定に基づく規程の整備を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学子どもの園保育園運営委員会規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第100号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学子どもの園保育園規程の全部改正に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**北海道大学文学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第101号)

**北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第102号)

**北海道大学法学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第103号)

**北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第104号)

**北海道大学理学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第105号)

**北海道大学医学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第106号)

**北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第107号)

**北海道大学病院規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第108号)

**北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第109号)

**北海道大学工学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第111号)

**北海道大学農学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第112号)

**北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第113号)

**北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程**

(平成27年4月1日海大達第114号)

①学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたこと、②平成27年度の学士課程入学者から、成績の評価を11段階で行うこと及びこれまでの卒業要件に、学部長が定める卒業に必要な基準を付加すること並びに③各学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学大学院文学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第116号)
北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第117号)
北海道大学大学院経済学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第119号)
北海道大学大学院歯学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第122号)
北海道大学大学院獣医学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第123号)
北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第125号)
北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第136号)
北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第144号)

学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたこと並びに委託生の制度を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院医学研究科規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第120号)
北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第126号)
北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第128号)
北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第129号)
北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第134号)
北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第138号)
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第140号)
北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第141号)
北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第142号)
北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第145号)

①学校教育法及び同法施行規則の一部が改正され、教授会の意見を聴いて総長が決定する事項が定められたこと、②委託生の制度を廃止すること並びに③各研究科等において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院水産科学研究院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第127号)
-----------------------------	---------------------

本年4月1日付けで、大学院水産科学研究院の部門に置く分野を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院理学研究院規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第130号)
---------------------------	---------------------

本年4月1日付けで、本学大学院理学研究院に置く部門及び分野を改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学大学院農学研究院規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第135号)

本年4月1日付けで、本学大学院農学研究院に置く部門及び分野を改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学電子科学研究所規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第148号)

## 北海道大学電子科学研究所附属社会創造数学研究センター規程

(平成27年4月1日海大達第150号)

本年4月1日付けで、電子科学研究所に置く研究部門及び研究分野を改めること並びに新たに附属の研究施設として社会創造数学研究センターを設置することに伴い、所要の改正及び定めを行ったものです。

## 北海道大学薬学部附属薬用植物園規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第110号)

## 北海道大学水産学部附属練習船規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第115号)

## 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第118号)

## 北海道大学大学院医学研究科附属動物実験施設規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第121号)

## 北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第124号)

## 北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第131号)

## 北海道大学大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第132号)

## 北海道大学大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第133号)

## 北海道大学大学院先端生命科学研究院附属次世代ポストゲノム研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第137号)

## 北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第139号)

## 北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第146号)

## 北海道大学低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第147号)

## 北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第149号)

## 北海道大学遺伝子病制御研究所附属動物実験施設規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第151号)

## 北海道大学遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第152号)

学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第143号)

本年4月1日付けで、本センターに置く研究分野の名称を改めること並びに学校教育法及び国立大学法人法の趣旨を踏まえた内部規則等の総点検・見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学部局長等連絡会議規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第19号)
国立大学法人北海道大学人事委員会規程等の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第21号)
北海道大学触媒化学研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第154号)
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第156号)
北海道大学情報基盤センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第158号)
北海道大学アイソトープ総合センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第163号)
北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第165号)
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第167号)
北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第169号)
北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第171号)
北海道大学社会科学実験研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第173号)
北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第175号)
北海道大学脳科学研究教育センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第179号)
北海道大学サステナビリティ学教育研究センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第183号)
北海道大学総合博物館規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第185号)
北海道大学保健センター規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第190号)

本年4月1日付けで、本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学人材育成本部規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第25号)
国立大学法人北海道大学サステナブルキャンパス推進本部規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第30号)
北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第37号)
北海道大学触媒化学研究センター協議員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第155号)
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター協議員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第157号)
北海道大学情報基盤センター協議員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第159号)
北海道大学アイソトープ総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第164号)
北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程	(平成27年4月1日海大達第166号)



## 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第168号)

## 北海道大学観光学高等研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第170号)

## 北海道大学アイヌ・先住民研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第172号)

## 北海道大学社会科学実験研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第174号)

## 北海道大学環境健康科学研究教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第176号)

## 北海道大学脳科学研究教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第180号)

## 北海道大学サステナビリティ学教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第184号)

## 北海道大学総合博物館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第186号)

## 北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第191号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学情報基盤センター大型計算機システム利用規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第160号)

大型計算機システムの利用負担金について、本年4月1日からの電気料金の値上げを踏まえた見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第161号)

本年4月1日付けで、本学の組織として研究センターを設置すること及び人獣共通感染症リサーチセンターに生物製剤研究開発室を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター協議員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第162号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと、及び本年4月1日付けで、人獣共通感染症リサーチセンターを本学の研究センターとして位置づけることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学外国語教育センター規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第181号)

本年4月1日付けで本学の組織として学内共同施設を設置すること及び外国語教育センターに副センター長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学外国語教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第182号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと及び外国語教育センターに副センター長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学大学文書館規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第187号)

本年4月1日付けで、本学の組織として学内共同施設を設置すること及び本学のガバナンス体制の整備を目的として副学長の任命要件を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 北海道大学大学文書館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第188号)

学校教育法が改正され、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものを総長が定めることとされたこと、本年4月1日付けで、本学の組織として研究センター及び学内共同施設を設置すること、並びに運営委員会の構成員として大学文書館の専任の教員を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 北海道大学大学文書館利用規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第189号)

本年4月1日付けで、独立行政法人通則法の一部を改正する法律が施行されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 北海道大学北極域研究センター規程

(平成27年4月1日海大達第177号)

本年4月1日付けで、本学の学内共同施設として北極域研究センターを設置することに伴い、同センターの組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 北海道大学北極域研究センター運営委員会規程

(平成27年4月1日海大達第178号)

本年4月1日付けで、本学に学内共同施設として北極域研究センターを設置することに伴い、同センターに置かれる運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 北海道大学埋蔵文化財調査センター規程

(平成27年4月1日海大達第192号)

本年4月1日付けで、本学の学内共同施設として埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、同センターの組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 北海道大学埋蔵文化財調査センター運営委員会規程

(平成27年4月1日海大達第193号)

本年4月1日付けで、本学に学内共同施設として埋蔵文化財調査センターを設置することに伴い、同センターに置かれる運営委員会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

## 北海道大学知識メディア・ラボラトリー規程等を廃止する規程

(平成27年4月1日海大達第194号)

平成27年3月31日限りで、本学の学内共同教育研究施設等である知識メディア・ラボラトリー、情報法政策学研究センター、次世代都市代謝教育研究センター、数学連携研究センター及びトポロジー理工学教育研究センターを廃止することに伴い、関係規程の廃止を行ったものです。

---

## 北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第195号)

本年4月1日付けで、国際連携研究教育局に新たなグローバルステーションを設置すること及び国際本部の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成27年4月1日海大達第196号)

本年4月1日付けで、本学の組織として研究センターを設置すること、人獣共通感染症リサーチセンターを研究センターとして位置づけること及び国際本部の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 表敬訪問

### 国内

年月日	来訪者
27.4.7	北海道大学国際婦人交流会 一行
27.4.13	室蘭工業大学長 空閑 良壽 氏



北海道大学国際婦人交流会 一行



室蘭工業大学長 空閑 良壽 氏 (右側)

(総務企画部広報課)

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.3.12	仁川大学校 (韓国) Choi Sung Eul 学長	両大学の交流に関する懇談
27.3.23	ダブリン工科大学 (アイルランド) Brian Norton 学長 駐日アイルランド大使館 Anne Barrington 特命全権大使	両大学の交流に関する懇談及び講演
27.3.24	中央研究院 (台湾) Ting-Kuo Lee 物理研究所長	調印式及びジョイントワークショップ参加
27.3.24	モントリオール大学 (カナダ) Christian Baron 医学部生物化学部門長	両大学の交流に関する懇談



仁川大学校 (韓国)  
Choi Sung Eul 学長 (右から4人目)



ダブリン工科大学 (アイルランド)  
Brian Norton 学長 (左から6人目)  
駐日アイルランド大使館  
Anne Barrington 特命全権大使 (左から8人目)



中央研究院 (台湾)  
Ting-Kuo Lee 物理研究所長 (右から2人目)



モントリオール大学 (カナダ)  
Christian Baron 医学部生物化学部門長 (前列右)

(国際本部国際連携課)

# ■人事

平成27年3月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 名古屋大学大学院理学研究科教授	阿 部 洋	大学院薬学研究院准教授
【係員】 (辞職)	長谷川 達 也	医学系事務部会計課

平成27年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	小 野 芳 彦 津 曲 敏 郎 三 木 聰 岡 田 信 弘 林 田 清 明 櫻 木 範 明 寺 沢 浩 一 福 田 諭 藤 田 博 美 水 上 尚 典 三 輪 聡 一 進 藤 正 信 飯 田 浩 二 今 野 久仁彦 高 橋 是太郎 平 石 智 徳 吉 川 久 幸 高 畑 雅 一 寺 尾 宏 明 野 村 一 成 茂 木 透 生 方 信 増 田 清 丸 谷 知 己 間 宮 正 幸 三 神 大 世 荒 井 正 彦 石 政 勉 佐々木 一 彰 成 田 吉 弘 森 治 嗣 吉 川 信 一 河 村 公 隆 上 田 宏 蛭 子 准 吏 杉 田 修 白 取 祐 司 松 久 三四彦 亘 理 格 鈴 木 賢 鈴 木 恵 二	大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院歯学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授 大学院農学研究科教授 大学院農学研究科教授 大学院農学研究科教授 大学院教育学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 低温科学研究所教授 北方生物圏フィールド科学センター教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 北海道大学病院教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院情報科学研究科教授
(任期満了)		
(辞職)		



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【准教授】 (定年)</p> <p>(任期満了) (辞職)</p>	<p>知 北 和 久 高 橋 光 彦 辻 見 裕 史 瀧 澤 一 騎 藤 沢 隆 一 寺 尾 晶 野 中 秀 俊 久保田 高 明 齋 藤 望 堀 田 真紀子 本 橋 輝 樹 原 賢 二</p>	<p>大学院理学研究院准教授 大学院保健科学研究院准教授 電子科学研究所准教授 高等教育推進機構准教授 大学院歯学研究科准教授 大学院獣医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院薬学研究院准教授 大学院薬学研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院工学研究院准教授 触媒化学研究センター准教授</p>
<p>【講師】 (辞職)</p>	<p>徐 行 橋 本 聡 一 田 中 輝 明</p>	<p>大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター講師 北海道大学病院講師 北海道大学病院講師</p>
<p>【助教】 (定年)</p> <p>(任期満了)</p> <p>(辞職)</p>	<p>瀧 田 裕 子 五十嵐 元 道 王 万 旭 大 内 潤 子 伊 藤 智 城 小 谷 俊 雄 加 藤 類 西 田 竜太郎 野 田 実 香 福 島 拓 柳 田 雄一郎 後 藤 正 憲 村 山 徹 Ruijiang Li 平 井 上 総 佐 藤 結 美 黒 阪 健 吾 中 村 将 人 河 口 泰 之 野 村 友希子 奥 山 克 史 山 田 珠 希 阿 部 拓 三 澤 柿 教 伸 石 山 玄 明 小 倉 次 郎 竹 田 幸 司 石 井 聡 翁 御 棋 赤 石 理 奈 紅 林 奈央子 小 堀 善 則 重 松 明 男 七 戸 秀 夫 柴 崎 跡 也 清 水 祐 輔 武 井 黄 太 夏井坂 光 輝</p>	<p>大学院歯学研究科助教 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 スラブ・ユーラシア研究センター助教 触媒化学研究センター助教 国際連携研究教育局助教 大学院文学研究科助教 大学院法学研究科助教 大学院経済学研究科助教 大学院経済学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院歯学研究科助教 水産学部附属練習船うしお丸助教 大学院地球環境科学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院工学研究院助教 大学院工学研究院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	中 沢 大 悟 長 濱 賢 松 田 康 裕 山 口 裕	北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 電子科学研究所助教
【部長】 (定年)	西 田 久美子 矢 部 輝 雄 構 野 秀 樹	学務部長 施設部長 工学系事務部長
【課長・事務長・室長】 (定年)  (辞職)	加 藤 公 洋 久 保 修 佐 藤 憲 尋 大 森 あけみ 片 桐 和 子 松 岡 典 子	施設部施設企画課長 文学研究科・文学部事務長 経済学研究科・経済学部事務長 獣医学研究科・獣医学部事務長 附属図書館学術システム課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長
【補佐】 (定年)	首 藤 佳 子 東 直 登	附属図書館利用支援課課長補佐 北海道大学病院管理課課長補佐
【係長】 (定年)	瀬 田 尚 利	北方生物圏フィールド科学センター係長
【主任】 (定年)	当 山 千鶴子	函館キャンパス事務部主任
【係員】 (辞職)	山 家 尚 子 大 橋 史緒吏 近 藤 香 織	附属図書館利用支援課付 理学・生命科学事務部事務課 北海道大学病院管理課
【教務職員】 (定年) (辞職)	大 内 睦 美 真 弓 麻実子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教務職員 大学院文学研究科教務職員
【技術職員等】 (定年)  (任期満了)  (辞職)	村 木 牧 子 中 村 真 人 奥 原 芳 子 奈 良 恵 子 山 下 洋 子 高 木 敏 彦 尾 関 祐 一 日 置 昭 二 折 野 神 恵 高 橋 信 也 田 村 友 理 都 郷 舞 吉 本 友 美 川 鍋 和 美 岡 崎 聡 子 新 藤 圭 介 本 宮 大 輔 山 本 千 秋 川 口 由紀子 石 川 幸 司 足 立 博 一 井 貝 仁 美 井 川 佳 世	函館キャンパス事務部栄養士 大学院工学研究院技術専門員 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部歯科技工士 遺伝子病制御研究所附属動物実験施設技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 情報環境推進本部情報推進課技術専門職員 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院診療支援部診療放射線技師 北海道大学病院診療支援部言語聴覚士 水産学部附属練習船おしよろ丸機関員 大学院工学研究院技術専門職員 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	今 西 美 来	北海道大学病院看護部看護師
	池 田 佳寿子	北海道大学病院看護部看護師
	伊 東 香菜子	北海道大学病院看護部看護師
	梅 内 郁	北海道大学病院看護部看護師
	梅 津 舞	北海道大学病院看護部看護師
	大 島 潮 子	北海道大学病院看護部看護師
	太 田 千 尋	北海道大学病院看護部看護師
	大 野 綾 花	北海道大学病院看護部看護師
	岡 香 澄	北海道大学病院看護部看護師
	岡 千 絵	北海道大学病院看護部看護師
	小笠原 裕 美	北海道大学病院看護部看護師
	小 沼 勇 輝	北海道大学病院看護部看護師
	欠 亜沙美	北海道大学病院看護部看護師
	勝 瀬 久美子	北海道大学病院看護部看護師
	加 藤 萌 里	北海道大学病院看護部看護師
	川 端 亜 耶	北海道大学病院看護部看護師
	木 村 理津子	北海道大学病院看護部看護師
	桑 島 拓 大	北海道大学病院看護部看護師
	佐 藤 麗 王	北海道大学病院看護部看護師
	沢 田 好 枝	北海道大学病院看護部看護師
	柴 田 真 志	北海道大学病院看護部看護師
	柴 田 真 澄	北海道大学病院看護部看護師
	志 水 あゆみ	北海道大学病院看護部看護師
	白 石 英里子	北海道大学病院看護部看護師
	鈴 木 織 江	北海道大学病院看護部看護師
	鈴 木 麻沙子	北海道大学病院看護部看護師
	須 見 なつき	北海道大学病院看護部看護師
	堰 根 怜 子	北海道大学病院看護部看護師
	高 橋 依 子	北海道大学病院看護部看護師
	田 中 愛 子	北海道大学病院看護部看護師
	玉 村 沙耶佳	北海道大学病院看護部看護師
	飛 塚 洋 美	北海道大学病院看護部看護師
	土 居 史 佳	北海道大学病院看護部看護師
	鳥谷部 愛	北海道大学病院看護部看護師
	野 口 ひとみ	北海道大学病院看護部看護師
	野 原 由 佳	北海道大学病院看護部看護師
	野 村 尚 美	北海道大学病院看護部看護師
	日 野 真 弓	北海道大学病院看護部看護師
	藤 井 暁 子	北海道大学病院看護部看護師
	船 戸 早希子	北海道大学病院看護部看護師
	堀 内 雅 人	北海道大学病院看護部看護師
	松 田 広 子	北海道大学病院看護部看護師
	松 本 奏 絵	北海道大学病院看護部看護師
	三 上 香寿美	北海道大学病院看護部看護師
	宮 島 めぐみ	北海道大学病院看護部看護師
	山 越 記代子	北海道大学病院看護部看護師
	横 岡 奈 央	北海道大学病院看護部看護師
	山 谷 幸 恵	北海道大学病院診療支援部臨床検査技師
	谷川原 綾 子	北海道大学病院診療支援部診療放射線技師
	石 垣 さやか	北海道大学病院診療支援部視能訓練士
【特任教授 (再雇用)】 (任期満了)	宇都宮 輝 夫 菱 谷 普 介 宮 本 謙 介 吉 田 文 和 小 川 恭 孝 田 中 讓	大学院文学研究科特任教授 大学院文学研究科特任教授 大学院経済学研究科特任教授 大学院経済学研究科特任教授 大学院情報科学研究科特任教授 大学院情報科学研究科特任教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	野 島 俊 雄	大学院情報科学研究科特任教授
	板 橋 豊	大学院水産科学研究科特任教授
	岸 道 郎	大学院水産科学研究科特任教授
	中 村 博	大学院地球環境科学研究科特任教授
	小 山 順 二	大学院理学研究院特任教授
	DICK MATTHEW HILL	大学院理学研究院特任教授
	山 本 興太郎	大学院理学研究院特任教授
	小 林 淳 一	大学院薬学研究院特任教授
	橋 本 俊 一	大学院薬学研究院特任教授
	松 田 彰	大学院薬学研究院特任教授
	平 井 卓 郎	大学院農学研究院特任教授
	大 櫃 敬 史	大学院教育学研究院特任教授
	河 口 明 人	大学院教育学研究院特任教授
	室 橋 春 光	大学院教育学研究院特任教授
	佐 藤 俊 一	大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授
	野 澤 俊 敬	大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授
	宮 下 雅 年	大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授
	宮 部 潤一郎	大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授
	山 田 吉二郎	大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授
	小 林 清 一	大学院保健科学研究科特任教授
	森 山 隆 則	大学院保健科学研究科特任教授
	板 垣 正 文	大学院工学研究院特任教授
	林 川 俊 郎	大学院工学研究院特任教授
	平 沖 敏 文	大学院工学研究院特任教授
	古 市 徹	大学院工学研究院特任教授
	武 藤 俊 一	大学院工学研究院特任教授
	太 田 信 廣	電子科学研究所特任教授
	末 宗 幾 夫	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター特任教授
	志 田 壽 利	遺伝子病制御研究所特任教授
	赤 間 清	情報基盤センター特任教授
【特任准教授 (再雇用)】 (任期満了)	松 本 美佐子	大学院医学研究科特任准教授
	高 橋 誠	大学院情報科学研究科特任准教授
	奥 山 英登志	大学院地球環境科学研究科特任准教授
	新 岡 正	大学院地球環境科学研究科特任准教授
	三 浦 裕 行	大学院理学研究院特任准教授
	辻 雅 司	大学院工学研究院特任准教授
	早 坂 洋 史	大学院工学研究院特任准教授
【特任助教 (再雇用)】 (任期満了)	大 賀 光太郎	大学院工学研究院特任助教
【特任助手 (再雇用)】 (任期満了)	澤 田 美喜子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター特任助手
	關之山 勝 博	大学院保健科学研究科特任助手
【嘱託職員】 (任期満了)	田 中 日出雄	監査室
	宇 田 省 治	学務部学務企画課
	佐 藤 博	学務部学生支援課
	原 直 樹	学務部学生支援課
	有 田 政 好	財務部経理課
	加 藤 邦 男	財務部調達課
	三 浦 誠 寿	研究推進部外部資金戦略課
	武 良 克 美	歯学研究科・歯学部
	伊 藤 喜久恵	函館キャンパス事務部
	石 川 貞 夫	大学院工学研究院



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	本 間 彰	大学院工学研究院
	山 下 哲 朗	工学系事務部経理課
	山 崎 敏	北海道大学病院総務課
	佐々木 千 歳	北海道大学病院管理課
	諏 訪 広 明	北海道大学病院医事課
	菅 原 通 夫	低温科学研究所
	高 橋 裕美子	北方生物圏フィールド科学センター
	遠 山 節 徳	北方生物圏フィールド科学センター
	吉 田 栄 子	遺伝子病制御研究所
	上 窪 功	情報環境推進本部情報推進課
	亀 渕 敬 子	情報環境推進本部情報推進課
	田 副 優美子	情報環境推進本部情報推進課
	島 崎 佳久子	情報環境推進本部情報推進課付

平成27年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【役員】</b>		
理事 (副学長) (期間：平成29年3月31日まで)	三 上 隆	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：平成29年3月31日まで)	上 田 一 郎	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：平成29年3月31日まで)	安 田 和 則	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：平成29年3月31日まで)	川 端 和 重	理事 (副学長)
理事 (期間：平成29年3月31日まで)	菅 野 政 利	日本政策投資銀行執行役員
理事 (事務局長) (期間：平成29年3月31日まで)	村 田 直 樹	理事 (事務局長)
<b>【副学長】</b>		
(期間：平成29年3月31日まで)	望 月 恒 子	大学院文学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	山 口 淳 二	大学院理学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	山 下 正 兼	大学院理学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	寺 尾 宏 明	国際本部特任教授
<b>【総長補佐】</b>		
(期間：平成29年3月31日まで)	町 野 和 夫	大学院経済学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	西 邑 隆 徳	大学院農学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	姚 閔	大学院先端生命科学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	福 岡 淳	触媒化学研究センター教授
(期間：平成29年3月31日まで)	喜多村 昇	大学院理学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	櫻 井 義 秀	大学院文学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	弐 和 順	大学院文学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	玉 腰 暁 子	大学院医学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	長谷山 美 紀	大学院情報科学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	網 塚 浩	大学院理学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	龔 劍 萍	大学院先端生命科学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	近 藤 哲 也	大学院農学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	羽 山 広 文	大学院工学研究院教授
(期間：平成28年3月31日まで)	山 田 貞 三	大学院文学研究科教授
(期間：平成29年3月31日まで)	山 下 博	大学院理学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(期間：平成29年3月31日まで)	西 口 規 彦	大学院工学研究院教授
(期間：平成28年3月31日まで)	湯 浅 万紀子	総合博物館准教授
(期間：平成29年3月31日まで)	波多野 隆 介	大学院農学研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	長 島 美 織	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
(期間：平成29年3月31日まで)	長 野 克 則	大学院工学研究院教授
<b>【部局長・施設長等】</b>		
附属図書館長 (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
附属図書館北図書館長 (期間：平成29年3月31日まで)	望 月 恒 子	大学院文学研究科教授
大学院医学研究科長 医学部長 (期間：平成29年3月31日まで)	笠 原 正 典	大学院医学研究科教授
大学院獣医学研究科長 獣医学部長 (期間：平成29年3月31日まで)	稲 葉 睦	大学院獣医学研究科教授
大学院理学研究院長 理学部長 (期間：平成29年3月31日まで)	石 森 浩一郎	大学院理学研究院教授
大学院理学院長 (期間：平成29年3月31日まで)	鈴 木 徳 行	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院長 薬学部長 (期間：平成29年3月31日まで)	南 雅 文	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院長 大学院農学院長 農学部長 (期間：平成29年3月31日まで)	横 田 篤	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	出 村 誠	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院長 大学院国際広報メディア・観光学院長 (期間：平成29年3月31日まで)	山 田 義 裕	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長 (期間：平成29年3月31日まで)	石 井 吉 春	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
情報基盤センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	高 井 昌 彰	情報基盤センター教授
人獣共通感染症リサーチセンター長 (期間：平成28年3月31日まで)	杉 本 千 尋	国際連携研究教育局・人獣共通感染症リサーチセンター教授
アイソトープ総合センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究科教授
観光学高等研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	西 山 徳 明	観光学高等研究センター教授
アイヌ・先住民研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	常 本 照 樹	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
北極域研究センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	齊 藤 誠 一	北極域研究センター教授
外国語教育センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	鈴 木 純 一	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
総合博物館長 (期間：平成29年3月31日まで)	中 川 光 弘	大学院理学研究院教授
大学文書館長 (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
保健センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	橋 野 聡	保健センター教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
埋蔵文化財調査センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	小 杉 康	大学院文学研究科教授
技術支援本部長 (期間：平成29年3月31日まで)	上 田 一 郎	理事 (副学長)
産学・地域協働推進機構長 (期間：平成29年3月31日まで)	川 端 和 重	理事 (副学長)
アドミッションセンター長 (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
人材育成本部長 (期間：平成29年3月31日まで)	望 月 恒 子	大学院文学研究科教授
創成研究機構長 (期間：平成29年3月31日まで)	川 端 和 重	理事 (副学長)
国際本部長 (期間：平成29年3月31日まで)	上 田 一 郎	理事 (副学長)
高等教育推進機構長 (期間：平成29年3月31日まで)	新 田 孝 彦	理事 (副学長)
サステイナブルキャンパス推進本部長 (期間：平成29年3月31日まで)	三 上 隆	理事 (副学長)
安全衛生本部長 (期間：平成29年3月31日まで)	上 田 一 郎	理事 (副学長)
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	尾 崎 一 郎	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院医学研究科附属動物実験施設長 (期間：平成29年3月31日まで)	有 川 二 郎	大学院医学研究科教授
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	増 田 隆 一	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター長 (期間：平成28年3月31日まで)	合 川 正 幸	大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター教授
大学院先端生命科学研究院附属次世代ポストゲノム研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：平成30年3月31日まで)	宮 崎 隆 志	大学院教育学研究院教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：平成29年3月31日まで)	亀 井 佳 彦	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 (期間：平成29年3月31日まで)	小松崎 民 樹	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
<b>【副研究科長・副研究院長等】</b>		
大学院医学研究科副研究科長 (期間：平成28年12月31日まで)	渥 美 達 也	大学院医学研究科教授
大学院医学研究科副研究科長 (期間：平成29年3月31日まで)	吉 岡 充 弘	大学院医学研究科教授
大学院獣医学研究科副研究科長 (期間：平成29年3月31日まで)	石 塚 真由美	大学院獣医学研究科教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	齋 藤 睦	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	堀 口 健 雄	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	佐 藤 美 洋	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	井 上 京	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	柳 村 俊 介	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 (期間：平成29年3月31日まで)	鈴 木 純 一	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
電子科学研究所副所長 (期間：平成27年9月30日まで)	居 城 邦 治	電子科学研究所教授
<b>【教育研究評議会評議員】</b> (期間：平成29年3月31日まで) (期間：平成29年3月31日まで) (期間：平成29年3月31日まで) (期間：平成29年3月31日まで)	吉 岡 充 弘 堀 口 健 雄 佐 藤 美 洋 柳 村 俊 介	大学院医学研究科教授 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院農学研究院教授
<b>【教授】</b> 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院経済学研究科教授 大学院獣医学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授 大学院薬学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院保健科学研究院教授、 国際連携研究教育局教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院公共政策学連携研究部教授 電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授 電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授 電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授 触媒化学研究センター教授 北方生物圏フィールド科学センター教授 北極域研究センター教授 国際本部留学生センター教授 安全衛生本部教授 国際連携研究教育局教授 (転出) 東京工業大学大学院理工学研究科教授 名古屋大学大学院工学研究科教授 東京農工大学大学院工学研究院教授	近 藤 浩 之 藤 田 健 健 村 田 勝 幸 上 田 信太郎 長谷川 晃 林 誠 司 眞 壁 仁 會 澤 恒 児矢野 マリ 町 村 泰 貴 水 野 浩 二 山 崎 幹 根 大 野 由 夏 片 桐 成 二 坂 本 雄 児 笠 井 亮 秀 神 谷 裕 一 勝 義 直 橋 本 武 志 市 川 聡 小 川 美香子 松 永 茂 樹 脇 本 敏 幸 安 達 潤 池 田 恵 子 奥 聡 長 島 美 織 西 村 龍 一 山 田 澤 明 石 川 正 純  山 下 俊 彦 柴 山 環 樹 泉 典 洋 辻 康 夫 小松崎 民 樹 中 垣 俊 之 長 山 雅 晴 清 水 研 一 近 藤 則 夫 齊 藤 誠 一 高 橋 彩 石 井 哲 也 PAIN ARNAB  利根川 吉 廣 池 田 勝 佳 大 栗 博 毅	大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 岡山大学大学院法務研究科教授 大学院法学研究科附属高等法教育研究センター教授 小樽商科大学商学部教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院経済学研究科准教授 採用 大学院情報科学研究科准教授 京都大学フィールド科学教育研究センター准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授 大学院薬学研究院准教授 浜松医科大学メディカルフォトリクス研究センター准教授 東京大学大学院薬学系研究科准教授 東京大学大学院薬学系研究科准教授 北海道教育大学教育学部教授 山口大学教育学部教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 採用 大学院医学研究科教授  大学院公共政策学連携研究部教授 大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター准教授 大学院工学研究院教授 大学院法学研究科附属高等法教育研究センター教授 電子科学研究所教授 電子科学研究所教授 電子科学研究所教授 触媒化学研究センター准教授 大学院農学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 佐賀大学国際交流推進センター教授 採用 採用  大学院理学研究院教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
金沢大学医薬保健研究域薬学系教授 函館工業高等専門学校校長 東京工業大学大学院理工学研究科教授 神戸大学大学院システム情報学研究科教授 九州大学大学院芸術工学研究院教授 岩手大学教授	金 田 勝 幸 但 野 茂 多 湖 輝 興 坪 倉 誠 前 田 享 史 田 中 教 幸	大学院薬学研究院准教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 サステイナビリティ学教育研究センター教授
<b>【准教授】</b> 大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院文学研究科准教授 大学院法学研究科准教授 大学院経済学研究科准教授 大学院経済学研究科准教授 大学院医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院水産科学研究院准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院薬学研究院准教授 大学院薬学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 大学院公共政策学連携研究部准教授 大学院公共政策学連携研究部准教授 電子科学研究所附属社会創造数学研究センター准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授 触媒化学研究センター准教授 触媒化学研究センター准教授 情報基盤センター准教授 アイヌ・先住民研究センター准教授 大学文書館准教授 国際本部留学生センター准教授  (転出) 一橋大学大学院法学研究科准教授 一橋大学大学院商学研究科准教授 九州大学大学院理学研究院准教授 茨城大学理学部准教授 茨城大学人文学部准教授	瀧 本 彩 加 野 本 東 生 宮 嶋 俊 一 根 本 尚 徳 工 藤 教 孝 松 村 史 穂 深 瀬 均 長 田 直 樹 小 林 孝 一 藤 田 雅 紀 亀 山 宗 彦 阿 部 紀 行 亀 田 純 小 林 政 晴 高 田 陽 一 郎 佐 々 貴 之 多 留 偉 功 篠 原 岳 司 關 あゆみ 岡 本 亮 輔 齋 藤 拓 也 田 代 亜 紀 子 須 賀 宣 仁 中 島 岳 志 李 振 風 河 合 正 人 中 島 清 隆 安 田 友 洋 杉 木 章 義 長 沼 正 樹 井 上 高 聡 COOK EMMA ELIZABETH  緑 大 輔 大 山 陸 佐 竹 暁 子 山 田 卓 司 森 下 嘉 之	採用 採用 採用 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授 大学院公共政策学連携研究部准教授 採用 採用 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所助教 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教 採用 大学院地球環境科学研究院助教 採用 大学院理学研究院講師 山形大学理学部准教授 京都大学防災研究所附属地震予知研究センター助教 大学院薬学研究院講師 大学院薬学研究院講師 採用 採用 採用 大学院経済学研究科准教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授 電子科学研究所准教授 帯広畜産大学研究域准教授 東京工業大学応用セラミックス研究所助教 採用 筑波大学システム情報系助教 採用 大学文書館助教 採用  大学院法学研究科准教授 大学院経済学研究科准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教 スラブ・ユーラシア研究センター助教
<b>【講師】</b> 大学院医学研究科講師 大学院理学研究院講師 大学院理学研究院講師 大学院薬学研究院講師 (転出) 京都教育大学教育学部講師 山梨大学大学院総合研究部医学域講師	高 橋 秀 尚 角 井 敬 知 PIANI LAURETTE 大 西 英 博  比 良 友 佳 理 三 井 貴 彦	大学院医学研究科助教 採用 採用 大学院薬学研究院助教  大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教 北海道大学病院助教
<b>【助教】</b> 大学院文学研究科助教	川 崎 公 平	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院法学研究科助教	川 村 行 論	採用
大学院法学研究科助教	姜 連 甲	採用
大学院法学研究科助教	酒 卷 修 也	採用
大学院法学研究科助教	濱 口 弘太郎	採用
大学院経済学研究科助教	池 見 真 由	採用
大学院経済学研究科助教	小 林 陽 介	採用
大学院経済学研究科助教	深 山 誠 也	採用
大学院医学研究科助教	中 澤 祐 一	採用
大学院医学研究科助教	秦 洋 郎	採用
大学院医学研究科助教	早 川 輝	採用
大学院医学研究科助教	廣 谷 真	北海道大学病院助教
大学院歯学研究科助教	齋 藤 未 來	採用
大学院歯学研究科助教	長谷川 智 香	採用
大学院歯学研究科助教	森 田 航	採用
大学院獣医学研究科助教	佐 鹿 万里子	採用
大学院水産科学研究院助教	美 野 さやか	採用
水産学部附属練習船おしよろ丸助教	今 井 圭 理	水産学部附属練習船おしよろ丸通信士
水産学部附属練習船おしよろ丸助教	大和田 真 紀	水産学部附属練習船おしよろ丸三等航海士
大学院理学研究院助教	NA HANNA	採用
大学院理学研究院助教	藤 井 翔	採用
大学院理学研究院助教	南 本 大 穂	採用
大学院理学研究院助教	吉 村 俊 平	採用
大学院薬学研究院助教	江 上 蓉 子	採用
大学院薬学研究院助教	鍛 代 悠 一	採用
大学院薬学研究院助教	志 水 陽 一	アイソトープ総合センター助教
大学院薬学研究院助教	古 川 敦	採用
大学院薬学研究院助教	吉 野 達 彦	採用
大学院教育学研究院助教	山 崎 貴 史	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	周 倩	採用
大学院保健科学研究院助教	高 木 聡 志	採用
大学院保健科学研究院助教	津久井 隆 行	採用
大学院保健科学研究院助教	中 島 進 吾	採用
大学院工学研究院助教	鍛 治 怜 奈	採用
大学院工学研究院助教	関 朋 宏	採用
北海道大学病院助教	秋 元 琢 真	採用
北海道大学病院助教	鎧 谷 武 雄	採用
北海道大学病院助教	伊 藤 侯 輝	採用
北海道大学病院助教	小 野 雄 一	採用
北海道大学病院助教	加 瀬 諭	採用
北海道大学病院助教	加 畑 馨	採用
北海道大学病院助教	亀 山 梨 絵	採用
北海道大学病院助教	河 村 太 介	採用
北海道大学病院助教	小 島 崇 史	採用
北海道大学病院助教	田 中 宗 一	採用
北海道大学病院助教	田 中 暢 洋	採用
北海道大学病院助教	中 垣 祐	採用
北海道大学病院助教	中 村 美智子	採用
北海道大学病院助教	北 條 敬 之	採用
北海道大学病院助教	松 島 理 明	採用
北海道大学病院助教	森 川 賢 一	採用
低温科学研究所助教	大 場 康 弘	採用
低温科学研究所助教	寺 島 美 亜	採用
電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター助教	藤 岡 正 弥	採用
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教	GINDER ELLIOTT ABRAHAM	電子科学研究所助教
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教	寺 本 央	電子科学研究所助教
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教	秋 山 正 和	電子科学研究所助教

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教	西 村 吾 朗	電子科学研究所助教
遺伝子病制御研究所助教	大 津 直 樹	採用
触媒化学研究センター助教	吉 満 隼 人	採用
情報基盤センター助教	深 谷 猛	採用
アイソトープ総合センター助教	東 川 桂	採用
北方生物圏フィールド科学センター助教	中 村 剛	採用
埋蔵文化財調査センター助教	高 倉 純	大学院文学研究科助教
埋蔵文化財調査センター助教	守 屋 豊 人	大学院文学研究科助教
国際連携研究教育局助教 (出向復帰)	NAM JIN-MIN	採用
北海道大学病院助教 (転出)	千 葉 健太郎	砂川市立病院
室蘭工業大学大学院工学研究科助教	大 石 義 彦	大学院工学研究院助教
<b>【UR A職】</b>		
大学院文学研究科UR A	栗 谷 尚 子	採用
大学院文学研究科UR A	中 野 悦 子	採用
大学院文学研究科UR A	森 岡 和 子	大学院文学研究科教務職員
大学力強化推進本部主任UR A	江 端 新 吾	採用
大学力強化推進本部主任UR A	木 場 保 洋	採用
大学力強化推進本部UR A	天 野 麻 穂	採用
大学力強化推進本部UR A	岡 田 直 資	採用
大学力強化推進本部UR A	加 藤 真 樹	採用
大学力強化推進本部UR A	小 俣 友 輝	採用
大学力強化推進本部UR A	高 木 由 紀	採用
大学力強化推進本部UR A	田 中 晋 吾	採用
大学力強化推進本部UR A	松 浦 孝 範	採用
大学力強化推進本部UR A	水 谷 祐 輔	採用
大学力強化推進本部UR A	和 田 肖 子	採用
<b>【専門職 (学術)】</b>		
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター学術専門職	堀 江 雅 子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教務職員
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター学術専門職	劉 曉 倩	採用
産学・地域協働推進機構学術主任専門職	小野寺 晃 一	産学連携本部学術主任専門職
産学・地域協働推進機構学術主任専門職	鈴 木 真 也	産学連携本部学術主任専門職
産学・地域協働推進機構学術主任専門職	山 口 茂 彦	産学連携本部学術主任専門職
産学・地域協働推進機構学術専門職	齋 藤 幸 隆	産学連携本部学術専門職
産学・地域協働推進機構学術専門職	佐久間 温 子	産学連携本部学術専門職
産学・地域協働推進機構学術専門職	城 野 理 佳子	産学連携本部学術専門職
産学・地域協働推進機構学術専門職	須 佐 太 樹	産学連携本部学術専門職
<b>【局長】</b> (転出)		
文部科学省高等教育局大学改革官	山 口 良 文	総務企画部長
<b>【部長】</b>		
総務企画部長	湊 公 夫	横浜国立大学総務部長
学務部長	出 口 寿 久	文部科学省初等中等教育局参事官付学校運営企画官
施設部長	佐々木 力	群馬大学施設運営部長
工学系事務部長 (転出)	多 谷 司	総務企画部次長
筑波大学附属図書館副館長	江 川 和 子	附属図書館管理課長
国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校事務部長	竹 見 吉 弘	北海道大学病院総務課長
国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校事務部長	高 橋 秀 真	北海道大学病院管理課長
<b>【課長・事務長・室長】</b>		
監査室長	斎 藤 之 史	研究推進部外部資金戦略課長
総務企画部総務課長	坂 本 秀 敬	文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室外国人学生指導専門官
総務企画部総務課総長秘書室長	原 田 直 基	監査室長
学務部学生支援課長	今 野 康 二	工学系事務部教務課長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
学務部入試課長	的 野 裕 司	学務部学務企画課課長補佐
学務部キャリアセンター長	小 柴 正 則	学務部キャリアセンター特任教授
研究推進部研究支援課長	川 上 豊	函館キャンパス事務部事務長
研究推進部産学連携課長	伊 藤 恒 明	旭川医科大学総務部会計課長
施設部施設企画課長	永 井 雅 彦	施設部環境配慮促進課長
施設部環境配慮促進課長	柴 田 大	電気通信大学施設課長
附属図書館管理課長	相 原 雪 乃	情報・システム研究機構国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長
附属図書館学術システム課長	岸 本 一 志	北見工業大学情報図書課長
文学研究科・文学部事務長	渡 邊 正 明	薬学事務部事務長
法学研究科・法学部事務長	成 澤 顕 久	医学系事務部総務課長
経済学研究科・経済学部事務長	谷 口 貢	教育学事務部事務長
医学系事務部総務課長	佐 藤 浩 司	総務企画部総務課課長補佐
医学系事務部保健科学研究所事務課長	井 上 直 樹	研究推進部産学連携課長
獣医学研究科・獣医学部事務長	西 村 信 毅	法学研究科・法学部事務長
函館キャンパス事務部事務長	桃 山 光 樹	総務企画部人事課課長補佐
薬学事務部事務長	中 田 雄 二	財務部経理課課長補佐
教育学事務部事務長	三本木 毅	医学系事務部保健科学研究所事務課長
工学系事務部経理課長	大 道 元	北海道大学病院経営企画課長
工学系事務部教務課長	岡 林 精 二	学務部入試課長
北海道大学病院総務課長	大 石 和 博	旭川医科大学総務部総務課長
北海道大学病院経営企画課長	入 澤 秀 次	財務部主計課課長補佐
北海道大学病院管理課長	吉 田 茂	北見工業大学財務課長
北方生物圏フィールド科学センター事務長	山 本 正 幸	工学系事務部経理課長
国際本部国際教務課長	萩 原 隆 史	日本学生支援機構グローバル人材育成企画課課長補佐
国際本部国際交流課長 (出向復帰)	島 竜一郎	国際本部国際支援課長
事務局付 (出向)	結 城 憲 司	室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネジャー
小樽商科大学学術情報課長 (転出)	結 城 憲 司	事務局付
文部科学省高等教育局大学振興課専門官	辻 邦 章	総務企画部総務課長
北見工業大学学生支援課長	高 橋 伸 治	学務部学生支援課長
北見工業大学施設課長	松 川 朋 実	施設部施設整備課課長補佐
北見工業大学情報図書課長	吉 竹 忍	附属図書館利用支援課課長補佐
一橋大学学務部国際課長	小 形 徳 応	国際本部国際教務課長
<b>【補佐】</b>		
監査室室長補佐	高 橋 貴代美	総務企画部総務課専門員
総務企画部総務課課長補佐	吉 田 年 克	研究推進部研究振興企画課課長補佐
総務企画部企画課課長補佐	土 橋 祐 美	放送大学学園北海道学習センター事務長
総務企画部人事課課長補佐	及 川 晃 男	総務企画部企画課課長補佐
総務企画部人事課課長補佐	紙 丸 雅 実	北海道大学病院医療支援課課長補佐
財務部経理課課長補佐	吉 田 直 美	北海道大学病院医事課課長補佐
学務部学務企画課課長補佐	菅 原 暢 廣	学務部教育推進課課長補佐
学務部教育推進課課長補佐	鈴 木 百 江	医学系事務部総務課係長
研究推進部研究振興企画課課長補佐	小 澤 嘉 磨	研究推進部外部資金戦略課課長補佐
施設部施設整備課課長補佐	押 田 聡	施設部環境配慮促進課係長
附属図書館利用支援課課長補佐	菊 池 満 史	附属図書館利用支援課付係長
附属図書館利用支援課課長補佐	松 尾 博 朋	附属図書館利用支援課付係長
医学系事務部総務課課長補佐	里 眞理子	総務企画部企画課係長
理学・生命科学事務部事務課課長補佐	笹 原 英 明	北海道大学病院総務課課長補佐
理学・生命科学事務部事務課課長補佐	藤 井 幹 彦	工学系事務部総務課課長補佐
工学系事務部総務課課長補佐	高 橋 克 郎	理学・生命科学事務部事務課課長補佐
北海道大学病院総務課課長補佐	浪 塚 良 平	理学・生命科学事務部事務課課長補佐
北海道大学病院管理課課長補佐	小 澤 嘉	医学系事務部会計課係長
北海道大学病院管理課課長補佐	志 賀 政 明	財務部調達課課長補佐
北海道大学病院医事課課長補佐	水 野 範 善	総務企画部人事課課長補佐
北海道大学病院医事課課長補佐	渡 辺 修	北海道大学病院管理課課長補佐



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院医療支援課課長補佐 国際本部国際交流課課長補佐 (出向復帰) 総務企画部人事課 財務部主計課課長補佐 (出向) 旭川医科大学総務部施設課課長補佐 帯広畜産大学経営管理部財務課課長補佐 小樽商科大学企画戦略課課長代理 室蘭工業大学施設グループコーディネーター 室蘭工業大学図書・情報事務室ユニット・マネジャー 帯広畜産大学学術情報室長 放送大学学園北海道学習センター事務長 (転出) 北海道教育大学財務部施設課副課長	堀 川 俊 弥 中 谷 慎 志  栗 林 幸 徳 横 岡 政 紀  栗 林 幸 徳 館 山 雅 樹 岩 佐 俊 明 空 橋 博 幸 横 井 有 紀 高 野 直 樹 伊 藤 美 香  森 島 伸 雄	北海道大学病院医事課課長補佐 国際本部国際支援課課長補佐  室蘭工業大学施設グループコーディネーター 小樽商科大学企画戦略課課長代理  総務企画部人事課 財務部資産運用管理課係長 研究推進部外部資金戦略課課長補佐 施設部施設整備課係長 附属図書館利用支援課係長 附属図書館利用支援課付係長 医学系事務部総務課係長  総務企画部総務課安全衛生室係長
【専門員】 学務部学務企画課専門員 国際本部国際連携課専門員	芳 岡 洋 佐 藤 ひとみ	学務部学務企画課係長 国際本部国際連携課係長
【係長】 総務企画部総務課係長 総務企画部総務課安全衛生室係長 総務企画部企画課係長 総務企画部人事課係長 総務企画部人事課係長 総務企画部人事課厚生労務室係長 財務部資産運用管理課係長 学務部学務企画課係長 学務部学生支援課係長 学務部入試課係長 学務部キャリアセンター係長 研究推進部研究振興企画課係長 研究推進部研究振興企画課係長 研究推進部研究振興企画課係長 研究推進部研究支援課係長 研究推進部研究支援課係長 研究推進部研究支援課係長 研究推進部産学連携課係長 研究推進部産学連携課係長 施設部施設企画課係長 施設部環境配慮促進課係長 施設部環境配慮促進課係長 施設部施設整備課係長 施設部施設整備課係長 附属図書館管理課係長 附属図書館利用支援課係長 附属図書館利用支援課係長 附属図書館利用支援課付係長 附属図書館利用支援課付係長 附属図書館利用支援課付係長 附属図書館利用支援課付係長 法学研究科・法学部係長 医学系事務部総務課係長 医学系事務部総務課係長 医学系事務部会計課係長 医学系事務部会計課係長 医学系事務部保健科学研究院事務課係長 歯学研究科・歯学部係長	原 田 貢 岡 村 康 司 木 村 美 佳 藤 瀬 智 雄 松 田 拓 巳 鶴 木 貞 男 長谷川 和 彦 船 曳 康 徳 能 代 久 幸 清 水 泰 貴 野 坂 慎 一 王 生 晶 子 今 田 有 治 柴 田 珠 江 岩 佐 美 穂 上 野 真 志 高 橋 善 聡 中 川 雅 貴 渡 部 陽 一 乾 優 紀 子 大 野 達 哉 齊 藤 学 梅 原 和 俊 森 本 智 博 小 林 泰 名 小 林 流 美 子 中 條 将 喜 猿 橋 キヨミ 長 井 伸 一 平 野 知 熊 坂 浩 野 口 明 広 馬 渕 奈 美 佐々木 重 晴 高 橋 尚 志 遠 藤 克 紀 渡 邊 秀 雄	総務企画部人事課係長 学務部学務企画課係長 獣医学研究科・獣医学部係長 総務企画部人事課厚生労務室係長 総務企画部人事課主任 北海道大学病院総務課係長 北海道大学病院管理課係長 施設部施設企画課係長 学務部キャリアセンター係長 北海道大学病院総務課係長 学務部入試課係長 財務部調達課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 財務部経理課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 研究推進部外部資金戦略課係長 工学系事務部総務課係長 法学研究科・法学部係長 施設部施設整備課主任 研究推進部外部資金戦略課係長 施設部環境配慮促進課係長 施設部環境配慮促進課係長 附属図書館利用支援課係長 附属図書館利用支援課付係長 附属図書館利用支援課係長 附属図書館管理課係長 附属図書館利用支援課付 医学系事務部保健科学研究院事務課 総務企画部総務課係長 国際本部国際教務課係長 工学系事務部経理課係長 施設部施設企画課付係長 北海道大学病院総務課係長 学務部学務企画課係長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
函館キャンパス事務部係長	阿 部 洋 行	財務部経理課主任
函館キャンパス事務部係長	沖 田 正 彦	総務企画部人事課主任
理学・生命科学事務部事務課係長	岩 松 珠 美	北キャンパス合同事務部係長
理学・生命科学事務部事務課係長	渡 辺 栄 伸	施設部施設整備課付係長
教育学事務部係長	小 門 朋 子	法学研究科・法学部係長
メディア・観光学事務部係長	大 江 幸 人	総務企画部人事課係長
工学系事務部総務課係長	濱 勝 博	理学・生命科学事務部事務課係長
工学系事務部経理課係長	泉 澤 芳 史	工学系事務部総務課係長
工学系事務部経理課係長	長 倉 清 剛	理学・生命科学事務部事務課係長
工学系事務部経理課係長	山 内 貴 敏	函館キャンパス事務部係長
北海道大学病院総務課係長	岩 部 もゆみ	北海道大学病院医療支援課係長
北海道大学病院総務課係長	笹 川 鉄 馬	研究推進部産学連携課係長
北海道大学病院総務課係長	本 間 健 一	メディア・観光学事務部係長
北海道大学病院総務課係長	山 内 好 子	北海道大学病院総務課主任
北海道大学病院管理課係長	渡 辺 国 宏	研究推進部研究振興企画課係長
北海道大学病院医事課係長	齋 藤 充 大	教育学事務部係長
北海道大学病院医療支援課係長	江 戸 将 人	北海道大学病院総務課係長
北海道大学病院医療支援課係長	関 谷 英 俊	北海道大学病院医事課係長
北海道大学病院医療支援課係長	横 山 哲 也	北海道大学病院総務課係長
北方生物圏フィールド科学センター係長	峯 田 学	北海道大学病院医療支援課係長
国際本部国際連携課係長	猿 橋 史 章	工学系事務部教務課係長
国際本部国際教務課係長	内 田 めぐみ	歯学研究科・歯学部係長
国際本部国際交流課係長	小笠原 さおり	国際本部国際支援課係長
国際本部国際交流課係長	渡 辺 明	国際本部国際支援課主任
北キャンパス合同事務部係長 (出向復帰)	吉 田 陽 太	函館キャンパス事務部係長
研究推進部研究支援課係長	柳 谷 和 秀	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課施設係長
附属図書館利用支援課係長	綾 田 陽 子	千葉大学附属図書館利用支援企画課アカデミック・リンクグループ専門職員
附属図書館利用支援課付係長	児 玉 陽 子	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課図書係長
獣医学研究科・獣医学部係長	池 端 尚 宏	小樽商科大学総務課人事係長
北キャンパス合同事務部係長 (出向)	徳 田 歳 広	帯広畜産大学経営管理部総務課人事・労務係長
北見工業大学総務課係長	足 利 誠	財務部主計課主任
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課施設係長	海老田 憲 人	施設部施設整備課主任
小樽商科大学総務課人事係長	久 保 明 啓	医学系事務部総務課主任
帯広畜産大学経営管理部総務課人事・労務係長	鈴 木 孝 幸	農学事務部主任
国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課施設係長	檜 木 大 輔	北海道大学病院管理課主任
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課人事係長 (転出)	三 浦 司	北キャンパス合同事務部主任
小樽商科大学施設課施設係長	小 澤 聡	総務企画部人事課
文化庁文化財部伝統文化課アイヌ文化振興係長	田 中 陽 二	施設部施設整備課係長
<b>【主任】</b>		
総務企画部総務課主任	富 塚 直 樹	総務企画部総務課
総務企画部総務課総長秘書室主任	佐々木 由 香	総務企画部総務課主任
総務企画部総務課総長秘書室主任	山 添 晃 伸	研究推進部外部資金戦略課主任
総務企画部総務課安全衛生室主任	稲 垣 智 彦	学務部入試課主任
総務企画部総務課安全衛生室主任	佐 藤 真 美	北方生物圏フィールド科学センター主任
財務部主計課主任	吉 本 幸 矩	研究推進部外部資金戦略課
財務部主計課財務管理室主任	久 保 大 輔	財務部主計課財務管理室
財務部調達課主任	山 内 務 巨	財務部調達課
学務部学務企画課主任	千 葉 修 士	環境科学事務部主任
学務部学務企画課主任	山 田 孝 幸	文学研究科・文学部主任
学務部学生支援課主任	松 原 洋 一	函館キャンパス事務部主任
学務部学生支援課付主任	飯 田 厚 志	学務部学生支援課係長
研究推進部研究振興企画課主任	赤 渕 崇 弘	研究推進部外部資金戦略課主任
研究推進部研究振興企画課主任	亀 山 尚 枝	研究推進部外部資金戦略課主任
研究推進部研究振興企画課主任	清 水 麻 由	研究推進部外部資金戦略課主任

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
研究推進部研究支援課主任	小田 桐 英 樹	研究推進部外部資金戦略課主任
施設部施設整備課主任	栗 林 哲 也	施設部環境配慮促進課主任
文学研究科・文学部主任	石 水 健	文学研究科・文学部
文学研究科・文学部主任	山 本 英 子	国際本部国際連携課主任
経済学研究科・経済学部主任	平 野 亮	医学系事務部保健科学研究所事務課主任
医学系事務部総務課主任	清 水 亮 博	医学系事務部総務課
医学系事務部総務課主任	塚 田 倫 子	経済学研究科・経済学部主任
医学系事務部会計課主任	窪 寺 倫 子	医学系事務部会計課
医学系事務部保健科学研究所事務課主任	谷 薫	工学系事務部情報科学研究科事務課
歯学研究科・歯学部主任	狩 野 高 志	理学・生命科学事務部事務課
函館キャンパス事務部主任	近 正 竜 希	学務部教育推進課
環境科学事務部主任	吉 泉 綾	教育学事務部主任
理学・生命科学事務部事務課主任	稲 川 理 恵 子	国際本部国際連携課
理学・生命科学事務部事務課主任	鈴 木 頼 子	理学・生命科学事務部事務課
薬学事務部主任	宮 坂 光 春	薬学事務部
農学事務部主任	阿 部 千 夏 子	歯学研究科・歯学部主任
農学事務部主任	下 條 春 香	農学事務部
農学事務部主任	野 崎 な つ み	環境科学事務部
工学系事務部総務課主任	小 松 美 由 起	学務部学生支援課主任
工学系事務部総務課主任	富 樫 理 香	工学系事務部経理課主任
工学系事務部総務課主任	本 間 義 将	総務企画部広報課
工学系事務部経理課主任	田 中 昌 平	工学系事務部経理課
工学系事務部経理課主任	平 岩 和 之	工学系事務部経理課
工学系事務部教務課主任	宮 田 朋 和	国際本部国際支援課主任
工学系事務部情報科学研究科事務課主任	高 山 大 樹	工学系事務部情報科学研究科事務課
工学系事務部情報科学研究科事務課主任	田 代 陽 子	農学事務部
工学系事務部情報科学研究科事務課主任	成 田 佳 子	理学・生命科学事務部事務課主任
北海道大学病院総務課主任	岩 間 秀 敏	北海道大学病院総務課
北海道大学病院総務課主任	加 藤 哲 也	北海道大学病院総務課
北海道大学病院総務課主任	瀧 川 翼	北海道大学病院総務課
北海道大学病院総務課主任	穂 苅 陽 子	工学系事務部教務課主任
北海道大学病院管理課主任	池 森 一 之	施設部施設整備課主任
北海道大学病院管理課主任	吉 井 洋	北海道大学病院医療支援課係長
北海道大学病院医事課主任	千 葉 浩 二	学務部教育推進課主任
低温科学研究所主任	白 川 万 愉	低温科学研究所
北方生物圏フィールド科学センター主任	伊 藤 仁 浩	附属図書館管理課主任
北方生物圏フィールド科学センター主任	佐 藤 優 子	環境科学事務部主任
情報環境推進本部情報推進課主任	石 井 英 樹	北海道大学病院医事課主任
国際本部国際連携課主任	石 原 壮 太 郎	国際本部国際連携課付主任
国際本部国際教務課主任	角 家 由 紀 子	北海道大学病院医事課主任
国際本部国際交流課主任	安 齊 愛 郎	国際本部国際支援課主任
国際本部国際交流課主任	小 澤 響 子	国際本部国際連携課
北キャンパス合同事務部主任	細 貝 美 穂	法学研究科・法学部主任
(出向復帰)		
総務企画部人事課厚生労務室付主任	青 野 竜 一	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課主任
財務部経理課主任	越 智 亨	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課研究協力室主任
(転出)		
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課主任	小 林 彩 希	学務部学務企画課
旭川医科大学主任	秋 元 ふ み か	工学系事務部総務課主任
<b>【係員】</b>		
総務企画部総務課	丁 睿 朗	採用
総務企画部総務課	松 尾 安 優 子	採用
総務企画部企画課	久 保 美 月	採用
総務企画部広報課	関 本 岳	総務企画部総務課安全衛生室
総務企画部人事課	角 谷 有 介	理学・生命科学事務部事務課
総務企画部人事課	桂 下 朋 子	採用
総務企画部人事課	河 門 前 冬 美	文学研究科・文学部

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
総務企画部人事課	齋 藤 和 也	薬学事務部
総務企画部人事課	佐 藤 達 郎	採用
総務企画部人事課	野 崎 裕 貴	研究推進部外部資金戦略課
総務企画部人事課	藤 田 理 理	採用
総務企画部人事課	吉 田 一 石	北海道大学病院管理課
総務企画部人事課厚生労務室	宮 本 大悠斗	採用
財務部経理課	佐 野 友里恵	採用
財務部経理課	関 藤 元 太	財務部資産運用管理課
財務部調達課	五十嵐 香 里	採用
財務部調達課	尾 辻 大 貴	北海道教育大学事務局釧路校室
財務部調達課	本 山 楓 人	採用
財務部調達課	袖 木 静 香	採用
財務部調達課	若 松 亮 吾	採用
財務部資産運用管理課	福 井 祐 一	総務企画部人事課
学務部学務企画課	川 西 奈津美	採用
学務部教育推進課	櫛 引 崇 弘	採用
学務部教育推進課	平 井 正 仁	採用
学務部教育推進課	柳 川 仁 美	学生支援機構学生生活部障害学生支援課
学務部学生支援課	小田原 弘 明	採用
学務部入試課	小笠原 麻 美	総務企画部人事課
研究推進部研究振興企画課	前 田 龍之介	理学・生命科学事務部事務課
研究推進部研究振興企画課付	藤 枝 聡	研究推進部外部資金戦略課
研究推進部研究支援課	遠 藤 真 好	研究推進部外部資金戦略課
研究推進部研究支援課	安 井 詩 絵	研究推進部外部資金戦略課
施設部環境配慮促進課	窪 田 雅 也	採用
施設部環境配慮促進課	鈴 木 拓 人	採用
施設部施設整備課	鯉 江 勇 輝	採用
施設部施設整備課	佐 藤 祐 介	北海道大学病院管理課
附属図書館管理課	芝 翔太郎	附属図書館利用支援課
附属図書館管理課	鈴 木 竜 一	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課
附属図書館管理課	三 隅 健 一	附属図書館学術システム課
附属図書館管理課	山 形 知 実	採用
附属図書館利用支援課	前 田 隼	採用
附属図書館利用支援課付	神 谷 実	附属図書館管理課
附属図書館利用支援課付	守 内 美 月	附属図書館管理課
附属図書館学術システム課	笠 井 美由紀	附属図書館利用支援課付
附属図書館学術システム課	近 藤 絵理子	附属図書館管理課
附属図書館学術システム課	嶺 野 智 康	附属図書館管理課
文学研究科・文学部	上 坂 忠 幸	総務企画部人事課
文学研究科・文学部	北 館 亜 記	工学系事務部教務課
法学研究科・法学部	荒 木 一 平	工学系事務部教務課
法学研究科・法学部	田 村 宗 平	採用
医学系事務部会計課	佐 藤 祥 嗣	研究推進部外部資金戦略課
医学系事務部保健科学研究院事務課	石 田 千 織	総務企画部人事課厚生労務室
歯学研究科・歯学部	豊 川 誠 人	北方生物圏フィールド科学センター
獣医学研究科・獣医学部	平 川 裕理恵	情報環境推進本部情報推進課
函館キャンパス事務部	笹 島 良 太	財務部調達課
函館キャンパス事務部	八 田 紘 介	施設部環境配慮促進課
環境科学事務部	名 取 晴 香	農学事務部
理学・生命科学事務部事務課	相 沢 駿	採用
理学・生命科学事務部事務課	加 藤 可 愛	財務部資産運用管理課
理学・生命科学事務部事務課	田 島 恵理子	学務部学務企画課
理学・生命科学事務部事務課	南 村 拓 海	採用
薬学事務部	宮 澤 亮	採用
農学事務部	今 田 悠	工学系事務部情報科学研究科事務課
農学事務部	櫻 井 志 保	採用
農学事務部	好 田 知 子	学務部学生支援課



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
教育学事務部	片 山 織 江	総務企画部人事課
工学系事務部総務課	池 澤 奈 緒	小樽商科大学総務課
工学系事務部総務課	石 原 旬	採用
工学系事務部総務課	中屋敷 洋 介	採用
工学系事務部教務課	小 林 まどか	北海道大学病院医事課
工学系事務部教務課	出 店 遼	採用
北海道大学病院総務課	佐々木 舞 子	北海道大学病院医事課
北海道大学病院総務課	福 原 翔	採用
北海道大学病院管理課	巽 研二郎	採用
北海道大学病院管理課	堀 切 香 菜	室蘭工業大学財務グループ
北海道大学病院医事課	佐々木 遥 香	採用
北海道大学病院医事課	蛇 池 麻 帆	採用
北海道大学病院医事課	三 浦 富美子	採用
北方生物圏フィールド科学センター	穂 高 真奈美	採用
国際本部国際連携課	蟹 澤 美 佳	採用
国際本部国際連携課	佐 川 浩 太	国際本部国際教務課
国際本部国際連携課	竹 内 亮 太	国際本部国際教務課
国際本部国際連携課	寺 澤 惇	工学系事務部総務課
国際本部国際教務課	高 木 敦 子	国際本部国際連携課付
国際本部国際交流課	ハース 千佳子	国際本部国際支援課
国際本部国際交流課	山 下 史 恵	農学事務部
(出向)		
日本学術振興会研究事業部研究助成第二課	大 坪 智 子	研究推進部研究振興企画課
情報・システム研究機構国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課	額 額 直 也	附属図書館学術システム課
大学評価・学位授与機構評価事業部評価支援課	對 木 文 宏	法学研究科・法学部
(転出)		
帯広畜産大学経営管理部財務課	内 野 江 香	総務企画部人事課
文部科学省大臣官房人事課	進 藤 玄	総務企画部人事課
北海道教育大学財務部経理課	小 西 龍 典	財務部調達課
釧路工業高等専門学校学生課	齊 藤 慧	工学系事務部総務課
室蘭工業大学総務グループ	白川部 直 人	工学系事務部総務課
<b>【技術職員等】</b>		
大学院医学研究科技術専門員	中 瀬 健 一	大学院医学研究科技術専門職員
大学院医学研究科附属動物実験施設技術専門職員	菅 尚 登	大学院医学研究科附属動物実験施設
水産学部附属練習船おしよろ丸三等航海士	飯 田 高 大	情報・システム研究機構国立極地研究所助教
水産学部附属練習船おしよろ丸機関員	宇 野 浩 之	採用
水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員	稲 垣 祐 太	採用
水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員	村 田 拓 也	採用
水産学部附属練習船うしお丸二等航海士	佐 藤 太 一	採用
水産学部附属練習船うしお丸甲板員	濱 大 志	水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員
大学院工学研究院技術専門職員	大 塚 尚 広	大学院工学研究院
大学院工学研究院	大 沼 舞	採用
大学院工学研究院	栗 芝 綾 子	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤師	柴 山 良 彦	大学院薬学研究院准教授
北海道大学病院薬剤部薬剤師	富 山 直 樹	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤師	鳥谷部 尚 之	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤師	渡 辺 祐 子	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	金 森 怜	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	鈴 木 幸 司	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	松 浦 泰 寛	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	宮 前 祐 士	採用
北海道大学病院看護部看護師長	城 石 陽 子	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部看護師長	中 野 政 子	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部副看護師長	日下部 緑	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	高 橋 美 佳	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	藤 谷 貴 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	三 宅 亜 矢	北海道大学病院看護部看護師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	秋 友 あゆみ	採用
北海道大学病院看護部看護師	阿 部 真理絵	採用
北海道大学病院看護部看護師	石 川 梨 沙	採用
北海道大学病院看護部看護師	伊 藤 聡 珠	採用
北海道大学病院看護部看護師	貝 沼 里 美	採用
北海道大学病院看護部看護師	川 端 真里那	採用
北海道大学病院看護部看護師	木戸場 千 明	採用
北海道大学病院看護部看護師	木 村 正 実	採用
北海道大学病院看護部看護師	工 藤 しずか	採用
北海道大学病院看護部看護師	玄 田 知 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	佐 藤 一 歩	採用
北海道大学病院看護部看護師	佐 野 唯 衣	採用
北海道大学病院看護部看護師	澤 口 恵 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	高 橋 勇 太	採用
北海道大学病院看護部看護師	照 井 里 彩	採用
北海道大学病院看護部看護師	東海林 明 美	採用
北海道大学病院看護部看護師	沼 田 愛	採用
北海道大学病院看護部看護師	廣 川 舞	採用
北海道大学病院看護部看護師	福 岡 芳	採用
北海道大学病院看護部看護師	福 富 果乃子	採用
北海道大学病院看護部看護師	藤 田 麻 奈	採用
北海道大学病院看護部看護師	藤 田 和華子	採用
北海道大学病院看護部看護師	我 妻 佳 奈	採用
北海道大学病院看護部准看護師	達 崎 しずか	採用
北海道大学病院看護部准看護師	天 満 亜希子	採用
北海道大学病院看護部准看護師	豊 住 かおり	採用
北海道大学病院看護部准看護師	花 田 真理子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	青 山 桜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 さお梨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	有 川 佳 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	石 川 裕 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	石 田 悠	採用
北海道大学病院看護部看護助手	石 橋 由 梨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岩 佐 華 那	採用
北海道大学病院看護部看護助手	上 野 雅悠子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	姥 谷 実 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	漆 山 夏 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 江 美 優	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 西 舞	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 あやめ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小笠原 穂の花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	織 田 優 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小 野 加 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	角 田 夕 真	採用
北海道大学病院看護部看護助手	片 山 怜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	加 藤 愛	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鎌 田 優 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	川 村 幾 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	菊 地 彩 花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 下 由 梨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 愛 莉	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 奈都未	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 遥 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 優 駿	採用
北海道大学病院看護部看護助手	工 藤 智 穂	採用
北海道大学病院看護部看護助手	護摩堂 里 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	古 満 まりの	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護助手	今 菜 摘	採用
北海道大学病院看護部看護助手	齊 藤 香 梨	採用
北海道大学病院看護部看護助手	斎 藤 美 穂	採用
北海道大学病院看護部看護助手	櫻 庭 華 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐々木 奈 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐々木 理 恵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 可 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 志 帆	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 野 ちあき	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 渡 沙緒里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	志 賀 はるか	採用
北海道大学病院看護部看護助手	島 明日美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	管 原 直 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 橋 怜 愛	採用
北海道大学病院看護部看護助手	滝 井 彩 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 坂 理 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 中 寛 幸	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 邊 裕紀子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	塚 田 麻 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	坪 田 玲 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	苔米地 美 裕	採用
北海道大学病院看護部看護助手	永 井 絢 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	永 井 り ほ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 田 彩 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 谷 真理子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	長 沼 希久代	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 村 典 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 谷 亮 太	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 山 瑛 里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	夏 目 麻 由	採用
北海道大学病院看護部看護助手	成 田 淳 人	採用
北海道大学病院看護部看護助手	西 村 春 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	西 本 実咲希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	野 村 百 加	採用
北海道大学病院看護部看護助手	藤 原 亜 樹	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 田 梨 花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	宮 谷 麻衣子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	茂 木 美 祐	採用
北海道大学病院看護部看護助手	八 木 亜李寿	採用
北海道大学病院看護部看護助手	柳 澤 友 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	柳 本 駿 介	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 崎 夕貴乃	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 田 怜 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 梨 絢 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 根 綾 歌	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 根 綾 華	採用
北海道大学病院看護部看護助手	横 濱 佑三子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	吉 田 あやめ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	米 澤 裕 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	萬 谷 友 理	採用
北海道大学病院看護部看護助手	若 松 紗 花	採用
北海道大学病院診療支援部臨床検査技師	越 智 典 樹	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	青 池 拓 哉	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	野 畑 圭 亮	採用
北海道大学病院診療支援部臨床工学技士	松 本 剛 直	採用
北海道大学病院診療支援部言語聴覚士	三 上 愛	採用
北海道大学病院診療支援部視能訓練士	齊 藤 沙 宝	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院診療支援部視能訓練士	橋 本 勇 希	採用
北海道大学病院診療支援部	照 井 涼 子	採用
低温科学研究所技術専門職員	森 章 一	低温科学研究所
遺伝子病制御研究所	亀 岡 章一郎	採用
触媒化学研究センター技術専門職員	山 岸 太 平	触媒化学研究センター
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	富 岡 輝 男	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	馬 谷 佳 幸	北方生物圏フィールド科学センター
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	高 谷 文 仁	北方生物圏フィールド科学センター
北方生物圏フィールド科学センター	五十嵐 進	採用
技術支援本部付 (創成研究機構) 技術専門職員 (転出)	武 田 希 美	技術支援本部付 (創成研究機構)
東京大学医学部附属病院看護師	兼 崎 真佐子	北海道大学病院看護部看護師
東京大学医学部附属病院看護師	木 村 美 和	北海道大学病院看護部看護師
東京大学医学部附属病院看護師	東 辻 萌	北海道大学病院看護部看護師
千葉大学医学部附属病院看護師	柳 橋 美 幸	北海道大学病院看護部看護師
<b>【特任教授 (再雇用)】</b>		
大学院文学研究科特任教授	小 野 芳 彦	
大学院文学研究科特任教授	津 曲 敏 郎	
大学院文学研究科特任教授	三 木 聰	
大学院法学研究科特任教授	岡 田 信 弘	
大学院法学研究科特任教授	林 田 清 明	
大学院医学研究科特任教授	櫻 木 範 明	
大学院医学研究科特任教授	寺 沢 浩 一	
大学院医学研究科特任教授	福 田 論	
大学院医学研究科特任教授	水 上 尚 典	
大学院医学研究科特任教授	三 輪 聡 一	
大学院歯学研究科特任教授	進 藤 正 信	
大学院水産科学研究院特任教授	飯 田 浩 二	
大学院水産科学研究院特任教授	今 野 久仁彦	
大学院水産科学研究院特任教授	高 橋 是太郎	
大学院水産科学研究院特任教授	平 石 智 徳	
大学院地球環境科学研究院特任教授	吉 川 久 幸	
大学院理学研究院特任教授	高 畑 雅 一	
大学院理学研究院特任教授	野 村 一 成	
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター特任教授	茂 木 透	
大学院農学研究院特任教授	生 方 信	
大学院農学研究院特任教授	近 藤 誠 司	北方生物圏フィールド科学センター特任教授
大学院農学研究院特任教授	増 田 清	
大学院農学研究院特任教授	丸 谷 知 己	
国際連携研究教育局特任教授		
大学院教育学研究院特任教授	間 宮 正 幸	
大学院保健科学研究院特任教授	三 神 大 世	
大学院工学研究院特任教授	荒 井 正 彦	
大学院工学研究院特任教授	石 政 勉	
大学院工学研究院特任教授	佐々木 一 彰	
大学院工学研究院特任教授	成 田 吉 弘	
大学院工学研究院特任教授	森 治 嗣	
大学院工学研究院特任教授	吉 川 信 一	
低温科学研究所特任教授	河 村 公 隆	
北方生物圏フィールド科学センター特任教授 (転出)	上 田 宏	
室蘭工業大学理事 (副学長)	馬 場 直 志	大学院工学研究院特任教授
<b>【特任准教授 (再雇用)】</b>		
大学院理学研究特任准教授	知 北 和 久	
電子科学研究所特任准教授	辻 見 裕 史	



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【特任助教 (再雇用)】 大学院歯学研究科特任助教	瀧 田 裕 子	
【嘱託職員 (再雇用)】 総務企画部総務課 財務部経理課 財務部調達課 財務部調達課 学務部学生支援課 研究推進部研究支援課 研究推進部研究支援課 研究推進部研究支援課 研究推進部研究支援課 研究推進部産学連携課 施設部付 附属図書館利用支援課付 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター 函館キャンパス事務部 函館キャンパス事務部 大学院工学研究院 北海道大学病院看護部 北海道大学病院診療支援部 北海道大学病院管理課 遺伝子病制御研究所附属動物実験施設 北方生物圏フィールド科学センター 北方生物圏フィールド科学センター 情報環境推進本部情報推進課	西 田 久美子 久 保 修 大 森 あけみ 徳 田 由 紀 瀬 田 尚 利 出 蔵 雅 憲 松 井 哲 司 丸 山 浩 三 村 上 毅 片 岡 平 和 加 藤 公 洋 首 藤 佳 子 大 内 睦 美 当 山 千鶴子 村 木 牧 子 中 村 真 人 奈 良 恵 子 高 木 敏 彦 東 直 登 尾 関 祐 一 大 井 芳 美 日 置 昭 二 折 野 神 恵	北海道大学病院医療支援課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 研究推進部外部資金戦略課 工学系事務部経理課

新任理事・副学長・部局長等紹介

平成27年4月1日付

理事に



かんの まさとし  
**菅野 政利 氏**

平成27年3月31日限りで鑄山賢一理事が退任され、その後任として菅野政利氏が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

副学長に



てらお ひろあき  
**寺尾 宏明 氏**

副学長として、寺尾宏明特任教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年9月24日  
昭和59年3月 早稲田大学政治経済学部卒業  
昭和59年4月 北海道東北開発公庫  
平成11年10月 日本政策投資銀行 人事部調査役  
平成12年3月 同 人事部参事役  
平成13年3月 同 東北支店業務課長  
平成16年3月 同 信用リスク管理部課長  
平成18年4月 同 人事部次長  
平成20年6月 新むつ小川原株式会社 代表取締役専務  
平成22年6月 株式会社日本政策投資銀行 審査部担当部長  
平成24年6月 同 監査部長  
平成26年6月 同 執行役員（内部監査担当）

略 歴

生年月日 昭和26年8月13日  
昭和49年3月 東京大学理学部卒業  
昭和51年3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了  
昭和52年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程退学  
昭和52年4月 国際基督教大学助手  
昭和54年4月 国際基督教大学講師  
昭和56年3月 理学博士（京都大学）  
昭和56年4月 国際基督教大学助教授  
平成2年6月 米国ウイスコンシン大学マディソン校数学科准教授  
平成5年8月 米国ウイスコンシン大学マディソン校数学科教授  
平成8年7月 北海道大学大学院理学研究科教授  
平成10年4月 東京都立大学大学院理学研究科教授  
平成17年4月 公立大学法人首都大学東京都市教養学部教授  
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授  
平成23年4月 }北海道大学大学院理学院長  
平成25年3月 }  
平成25年4月 }北海道大学大学院理学研究院長・理学院長・理学部長  
平成27年3月 }

理学研究院長・理学部長に



いしもり こういちろう  
**石森 浩一郎 教授**

平成27年3月31日限りで寺尾宏明理学研究院長・理学部長が任期満了となり、その後任として石森浩一郎教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

理学院長に



すずき のりゆき  
**鈴木 徳行 教授**

平成27年3月31日限りで寺尾宏明理学院長が任期満了となり、その後任として鈴木徳行教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年5月12日  
昭和59年3月 京都大学工学部卒業  
昭和61年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了  
平成元年3月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了  
平成元年3月 工学博士（京都大学）  
平成元年4月 京都大学工学部助手  
平成7年10月 京都大学工学部助教授  
平成8年4月 京都大学大学院工学研究科助教授  
平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授  
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授  
平成25年4月 }北海道大学役員補佐  
平成26年3月 }  
平成25年10月 }北海道大学創成研究機構副機構長  
平成26年3月 }  
平成26年4月 }北海道大学教育研究評議会評議員、  
平成27年3月 }北海道大学大学院理学研究院副研究院長

略 歴

生年月日 昭和28年8月18日  
昭和53年3月 東北大学理学部卒業  
昭和55年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程前期修了  
昭和56年4月 東北大学大学院理学研究科博士課程後期退学  
昭和56年5月 鳥根大学理学部助手  
昭和60年9月 理学博士（東北大学）  
平成元年4月 鳥根大学理学部助教授  
平成6年10月 北海道大学理学部助教授  
平成13年4月 北海道大学理学部教授  
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授  
平成23年4月 }北海道大学大学院理学研究院副研究院長  
平成27年3月 }

農学研究院長・農学院長・農学部長に



よこた あつし  
**横田 篤 教授**

平成27年3月31日限りで丸谷知己農学研究院長・農学院長・農学部長が任期満了となり、その後任として横田篤教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年2月22日  
昭和54年3月 北海道大学農学部卒業  
昭和56年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了  
昭和59年3月 北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了  
昭和59年3月 農学博士（北海道大学）  
昭和59年4月 } 味の素株式会社中央研究所応用研究所研究員  
平成元年2月 }  
平成元年3月 北海道大学農学部助手  
平成3年4月 北海道大学農学部講師  
平成4年4月 北海道大学農学部助教授  
平成11年4月 北海道大学大学院農学研究科助教授  
平成12年8月 北海道大学大学院農学研究科教授  
平成18年4月 北海道大学大学院農学研究院教授  
平成24年4月 } 北海道大学役員補佐  
平成25年3月 }  
平成25年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成27年3月 }

メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長に



やまだ よしひろ  
**山田 義裕 教授**

平成27年3月31日限りで宇佐見森吉メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長が任期満了となり、その後任として山田義裕教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

昭和55年3月 北海道大学文学部卒業  
昭和57年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了  
昭和62年3月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学  
昭和62年4月 北海道大学文学部助手  
昭和63年10月 北海道大学言語文化部講師  
平成5年2月 北海道大学言語文化部助教授  
平成18年4月 北海道大学言語文化部教授  
平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に



いし い よしはる  
**石井 吉春 教授**

平成27年3月31日限りで山崎幹根公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長が任期満了となり、その後任として石井吉春教授が発令されました。  
任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和29年1月17日  
昭和51年3月 一橋大学商学部卒業  
昭和51年4月 北海道東北開発公庫  
平成11年10月 日本政策投資銀行  
平成17年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授  
平成19年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

北極域研究センター長に



さいとう せいいち  
**齊藤 誠一 教授**

平成27年4月1日付けで北極域研究センターが設置となり、センター長として齊藤誠一教授が発令されました。  
任期は、平成28年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和28年2月16日  
昭和50年3月 北海道大学水産学部卒業  
昭和53年3月 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了  
昭和59年3月 北海道大学大学院水産学研究科博士課程修了  
昭和59年3月 水産学博士（北海道大学）  
平成5年2月 北海道大学水産学部助教授  
平成12年1月 北海道大学水産学部教授  
平成12年4月 北海道大学大学院水産科学研究科教授  
平成17年4月 北海道大学大学院水産科学研究院教授

外国語教育センター長に



すずき じゅんいち  
鈴木 純一 教授

平成27年3月31日限りで山田義裕外国語教育センター長が任期満了となり、その後任として鈴木純一教授が発令されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和34年10月7日  
 昭和60年3月 東京大学文学部卒業  
 平成元年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了  
 平成元年4月 東京大学文学部助手  
 平成6年4月 北海道大学言語文化部助教授  
 平成22年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

総合博物館長に



なかがわ みつひろ  
中川 光弘 教授

平成27年3月31日限りで津曲敏郎総合博物館長が任期満了となり、その後任として中川光弘教授が発令されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和31年10月3日  
 昭和55年3月 東北大学理学部卒業  
 昭和61年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程修了  
 昭和61年3月 理学博士（東北大学）  
 昭和61年4月 三菱鉱業セメント株式会社  
 平成元年4月 北海道大学理学部助手  
 平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助手  
 平成16年4月 北海道大学大学院理学研究科教授  
 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授

埋蔵文化財調査センター長に



こすぎ やすし  
小杉 康 教授

平成27年4月1日付けで埋蔵文化財調査センターが設置となり、センター長として小杉康教授が発令されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和34年12月6日  
 昭和58年3月 明治大学文学部卒業  
 昭和61年3月 明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了  
 平成元年4月 } 日本学術振興会特別研究員（DC）  
 平成2年3月 }  
 平成2年3月 明治大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学  
 平成2年4月 } 日本学術振興会特別研究員（PD）  
 平成3年3月 }  
 平成3年4月 明治大学文学部専任助手  
 平成7年4月 明治大学文学部兼任講師  
 平成8年4月 国立民族学博物館共同研究員  
 平成9年4月 北海道大学文学部助教授  
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院文学研究科准教授  
 平成20年4月 北海道大学大学院文学研究科教授



## 理事・副学長・部局長等（再任）紹介

平成27年4月1日付

## 理事・副学長，サステイナブルキャンパス推進本部長に

み かみ たかし  
三上 隆 氏

三上 隆氏は、平成23年4月1日から理事・副学長，サステイナブルキャンパス推進本部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

## 理事・副学長，技術支援本部長，国際本部長，安全衛生本部長に

うえだ いちろう  
上田 一郎 氏

上田一郎氏は、平成23年4月1日から理事・副学長，安全衛生本部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

また、同氏は、平成25年4月1日から技術支援本部長，国際本部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

## 理事・副学長，アドミッションセンター長，高等教育推進機構長，附属図書館長，大学文書館長に

にっ た たかひこ  
新田 孝彦 氏

新田孝彦氏は、平成23年4月1日から理事・副学長，附属図書館長，大学文書館長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

また、同氏は、平成25年4月1日からアドミッションセンター長，高等教育推進機構長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

## 理事・副学長に

やすだ かずのり  
安田 和則 氏

安田和則氏は、平成25年4月1日から理事・副学長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

## 理事・副学長，産学・地域協働推進機構長，創成研究機構長に

かわばた かずしげ  
川端 和重 氏

川端和重氏は、平成25年4月1日から理事・副学長，創成研究機構長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

また、同氏は平成25年4月1日から産学連携本部長を務め、組織改編・名称変更に伴い、引き続き同氏が産学・地域協働推進機構長に再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

## 理事・事務局長に

むらた なおき  
村田 直樹 氏

村田直樹氏は、平成24年9月1日から理事・事務局長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は、平成29年3月31日までです。

**副学長，人材育成本部長，附属図書館北図書館長に**

もちづき つねこ  
**望月 恒子 教授**

---

望月恒子教授は，平成26年4月1日から副学長，人材育成本部長を務め，平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同教授が再任されました。任期は，平成29年3月31日までです。

また，同教授は，平成23年4月1日から附属図書館北図書館長を務め，平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同教授が再任されました。任期は，平成29年3月31日までです。

**副学長，生命科学院長に**

やまぐち じゅんじ  
**山口 淳二 教授**

---

山口淳二教授は，平成26年4月1日から副学長，生命科学院長を務め，平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同教授が再任されました。任期は，平成29年3月31日までです。

**副学長に**

やました まさかね  
**山下 正兼 教授**

---

山下正兼教授は，平成27年1月1日から副学長を務め，平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが，引き続き同教授が再任されました。任期は，平成29年3月31日までです。

**医学研究科長・医学部長に**

かきほら まさのり  
**笠原 正典 教授**

笠原正典教授は、平成25年4月1日から医学研究科長・医学部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**薬学研究院長・薬学部長に**

みなみ まさぶみ  
**南 雅文 教授**

南 雅文教授は、平成25年4月1日から薬学研究院長・薬学部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**情報基盤センター長に**

たかい よしあき  
**高井 昌彰 教授**

高井昌彰教授は、平成23年4月1日から情報基盤センター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**アイソトープ総合センター長に**

はたけやま しげつぐ  
**畠山 鎮次 氏**

畠山鎮次教授は、平成23年4月1日からアイソトープ総合センター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**アイヌ・先住民研究センター長に**

つねもと てる き  
**常本 照樹 教授**

常本照樹教授は、平成19年4月1日からアイヌ・先住民研究センター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**獣医学研究科長・獣医学部長に**

いなば むつみ  
**稲葉 睦 教授**

稲葉 睦教授は、平成25年4月1日から獣医学研究科長・獣医学部長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**先端生命科学研究院長に**

でむら まこと  
**出村 誠 教授**

出村 誠教授は、平成25年4月1日から先端生命科学研究院長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**人獣共通感染症リサーチセンター長に**

すぎもと ちひろ  
**杉本 千尋 教授**

杉本千尋教授は、平成25年4月1日から人獣共通感染症リサーチセンター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成28年3月31日までです。

**観光学高等研究センター長に**

にしやま のりあき  
**西山 徳明 教授**

西山徳明教授は、平成25年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

**保健センター長に**

はしの さとし  
**橋野 聡 教授**

橋野 聡教授は、平成25年4月1日から保健センター長を務め、平成27年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

新任教授紹介

平成27年4月1日付



文学研究科教授に

こんどう ひろゆき  
**近藤 浩之 氏**

言語文学専攻中国文化論講座

生年月日

昭和41年 6月27日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学（平成11年3月）  
修士（文学）（東京大学）

専門分野

中国古代思想，易学思想史



文学研究科教授に

ふじた たけし  
**藤田 健 氏**

言語文学専攻西洋言語学講座

生年月日

昭和43年 1月6日

最終学歴

京都大学大学院文学研究科博士課程修了（平成10年3月）  
博士（文学）（京都大学）

専門分野

フランス語学，ロマンス語学，統語論



文学研究科教授に

むらた かつゆき  
**村田 勝幸 氏**

歴史地域文化学専攻  
歴史文化論講座

生年月日

昭和43年 2月1日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（平成15年9月）  
博士（学術）

専門分野

アメリカ史，アメリカ研究



法学研究科教授に

うへだ しんたろう  
**上田 信太郎 氏**

法律実務専攻公法講座

生年月日

昭和37年 4月6日

最終学歴

一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学（昭和63年3月）  
修士（法学）（一橋大学）

専門分野

刑事訴訟法



法学研究科教授に

はやし せいじ  
**林 誠司 氏**

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

北海道大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学（平成10年3月）  
博士（法学）（北海道大学）

専門分野

民法



経済学研究科教授に

おの の ゆうか  
**大野 由夏 氏**

現代経済経営専攻経済政策講座

最終学歴

米国ワシントン大学経済学部博士課程修了  
Ph.D.（ワシントン大学）

専門分野

国際貿易論，産業組織論





獣医学研究科教授に

かたぎり せいじ 氏  
**片桐 成二 氏**

獣医学専攻環境獣医科学講座

生年月日

昭和37年 9月18日

最終学歴

プリティッシュ・コロンビア大学大学院博士課程修了（平成8年5月）  
Ph.D.（カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学）

専門分野

獣医繁殖学



情報科学研究科教授に

さかもと ゆうじ 氏  
**坂本 雄児 氏**

メディアネットワーク専攻  
情報メディア学講座

生年月日

昭和35年 3月13日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（昭和63年3月）  
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

メディア情報学



水産科学研究院教授に

かさい あきひで 氏  
**笠井 亮秀 氏**

海洋生物資源科学部門  
海洋環境科学分野

生年月日

昭和40年 6月28日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科博士課程単位修得退学（平成6年3月）  
博士（農学）（東京大学）

専門分野

水産海洋学，沿岸海洋学



地球環境科学研究院教授に

かみや ゆういち 氏  
**神谷 裕一 氏**

物質機能科学部門  
機能材料化学分野

生年月日

昭和47年 7月6日

最終学歴

名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程修了（平成9年3月）  
博士（工学）（名古屋大学）

専門分野

触媒化学，材料化学



理学研究院教授に

かつ よしなお 氏  
**勝 義直 氏**

生物科学部門  
生殖発生生物学分野

生年月日

昭和42年 2月9日

最終学歴

総合研究大学院大学大学院生命科学科博士課程修了（平成7年3月）  
博士（理学）（総合研究大学院大学）

専門分野

比較内分泌学



理学研究院附属地震火山研究  
観測センター教授に

はしもと たけし 氏  
**橋本 武志 氏**

地下構造研究分野

生年月日

昭和43年 1月26日

最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士課程修了（平成8年3月）  
博士（理学）（京都大学）

専門分野

火山学



薬学研究院教授に

いちかわ さとし 氏  
**市川 聡 氏**

創薬科学研究教育センター

生年月日

昭和46年 9月28日

最終学歴

北海道大学大学院薬学研究科博士後期課程修了（平成11年 3月）  
博士（薬学）（北海道大学）

専門分野

創薬化学，有機合成化学



薬学研究院教授に

おがわ みかこ 氏  
**小川 美香子 氏**

医療薬学部門医療薬学分野

生年月日

昭和49年 3月27日

最終学歴

京都大学大学院薬学研究科修士課程修了（平成12年 3月）  
博士（薬学）（京都大学）

専門分野

分子イメージング



薬学研究院教授に

まつなが しげき 氏  
**松永 茂樹 氏**

創薬科学部門創薬化学分野

生年月日

昭和50年12月 2日

最終学歴

東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了（平成12年 3月）  
博士（薬学）（東京大学）

専門分野

有機合成化学



薬学研究院教授に

わきもと としゆき 氏  
**脇本 敏幸 氏**

創薬科学部門創薬化学分野

生年月日

昭和49年 3月 7日

最終学歴

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了（平成13年 3月）  
博士（農学）（東京大学）

専門分野

天然物化学



教育学研究院教授に

あだち じゅん 氏  
**安達 潤 氏**

人間発達科学分野

生年月日

昭和35年 4月28日

最終学歴

北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位修得退学（平成 4年 3月）  
修士（教育学）（北海道大学）

専門分野

特殊教育，臨床心理学



教育学研究院教授に

いけだ けいこ 氏  
**池田 恵子 氏**

教育社会発展論分野

生年月日

昭和41年11月9日

最終学歴

奈良女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了（平成 7年 3月）  
博士（学術）（奈良女子大学）

専門分野

身体文化論



メディア・コミュニケーション  
研究院教授に

おく さとし  
**奥 聡 氏**

国際広報メディア専攻  
言語習得論分野

**生年月日**

昭和36年 8月29日

**最終学歴**

コネチカット大学大学院博士課程修了（平成9年12月）  
Ph.D.（言語学博士）（コネチカット大学）

**専門分野**

理論言語学，言語獲得論，比較統語論



メディア・コミュニケーション  
研究院教授に

ながしま みおり  
**長島 美織 氏**

国際広報メディア専攻  
公共伝達論分野

**最終学歴**

マサチューセッツ工科大学大学院博士課程修了（平成3年6月）  
Ph.D.（言語学・哲学博士）（マサチューセッツ工科大学）

**専門分野**

リスク社会論



メディア・コミュニケーション  
研究院教授に

にしむら りゅういち  
**西村 龍一 氏**

国際広報メディア専攻  
メディア文化論分野

**生年月日**

昭和35年 6月10日

**最終学歴**

東京大学大学院修士課程修了（昭和63年3月）  
文学修士（東京大学）

**専門分野**

ドイツ文学，メディア文化論



メディア・コミュニケーション  
研究院教授に

やまだ さわあき  
**山田 澤明 氏**

国際広報メディア専攻  
国際広報論分野

**生年月日**

昭和30年 1月2日

**最終学歴**

東京工業大学大学院修士課程修了（昭和54年3月）  
修士（工学）（東京工業大学）

**専門分野**

企業広報



工学研究院附属エネルギー・  
マテリアル融合領域研究センター教授に

しばやま たまき  
**柴山 環樹 氏**

量子エネルギー変換材料分野

**最終学歴**

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成4年3月）  
博士（工学）（北海道大学）

**専門分野**

量子ビームによるナノ材料の創成と物性の評価，  
複合量子ビーム超高压電子顕微鏡



触媒化学研究センター教授に

しみず けんいち  
**清水 研一 氏**

触媒基礎研究部  
触媒物質化学研究部門

**生年月日**

昭和46年 6月21日

**最終学歴**

名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）  
工学博士（名古屋大学）

**専門分野**

触媒化学



国際本部留学生センター  
教授に

たかはし あや  
**高橋 彩 氏**

国際本部留学生センター

**生年月日**

昭和42年 3月 2日

**最終学歴**

Royal Holloway, University of London博士課程修了  
Ph.D. (University of London) (平成11年 9月)

**専門分野**

国際教育, ジェンダー史



安全衛生本部教授に

いしい てつや  
**石井 哲也 氏**

安全衛生本部

**生年月日**

昭和45年 3月 2日

**最終学歴**

名古屋大学大学院農学研究科博士前期課程修了 (平成7年 3月)  
博士 (農学) (北海道大学)

**専門分野**

生命倫理学, 医療社会学



国際連携研究教育局教授に

アーナブ ペイン  
**Arnab Pain 氏**

人獣共通感染症グローバルステーション  
アブドラ国王科学技術大学ユニット

**生年月日**

1966年 5月 28日

**最終学歴**

英国ケンブリッジ大学 博士 (1996年 1月)

**専門分野**

病原体ゲノム, ゲノム疫学



新任部課長等紹介

平成27年4月1日付



総務企画部長に  
みなと きみお  
**湊 公夫 氏**

昭和37年 7月24日生  
昭和58年 4月 北海道教育大学  
昭和62年10月 東京工業大学  
平成 3年 1月 文部省体育局学校健康教育課  
平成 4年 4月 文部省大臣官房人事課  
平成 7年 4月 日本芸術文化振興会新国立劇場準備室庶務係長  
平成 9年 4月 日本芸術文化振興会新国立劇場部管理第一係長  
平成 9年 9月 文部省大臣官房人事課審査班審査第三係長  
平成11年 4月 文部省大臣官房人事課任用班任用第一係長  
平成14年 4月 小樽商科大学総務課長  
平成16年 4月 東京医科歯科大学総務課長  
平成16年10月 文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐  
平成18年 4月 独立行政法人日本芸術文化振興会新国立劇場部管理課長  
平成20年 4月 衆議院調査局文部科学調査室調査員  
平成23年 4月 福井大学総務部長  
平成25年 4月 横浜国立大学総務部長



学務部長に  
でぐち としひさ  
**出口 寿久 氏**

昭和37年 7月 2日生  
昭和56年 4月 国立曾爾少年自然の家  
昭和57年 9月 国立青少年センター  
昭和62年 2月 文部省社会局社会教育課  
昭和63年 7月 文部省生涯局学習情報課  
平成 4年 4月 文部省生涯局生涯学習振興課  
平成 6年 1月 文部省生涯局生涯学習振興課総務係主任  
平成 7年 4月 文部省生涯局学習情報課学習情報係長  
平成 9年 4月 文部省生涯局青少年教育課庶務係長  
平成10年 6月 文部省生涯局社会教育課庶務・助成係長  
平成12年 4月 文部省生涯局生涯学習振興課総務係長  
平成13年 1月 文部科学省生涯局政策課総務係長  
平成14年 4月 山口大学主計課長  
平成16年 4月 山口大学財務課長  
平成17年 4月 文部科学省生涯局政策課専門官  
平成17年10月 独立行政法人国立青少年センター調整官  
平成18年 4月 独立行政法人国立青少年教育振興機構総務企画課長  
平成18年10月 文部科学省生涯局社会教育課ボランティア活動推進専門官  
平成20年 4月 文部科学省生涯局社会教育課地域・学校支援推進室補佐  
平成21年 4月 文部科学省生涯局参事官付参事官補佐  
平成22年 4月 和歌山大学生涯学習教育研究センター教授・センター長  
平成22年 7月 和歌山大学地域連携・生涯学習センター教授・センター長  
平成25年 1月 文部科学省初等中等教育局参事官付学校運営支援企画官  
平成25年 3月 佛光大学大学院教育学研究科修士課程修了



施設部長に  
さかもと つとむ  
**佐々木 力 氏**

昭和33年 3月 8日生  
昭和51年 3月 東京工業大学工学部附属工業高等学校卒業  
昭和51年 4月 東京工業大学施設部建築課  
昭和54年 4月 東京工業大学総合理工学研究科等経理課  
昭和55年 4月 東京工業大学施設部建築課  
昭和61年12月 文部省大臣官房文教施設部技術課  
昭和62年 4月 文部省大臣官房会計課用度班  
平成元年 4月 文部省大臣官房文教施設部技術課  
平成 2年 1月 文部省大臣官房文教施設部技術課建築第二係主任  
平成 3年 4月 文部省大臣官房文教施設部技術課専門職員  
平成 6年 4月 国立教育会館会計課次長  
平成 9年 4月 文部省大臣官房文教施設部指導課専門職員(兼)防災推進係長  
平成12年 4月 新潟大学施設部建築課長  
平成14年 4月 筑波大学施設部企画課長  
平成16年 2月 東北大学施設部企画課長  
平成16年 4月 東北大学施設部計画課長  
平成17年10月 文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官付参事官補佐  
平成18年 9月 防衛施設庁業務部提供施設課課長補佐  
平成19年 9月 防衛省地方協力局提供施設課防衛部員  
平成20年 8月 琉球大学施設運営部長  
平成23年 4月 佐賀大学環境施設部長  
平成25年 4月 群馬大学施設運営部長



総務企画部総務課長に  
さかもと ひでたか  
**坂本 秀敬 氏**

昭和43年10月15日生  
放送大学教養学部卒業  
昭和62年 6月 京都大学医学部病院医事課  
平成 3年 1月 京都大学情報処理課  
平成 4年 4月 文部省大臣官房政策課情報処理室  
平成10年10月 文部省大臣官房政策課情報処理室情報化振興係主任  
平成11年 4月 文部省体育局体育課企画係主任  
平成11年10月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画事業課企画広報係主任  
平成12年 4月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画事業課情報管理係長  
平成13年 4月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画運営課情報管理係長  
平成14年 4月 文部科学省高等教育局医学教育課庶務係長  
平成16年 4月 文部科学省高等教育局学生支援課地域交流推進係長  
平成17年 4月 文部科学省高等教育局学生支援課専門職  
平成17年10月 文部科学省高等教育局学生支援課厚生係長(併)活動支援係長  
平成19年 4月 東北大学学生支援課長  
平成22年 4月 独立行政法人日本学生支援機構情報システム開発課長(併)業務・システム最適化推進室副室長  
平成24年 4月 文部科学省大臣官房政策課情報化推進室情報システム専門官  
平成26年 4月 文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室外国人学生指導専門官



学務部入試課長に

まとの ゆうじ  
的野 裕司 氏

昭和39年11月23日生  
 昭和58年6月 帯広畜産大学  
 昭和63年4月 東京大学庶務部人事課（文部省併任）  
 昭和63年10月 文部省大臣官房総務課文書管理班  
 平成元年8月 文部省大臣官房総務課審議班  
 平成3年4月 文部省大臣官房総務課法令審議室  
 平成4年4月 文部省初等中等教育局高等学校課  
 平成5年4月 文部省初等中等教育局職業教育課  
 平成8年1月 文部省初等中等教育局職業教育課主任  
 平成8年11月 放送大学学園教務部修学指導課学習指導係長  
 平成10年4月 文部省初等中等教育局教科書課主任  
 平成11年4月 文部省初等中等教育局教科書課調査係長  
 平成12年4月 北海道大学学務部教務課共通教育掛主任  
 平成14年4月 北海道大学法学研究科・法学部教務掛主任  
 平成15年4月 釧路工業高等専門学校学生課教務係長  
 平成18年4月 北海道大学文学研究科・文学部教務係長  
 平成21年4月 北海道大学学務部教務課係長（教務企画担当）  
 平成24年4月 北海道大学学務部教務課課長補佐  
 平成26年4月 北海道大学学務部学務企画課課長補佐



研究推進部産学連携課長に

いとう つねあき  
伊藤 恒明 氏

昭和35年9月生  
 昭和58年3月 小樽商科大学短期大学部卒業  
 昭和59年4月 小樽商科大学  
 平成7年4月 北海道大学  
 平成12年4月 函館工業高等専門学校会計課総務係長  
 平成15年4月 北海道大学法学研究科・法学部会計掛長  
 平成18年4月 同 経理課支出第二係長  
 平成19年4月 苫小牧工業高等専門学校総務課長  
 平成22年4月 帯広畜産大学財務課長  
 平成24年4月 旭川医科大学会計課長



施設部環境配慮促進課長に

しばた ひろし  
柴田 大 氏

昭和35年4月8日生  
 昭和58年3月 北海学園大学工学部卒業  
 昭和58年8月 北海道大学施設部建築課  
 昭和62年4月 文部省大臣官房文教施設部指導課  
 平成3年4月 文部省教育助成局施設助成課  
 平成4年1月 文部省教育助成局施設助成課災害復旧係主任  
 平成5年4月 文部省教育助成局施設助成課技術係主任  
 平成6年4月 文部省教育助成局施設助成課専門職員  
 平成7年4月 文部省大臣官房文教施設部指導課専門職員  
 平成9年4月 文部省大臣官房文教施設部指導課指導第二係長  
 平成11年4月 文部省大臣官房文教施設部技術課土木係長  
 平成15年4月 弘前大学施設部建築課長  
 平成16年4月 弘前大学施設環境部整備計画課長  
 平成17年10月 弘前大学施設環境部施設企画課長  
 平成18年10月 群馬大学施設運営部施設企画課長  
 平成22年4月 一橋大学財務部施設課長  
 平成26年4月 電気通信大学施設課長



附属図書館管理課長に

あいはら ゆきの  
相原 雪乃 氏

昭和37年生  
 昭和60年3月 図書館情報大学卒業  
 昭和60年4月 神戸大学附属図書館整理課  
 平成2年7月 学術情報センター管理部  
 平成8年4月 学術情報センター目録情報課相互協力係長  
 平成11年4月 学術情報センター研修課指導第二係長  
 平成12年4月 国立情報学研究所成果普及課専門研修係長  
 平成14年4月 北海道大学附属図書館情報管理課雑誌受入掛長  
 平成17年4月 国立情報学研究所企画調整課補佐  
 平成18年4月 国立情報学研究所コンテンツ課補佐（目録情報担当）  
 平成19年4月 国立情報学研究所学術コンテンツ課副課長  
 （図書館連携チーム）  
 平成20年4月 千葉大学情報部情報サービス課長  
 平成22年4月 京都大学附属図書館情報サービス課長  
 平成25年4月 国立情報学研究所学術コンテンツ課長



附属図書館学術システム課長に

きしもと かずし  
岸本 一志 氏

昭和39年 5月生  
昭和62年 3月 札幌大学経済学部卒業  
昭和62年 4月 北海道大学応用電気研究所  
平成 3年 4月 北海道大学附属図書館情報管理課  
平成 5年 4月 北海道大学附属図書館情報システム課  
平成10年 4月 北海道大学附属図書館情報管理課  
平成12年 4月 八戸工業高等専門学校庶務課図書係長  
平成15年 4月 旭川医科大学図書課情報サービス係長  
平成16年 4月 旭川医科大学図書課情報サービス係長  
平成18年 4月 北海道大学附属図書館情報サービス課相互利用係長  
平成19年 4月 北海道大学附属図書館情報サービス課係長  
平成21年 4月 北海道大学附属図書館学術システム課係長  
平成22年 4月 室蘭工業大学図書・学術情報室事務室長  
平成22年 7月 室蘭工業大学図書・学術情報室ユニットマネージャー  
平成25年 4月 北見工業大学情報図書課長



医学系事務部総務課長に

さとう こうじ  
佐藤 浩司 氏

昭和36年 6月29日生  
昭和55年 4月 北海道大学  
昭和60年 3月 北海学園大学法学部卒業  
平成12年 4月 室蘭工業大学総務課人事係長  
平成15年 4月 北海道大学理学研究科・理学部専門職員  
平成18年 4月 北海道大学総務部人事課給与第一係長  
平成19年 4月 北海道大学総務部人事課係長  
平成21年 4月 北海道大学工学系事務部総務課課長補佐  
平成23年 4月 北海道大学国際本部国際連携課課長補佐  
平成26年 4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐



函館キャンパス事務部事務長に

ももやま こうき  
桃山 光樹 氏

昭和38年 6月13日生  
昭和57年 4月 北海道大学医学部附属病院総務課  
平成14年 4月 帯広畜産大学総務課人事係長  
平成16年 4月 帯広畜産大学企画総務部総務課人事係長  
平成17年 4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター専門職員  
平成19年 4月 北海道大学総務部人事課係長  
平成21年 4月 帯広畜産大学企画総務部総務課課長補佐  
平成23年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐



薬学事務部事務長に

なかた ゆうじ  
中田 雄二 氏

昭和37年 6月16日生  
昭和56年 4月 釧路工業高等専門学校会計課  
平成 4年 5月 釧路工業高等専門学校学生課  
平成 7年 4月 釧路工業高等専門学校会計課  
平成 9年10月 釧路工業高等専門学校会計課出納係出納主任  
平成10年10月 釧路工業高等専門学校学生課教務係教務主任  
平成15年 4月 北海道大学低温科学研究所会計掛主任  
平成18年 4月 北海道大学薬学事務部会計係長  
平成21年 4月 釧路工業高等専門学校総務課課長補佐  
平成23年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐  
平成26年 7月 北海道大学財務部経理課課長補佐



北海道大学病院総務課長に

おおいし かずひろ  
大石 和博 氏

昭和31年 9月 6日生  
昭和62年 1月 北海道教育大学  
平成12年 4月 国立大雪青年の家庶務課会計係長  
平成15年 4月 北海道教育大学経理部主計課管財係長  
平成16年 4月 北海道教育大学財務部財務課専門職  
平成17年 4月 北海道教育大学財務部施設課主査  
平成18年 7月 北海道教育大学財務部情報化推進室主査  
平成19年 4月 釧路工業高等専門学校総務課長  
平成21年 4月 小樽商科大学学務課長  
平成23年 4月 室蘭工業大学総務グループマネジャー（兼）企画・評価室ユニットマネジャー  
平成25年 4月 旭川医科大学総務部総務課長



北海道大学病院経営企画課長に

いりさわ ひでつぐ  
入澤 秀次 氏

昭和38年 7月10日生  
昭和57年 4月 北海道大学  
平成14年 4月 北海道大学経理部第一契約課専門職員  
平成16年 4月 北海道大学財務部主計課第二予算掛長  
平成17年 4月 北海道大学財務部主計課第一予算係長  
平成18年 4月 北海道大学財務部主計課予算第二係長  
平成19年 4月 北海道大学財務部主計課係長（総括予算担当）  
平成21年 4月 小樽商科大学財務課課長代理  
平成23年 4月 北海道大学財務部主計課課長補佐



北海道大学病院管理課長に

よしだ しげる  
吉田 茂 氏

昭和41年 7月19日生  
昭和63年 4月 旭川工業高等専門学校  
平成 6年 4月 放送大学学園  
平成 8年 4月 文部省大臣官房会計課管財班  
平成 9年 7月 文部省大臣官房会計課宿舍班主任  
平成10年 4月 文部省大臣官房経理班経理第二係主任  
平成12年 8月 文部省大臣官房経理班経理第二係長  
平成15年 4月 文部科学省初等中等教育局施設助成課執行第一係長  
平成16年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課執行第一係長  
平成17年 4月 帯広畜産大学企画総務部財務課長  
平成17年10月 帯広畜産大学企画総務部財務課長（兼）監査室長  
平成19年 4月 帯広畜産大学企画総務部財務課長  
平成20年 4月 北海道教育大学財務部財務課長（兼）監査室長  
平成21年 4月 北海道教育大学財務部財務課長  
平成22年 4月 室蘭工業大会計課長  
平成22年 7月 室蘭工業大学財務グループマネジャー  
平成24年 4月 北見工業大学財務課長



国際本部国際教務課長に

はぎはら たかし  
萩原 隆史 氏



# 資料

## 平成27年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		道内・道外人数		道内・道外比率		卒業年度別人数		卒業年度別比率		その他			
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	27年3月卒業	過年度卒業	27年3月卒業	過年度卒業	人数	比率		
総合入試文系	100	105	29	22	82	21.0%	78.1%	75	29	71.4%	27.6%	1	1.0%		
総合入試理系	数学重点選抜群	130	137	24	43	31.4%	68.6%	91	46	66.4%	33.6%	0	0.0%		
	物理重点選抜群	235	244	23	100	41.0%	59.0%	141	103	57.8%	42.2%	0	0.0%		
	化学重点選抜群	235	238	66	99	41.6%	57.6%	141	95	59.2%	39.9%	2	0.8%		
	生物重点選抜群	177	185	66	42	22.7%	77.3%	115	70	62.2%	37.8%	0	0.0%		
	総合科学選抜群	250	266	96	81	30.5%	69.5%	165	101	62.0%	38.0%	0	0.0%		
	計	1,027	1,070	275	365	703	34.1%	65.7%	653	415	61.0%	38.8%	2	0.2%	
文学部	155	156	70	70	84	44.9%	53.8%	117	37	75.0%	23.7%	2	1.3%		
教育学部	30	32	18	17	15	53.1%	46.9%	28	4	87.5%	12.5%	0	0.0%		
法学部	180	180	65	87	92	48.3%	51.1%	136	43	75.6%	23.9%	1	0.6%		
経済学部	160	167	36	90	77	53.9%	46.1%	112	55	67.1%	32.9%	0	0.0%		
理学部	数学科	13	13	0	1	11	7.7%	84.6%	9	3	69.2%	23.1%	1	7.7%	
	物理学科	10	10	1	3	7	30.0%	70.0%	8	2	80.0%	20.0%	0	0.0%	
	化学科	23	23	3	8	15	34.8%	65.2%	10	13	43.5%	56.5%	0	0.0%	
	生物科学科	生物学専修分野	10	11	2	2	8	18.2%	72.7%	7	3	63.6%	27.3%	1	9.1%
		高分子機能学専修分野	5	5	2	0	5	0.0%	100.0%	4	1	80.0%	20.0%	0	0.0%
	小計	15	16	4	2	13	12.5%	81.3%	11	4	68.8%	25.0%	1	6.3%	
	地球惑星科学科	10	11	0	1	10	9.1%	90.9%	8	3	72.7%	27.3%	0	0.0%	
計	71	73	8	15	56	20.5%	76.7%	46	25	63.0%	34.2%	2	2.7%		
医学部	医学科	102	103	20	51	50	49.5%	48.5%	46	55	44.7%	53.4%	2	1.9%	
	保健学科	看護学専攻	67	75	68	60	15	80.0%	20.0%	53	22	70.7%	29.3%	0	0.0%
		放射線技術科学専攻	35	35	16	31	4	88.6%	11.4%	16	19	45.7%	54.3%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	37	19	26	11	70.3%	29.7%	14	23	37.8%	62.2%	0	0.0%
		理学療法専攻	17	17	10	11	6	64.7%	35.3%	9	8	52.9%	47.1%	0	0.0%
		作業療法専攻	17	17	14	11	5	64.7%	29.4%	11	5	64.7%	29.4%	1	5.9%
	小計	171	181	127	139	41	76.8%	22.7%	103	77	56.9%	42.5%	1	0.6%	
計	273	284	147	190	91	66.9%	32.0%	149	132	52.5%	46.5%	3	1.1%		
歯学部	43	43	18	15	28	34.9%	65.1%	13	30	30.2%	69.8%	0	0.0%		
薬学部	24	24	9	4	20	16.7%	83.3%	7	17	29.2%	70.8%	0	0.0%		
工学部	応用理工系学科	38	40	8	11	24	27.5%	60.0%	20	15	50.0%	37.5%	5	12.5%	
	情報エレクトロニクス学科	38	39	5	8	26	20.5%	66.7%	25	9	64.1%	23.1%	5	12.8%	
	機械知能工学科	30	33	3	5	24	15.2%	72.7%	17	12	51.5%	36.4%	4	12.1%	
	環境社会工学科	53	56	13	13	38	23.2%	67.9%	23	28	41.1%	50.0%	5	8.9%	
	計	159	168	29	37	112	22.0%	66.7%	85	64	50.6%	38.1%	19	11.3%	
農学部	53	56	15	4	50	7.1%	89.3%	27	27	48.2%	48.2%	2	3.6%		
獣医学部	35	37	15	3	34	8.1%	91.9%	25	12	67.6%	32.4%	0	0.0%		
水産学部	175	180	31	61	118	33.9%	65.6%	97	82	53.9%	45.6%	1	0.6%		
現代日本学プログラム	-	16	11	-	-	-	-	-	-	-	-	16	100.0%		
合計	2,485	2,591	776	980	1,562	37.8%	60.3%	1,570	972	60.6%	37.5%	49	1.9%		

※その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生である。

(学務部入試課)



## 平成27年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	980	650	330	37.8%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	133	96	37	5.1%
----	-----	----	----	------

青森県	24	15	9
-----	----	----	---

岩手県	18	12	6
-----	----	----	---

宮城県	37	27	10
-----	----	----	----

秋田県	21	17	4
-----	----	----	---

山形県	15	9	6
-----	----	---	---

福島県	18	16	2
-----	----	----	---

関東	547	396	151	21.1%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	35	25	10
-----	----	----	----

栃木県	25	20	5
-----	----	----	---

群馬県	33	22	11
-----	----	----	----

埼玉県	70	63	7
-----	----	----	---

千葉県	63	50	13
-----	----	----	----

東京都	225	142	83
-----	-----	-----	----

神奈川県	96	74	22
------	----	----	----

北陸・中部	366	268	98	14.1%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	30	21	9
-----	----	----	---

富山県	28	22	6
-----	----	----	---

石川県	52	30	22
-----	----	----	----

福井県	8	6	2
-----	---	---	---

山梨県	5	5	0
-----	---	---	---

長野県	35	29	6
-----	----	----	---

岐阜県	12	8	4
-----	----	---	---

静岡県	82	59	23
-----	----	----	----

愛知県	114	88	26
-----	-----	----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	323	241	82	12.5%
----	-----	-----	----	-------

三重県	20	13	7
-----	----	----	---

滋賀県	14	9	5
-----	----	---	---

京都府	52	37	15
-----	----	----	----

大阪府	90	63	27
-----	----	----	----

兵庫県	103	82	21
-----	-----	----	----

奈良県	23	20	3
-----	----	----	---

和歌山県	21	17	4
------	----	----	---

中国・四国	111	80	31	4.3%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	8	4	4
-----	---	---	---

島根県	5	2	3
-----	---	---	---

岡山県	13	13	0
-----	----	----	---

広島県	34	25	9
-----	----	----	---

山口県	9	7	2
-----	---	---	---

徳島県	6	4	2
-----	---	---	---

香川県	8	6	2
-----	---	---	---

愛媛県	22	15	7
-----	----	----	---

高知県	6	4	2
-----	---	---	---

九州・沖縄	82	57	25	3.2%
-------	----	----	----	------

福岡県	30	20	10
-----	----	----	----

佐賀県	5	4	1
-----	---	---	---

長崎県	7	6	1
-----	---	---	---

熊本県	5	3	2
-----	---	---	---

大分県	4	2	2
-----	---	---	---

宮崎県	5	3	2
-----	---	---	---

鹿児島県	12	9	3
------	----	---	---

沖縄県	14	10	4
-----	----	----	---

その他	49	27	22	1.9%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	8	6	2
---------------	---	---	---

帰国子女入試	4	2	2
--------	---	---	---

外国人留学生	37	19	18
--------	----	----	----

入学者数合計	2,591	1,815	776
--------	-------	-------	-----

※地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

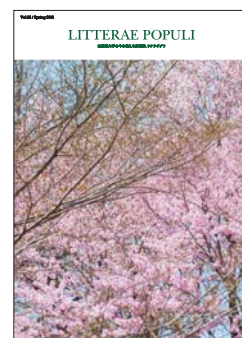
## 編集メモ

---

●広報誌「リテラポプリ」55号を発行しました。

今回の特集ページでは“広がり”をテーマに、「スーパーグローバル大学創成支援&北海道大学近未来戦略150」「双方向遠隔授業」「アグリフードセンター」を取り上げ、本学を多面的に紹介しています。また、キャンパス風景では春の訪れや初夏の雰囲気を感じられる写真を掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆ <http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>





2010.4.24 室蘭本線 北舟岡～伊達紋別（伊達市）

## 北の鉄道風景 25 車窓に映る夕日

春分の日を過ぎると日没時間は日に日に遅くなり、春分の日から1ヶ月ほどが経過した4月末での日の入りは18時30分頃になる。この時期の黄昏時に、噴火湾沿いの室蘭本線を往く列車の車窓からは、海の向こうに沈み行く夕日を眺められる。写真は上野行き寝台特急列車「カシオペア」である。海辺にある北舟岡駅を同列車が通過するシーンを後

追いで狙ってみたところ、偶然ではあるが、噴火湾に落ちる夕日を車窓に写しこむことができた。この車窓の向こうで、乗客も夕暮れの情景を愉しんでいることであろう。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ④ No.733 平成27年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html